

投資信託に関するアンケート調査

報告書

2020年2月



一般社団法人
投資信託協会

<目 次>

1. 調査計画の概要	3
2. 調査結果の要約	6
3. 回答者のプロフィール	17
(1)性別・年代〔Q30〕〔Q31〕	18
(2)職業〔Q32〕	20
(3)金融資産の保有経験〔Q1〕	22
(4)投資信託の保有状況〔Q2〕	23
(5)世帯年収〔Q33①〕	25
(6)個人年収〔Q33②〕	27
(7)保有金融資産額〔Q34〕	28
4. 投資信託保有状況（現在保有層）	30
(1)投資信託の保有口座〔Q3〕	31
(2)投資信託の保有種類〔Q6〕	32
(3)投資信託の購入額〔Q7〕	33
(4)現在保有している投資信託の本数〔Q4〕	34
(5)投資信託商品の直近購入時期〔Q5〕	35
(6)投資信託の積立投資の利用状況〔Q19〕	36
(7)毎月分配型投資信託の保有状況〔Q22〕	38
(8)トータルリターン通知制度の認知状況〔Q26〕	42

<目 次>

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）	43
(1)投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8〕	44
(2)投資信託の購入目的〔Q9〕	46
(3)投資信託購入時参考情報〔Q11〕	48
(4)投資信託購入の際の重視点／今後の重視点〔Q10①②〕	50
(5)分配金の特徴認知状況〔Q13〕	54
(6)償還・売却資金の流出先〔Q14〕	56
(7)投資信託の優れていると感じる点／特に魅力を感じる点〔Q15①②〕	58
(8)投資信託で不満を感じる点／特に不満を感じる点〔Q16①②〕	62
6. 投資信託保有未経験者の状況	66
(1)投資信託の非購入理由〔Q28〕	67
(2)投資信託購入検討のきっかけ〔Q29〕	69
7. 投資信託全般に関する状況（全体）	71
(1)投資信託の商品特徴認知状況〔Q12〕	72
(2)毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q23〕	75
(3)毎月分配型投資信託商品の魅力点〔Q24〕	77
(4)毎月分配型投資信託商品の非魅力点〔Q25〕	79
(5)積立投資プランの内容認知〔Q20〕	81
(6)ドル・コスト平均法の内容認知〔Q21〕	82
(7)投資信託運用会社に対する考え〔Q17〕	84
(8)投資信託購入の際の、運用会社の重視点〔Q18〕	85
(9)投資信託のコスト特徴認知状況〔Q27〕	86

* 末尾添付資料：調査票

1. 調査計画の概要



1. 調査計画の概要

調査の目的	全国の20歳～79歳の男女個人を対象に、投資信託の保有状況や特徴認知、満足度、積立投資の認知などを把握すると同時に、投資信託保有未経験層に対しては、非購入理由や購入検討のきっかけを確認することで、「貯蓄から資産形成へ」の流れを促進するための課題を探り、今後の投資信託の利用拡大及び啓発普及活動に役立つ資料とすること。																																																																																						
調査手法	インターネット調査（抽出フレーム：NRCネットワークパネル） ※ インターネット調査のモニターは、一般的に情報感度が高い事が確認されており、金融商品（投資信託）においては保有率や制度認知が郵送調査モニターなどに比べて高めに出る傾向にあります。 また、今回パネルが変更となったため、前回までとデータ傾向の異なる箇所があります。																																																																																						
調査地域	全国（首都圏、阪神圏、その他地域の3ブロック）																																																																																						
調査対象	20～79歳の男女																																																																																						
サンプル数	<p>総計20,000サンプル</p> <ul style="list-style-type: none"> * 性・年代・エリアで割付実施（割付は平成30年1月1日現在の住民基本台帳に基づく）。 * 職業条件による除外は実施していない。 <p><性・年代・エリアごとの回収数詳細></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>20-29歳</th> <th>30-39歳</th> <th>40-49歳</th> <th>50-59歳</th> <th>60-69歳</th> <th>70-79歳</th> <th>20-79歳計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">男性</td> <td>首都圏</td> <td>415</td> <td>515</td> <td>651</td> <td>508</td> <td>467</td> <td>388</td> <td>2,944</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>192</td> <td>222</td> <td>297</td> <td>236</td> <td>245</td> <td>210</td> <td>1,402</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>729</td> <td>892</td> <td>1,106</td> <td>947</td> <td>1,109</td> <td>819</td> <td>5,602</td> </tr> <tr> <td colspan="2">男性計</td> <td>1,336</td> <td>1,629</td> <td>2,054</td> <td>1,691</td> <td>1,821</td> <td>1,417</td> <td>9,948</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">女性</td> <td>首都圏</td> <td>397</td> <td>482</td> <td>605</td> <td>469</td> <td>475</td> <td>449</td> <td>2,877</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>192</td> <td>225</td> <td>302</td> <td>243</td> <td>266</td> <td>252</td> <td>1,480</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>685</td> <td>851</td> <td>1,069</td> <td>958</td> <td>1,159</td> <td>973</td> <td>5,695</td> </tr> <tr> <td colspan="2">女性計</td> <td>1,274</td> <td>1,558</td> <td>1,976</td> <td>1,670</td> <td>1,900</td> <td>1,674</td> <td>10,052</td> </tr> <tr> <td colspan="2">TOTAL</td> <td>2,610</td> <td>3,187</td> <td>4,030</td> <td>3,361</td> <td>3,721</td> <td>3,091</td> <td>20,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ エリアの定義とエリア計での回収数は以下の通り。 首都圏：東京、神奈川、埼玉、千葉／計5,821サンプル 阪神圏：大阪、京都、兵庫、奈良／計2,882サンプル その他地域：上記以外の都道府県／計11,297サンプル</p>			20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計	男性	首都圏	415	515	651	508	467	388	2,944	阪神圏	192	222	297	236	245	210	1,402	その他地域	729	892	1,106	947	1,109	819	5,602	男性計		1,336	1,629	2,054	1,691	1,821	1,417	9,948	女性	首都圏	397	482	605	469	475	449	2,877	阪神圏	192	225	302	243	266	252	1,480	その他地域	685	851	1,069	958	1,159	973	5,695	女性計		1,274	1,558	1,976	1,670	1,900	1,674	10,052	TOTAL		2,610	3,187	4,030	3,361	3,721	3,091	20,000
		20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計																																																																															
男性	首都圏	415	515	651	508	467	388	2,944																																																																															
	阪神圏	192	222	297	236	245	210	1,402																																																																															
	その他地域	729	892	1,106	947	1,109	819	5,602																																																																															
男性計		1,336	1,629	2,054	1,691	1,821	1,417	9,948																																																																															
女性	首都圏	397	482	605	469	475	449	2,877																																																																															
	阪神圏	192	225	302	243	266	252	1,480																																																																															
	その他地域	685	851	1,069	958	1,159	973	5,695																																																																															
女性計		1,274	1,558	1,976	1,670	1,900	1,674	10,052																																																																															
TOTAL		2,610	3,187	4,030	3,361	3,721	3,091	20,000																																																																															
調査時期	2019年11月13日（水）～ 11月18日（月）																																																																																						
調査主体	一般社団法人 投資信託協会																																																																																						
調査実施機関	株式会社日本リサーチセンター																																																																																						

1. 調査計画の概要

<分析軸の内容>

分析軸		カテゴリー	備考	
基本軸 1	性別	1 男性	Q30の調査結果から作成	
		2 女性		
	年代別	1 20代	Q31の調査結果から作成	
		2 30代		
		3 40代		
		4 50代		
		5 60代		
		6 70代		
	世帯年収別	1 100万円未満	Q33①の調査結果から作成	
		2 ~300万円		
		3 ~500万円		
		4 ~1000万円		
		5 ~1000万円以上		
	基本軸 2	投資信託 保有状況別	1 現在保有層	Q2で投資信託を「1.現在保有している」回答者
			2 保有経験層（現在非保有）	Q2で投資信託を「2.以前保有していたが、現在は保有していない」回答者
3 保有未経験層（金融資産保有経験有）			Q2で投資信託を「3.今まで保有したことはない」且つQ1で金融資産を「1.保有したことがある」回答者	
4 保有未経験層（金融資産保有経験無）			Q2で投資信託を「3.今まで保有したことはない」且つQ1で金融資産を「2.保有したことはない」回答者	
投資信託 現在保有種類別		1 株式投資信託保有層	Q6現在保有投資信託商品で「1.国内株式に投資する投資信託」か「3.外国株式に投資する投資信託」の回答者	
		2 その他投資信託保有層	Q6現在保有投資信託商品で「2.国内債券に投資する投資信託」、「4.外国債券（国債、ハイールド債等）に投資する投資信託」から「9.不動産投信〔J-リート〕」までのいずれかの回答者 ※但し、上記の「株式投資信託保有層」は除く	

2. 調査結果の要約



2. 調査結果の要約

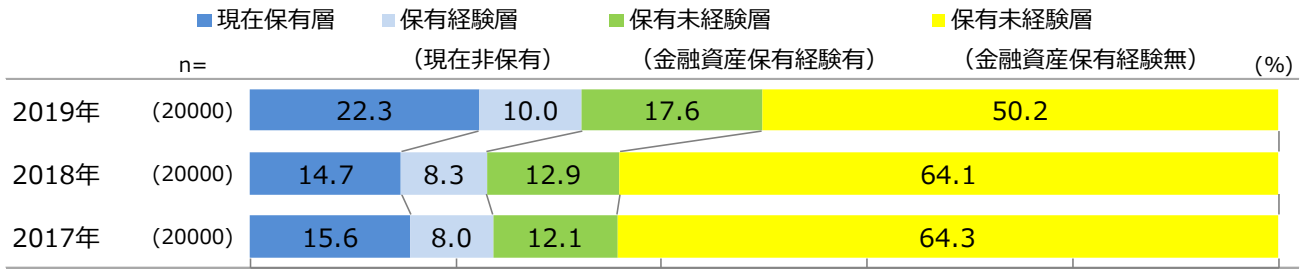
投資信託の保有経験／投資信託現在保有層の「保有種類」

■ 投資信託の現在保有率は22.3%。

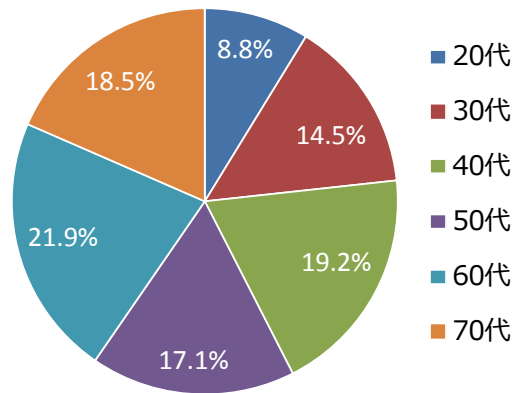
現在保有層は60・70代が約40%と高齢層の比率が高いが、40・50代も約36%とこれに迫る。

※今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる（以下も同様）。

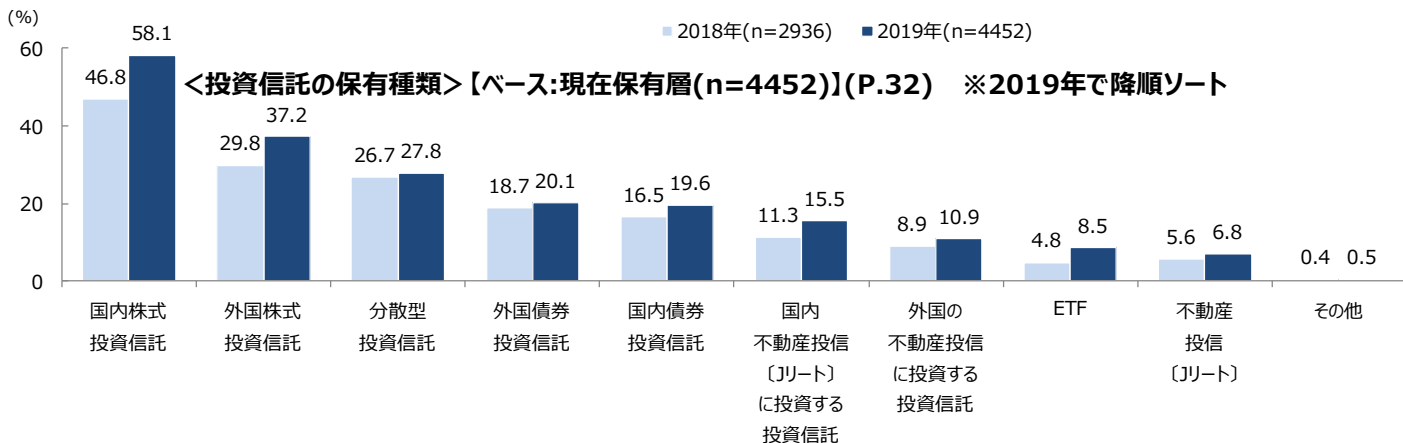
＜投資信託の保有経験＞【ベース：TOTAL】(P.18)



＜投資信託現在保有層の年代構成＞【ベース：現在保有層(n=4452)】(P.18)



■ 現在保有層が保有している投信の種類は「国内株式投信」が最多。 保有種類数は平均で「2.25種類」となる。



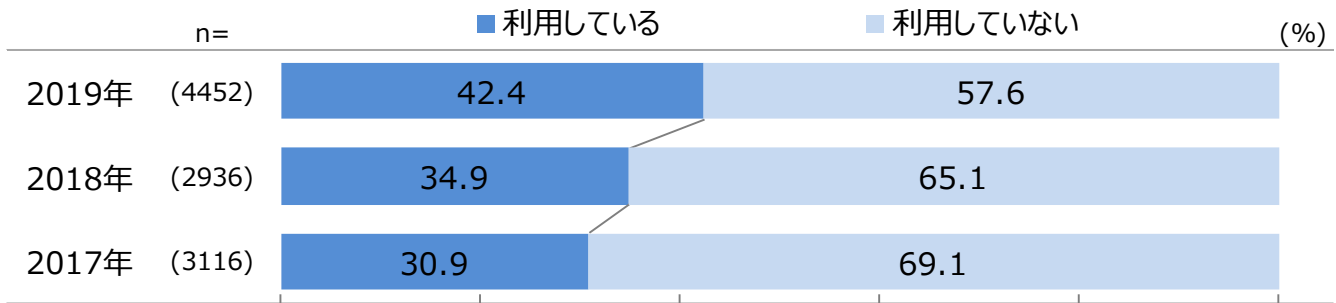
2. 調査結果の要約

投資信託現在保有層の「積立投資」利用状況、「毎月分配型投資信託」の保有状況／「トータルリターン通知制度」の認知状況

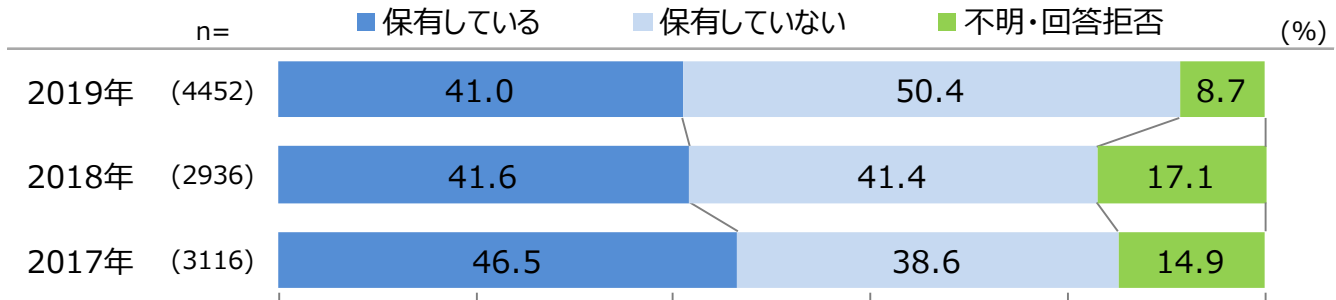
- 積立投資の利用は前回より増加し、約42%となる。
毎月分配型投資信託は前回同様、41%が保有している。
トータルリターンの認知度は約44%で、2017年と同水準。

・ 積立投資は若年層ほど利用が多く、20代では約67%が利用している。一方、毎月分配型商品は高齢層ほど利用が多く、70代では約54%と半数超が保有している。〔P36,38〕

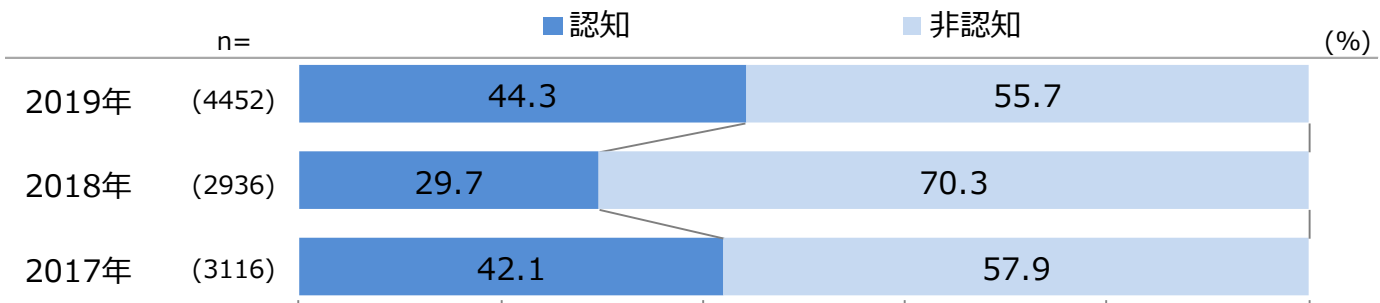
＜積立投資の利用有無＞【ベース:現在保有層】(P.36)



＜毎月分配型投資信託の保有状況＞【ベース:現在保有層】(P.38)



＜トータルリターンの認知＞【ベース:現在保有層】(P.42)



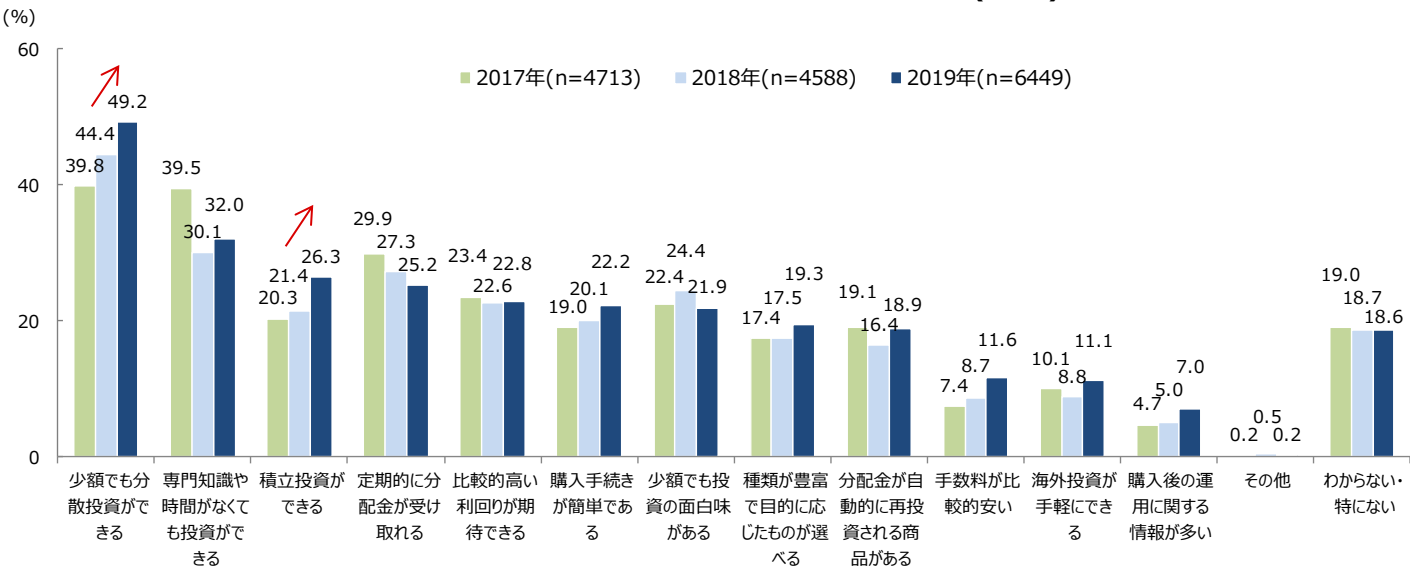
2. 調査結果の要約

他の金融商品に比べて投資信託商品の「優れている点、不満点」

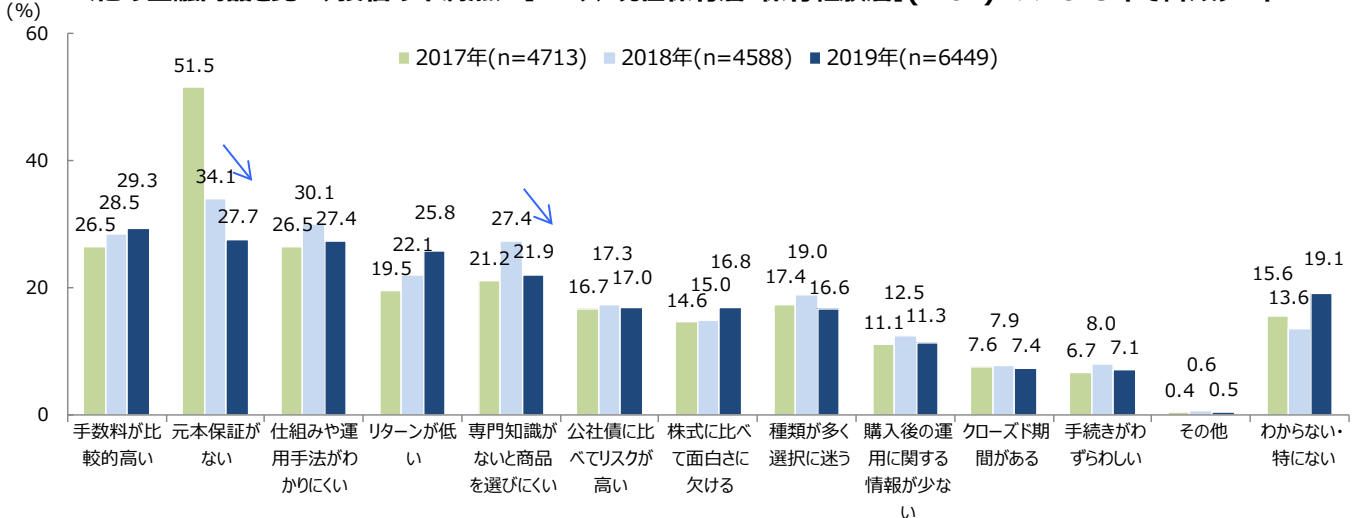
- 投資信託の優れている点／不満点は前回同様、「少額でも分散投資できる」「専門知識や時間がなくても投資できる」が上位。一方、「手数料が比較的高い」「元本保証がない」「仕組み・運用手法がわかりにくい」ことへの不満が強い。
- 前回からの変動をみると、優れている点は「少額でも分散投資ができる」「積立投資ができる」が増加。不満点は「元本保証がない」「専門知識がないと選びにくい」が減少。

- ・ 優れている点では、若年層ほど「少額でも分散投資できる」「積立投資ができる」「少額でも投資の面白味がある」「手数料が比較的低い」が高く、高齢層ほど「定期的に分配金が受け取れる」が高くなる。〔P58〕

＜他の金融商品と比べ、投信の優れている点＞【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.58) ※2019年で降順ソート



＜他の金融商品と比べ、投信の不満点＞【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.62) ※2019年で降順ソート



2. 調査結果の要約

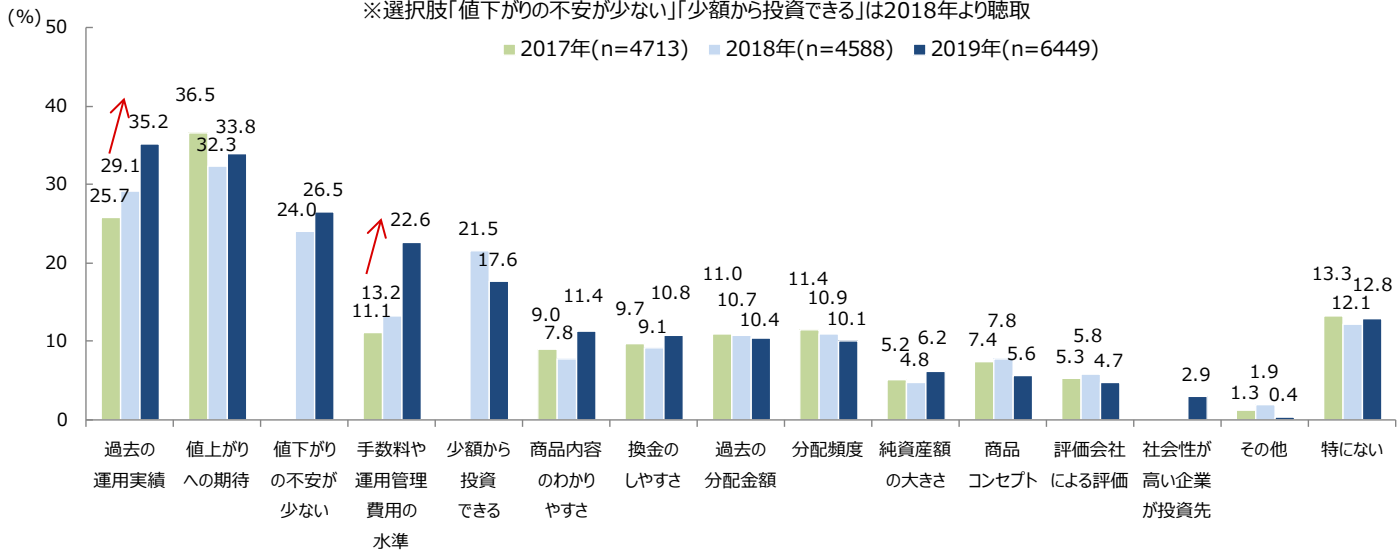
投資信託の購入時重視点、今後購入時重視点

- 投資信託の購入時重視点は、「過去の運用実績」「値上がりへの期待」、今後購入時では「値上がりへの期待」「過去の運用実績」「値下がりへの不安が少ない」が上位。
- 前回からの変動をみると、購入時重視点は「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」が増加し、実績やコスト重視が強まっている。一方、今後購入時は「値下がりへの不安が少ない」が減少し、値下がりへのリスクに対して許容する向きがみられる。

・ 「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」「少額から投資できる」は若年層ほど重視する様子。〔P50,52〕

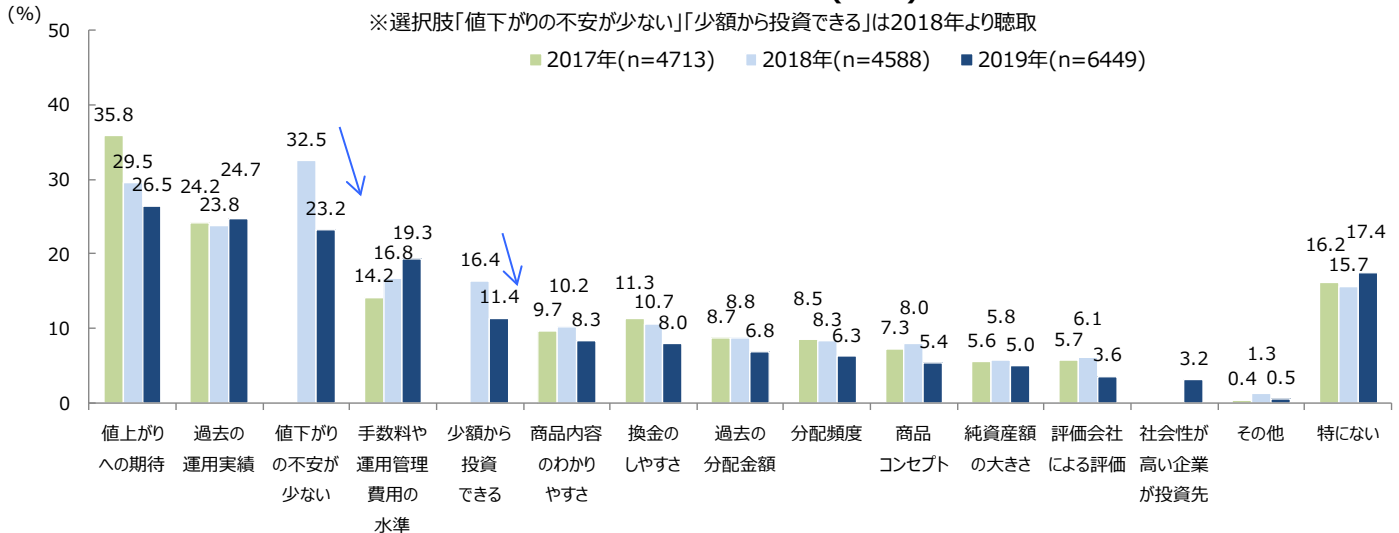
<購入時重視点>【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.50) ※2019年で降順にソート

※選択肢「値下がりへの不安が少ない」「少額から投資できる」は2018年より聴取



<今後購入時重視点>【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.52) ※2019年で降順にソート

※選択肢「値下がりへの不安が少ない」「少額から投資できる」は2018年より聴取



2. 調査結果の要約

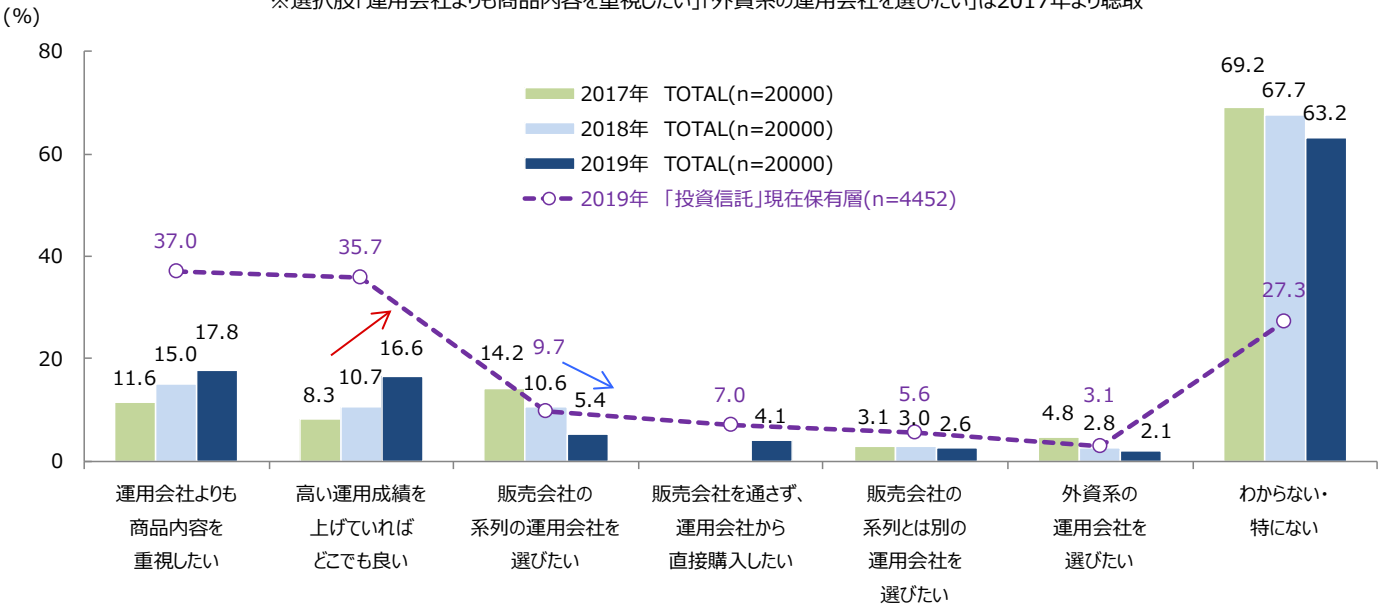
投資信託運用会社に対する考え／投資信託購入の際の運用会社重視点

- 投資信託の運用会社選択は、「運用会社より商品内容を重視」「高い運用成績を上げていればどこでも良い」が上位で後者は前回に比べて増加。一方、「販売会社系列を選びたい」は減少し、内容・実績を選択ポイントとしている様子。
- 運用会社重視点では、「知名度」「アフターサービス」といった比較的理解が容易な項目について前回よりやや減少。

・ 投信現在保有層・保有経験層は「運用実績」の重視度が60%程度と高い。〔P85〕

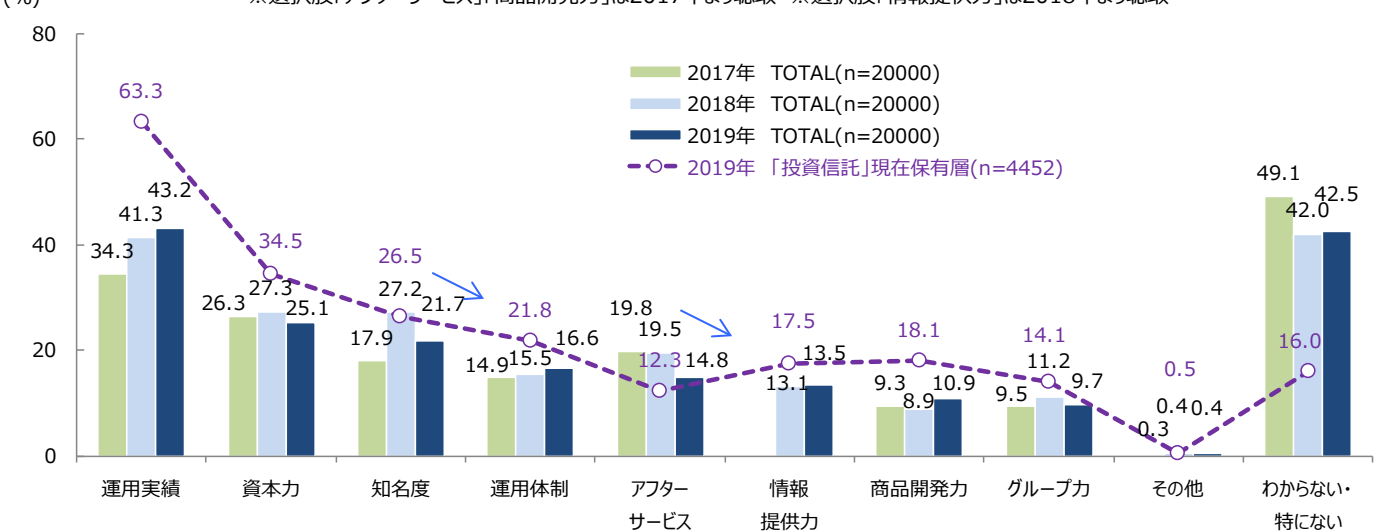
<投資信託の運用会社に対する考え>【ベース：TOTAL／現在保有層】(P.84) ※2019年TOTALで降順にソート

※選択肢「運用会社よりも商品内容を重視したい」「外資系の運用会社を選びたい」は2017年より聴取



<投資信託購入の際の運用会社重視点>【ベース：TOTAL／現在保有層】(P.85) ※2019年TOTALで降順にソート

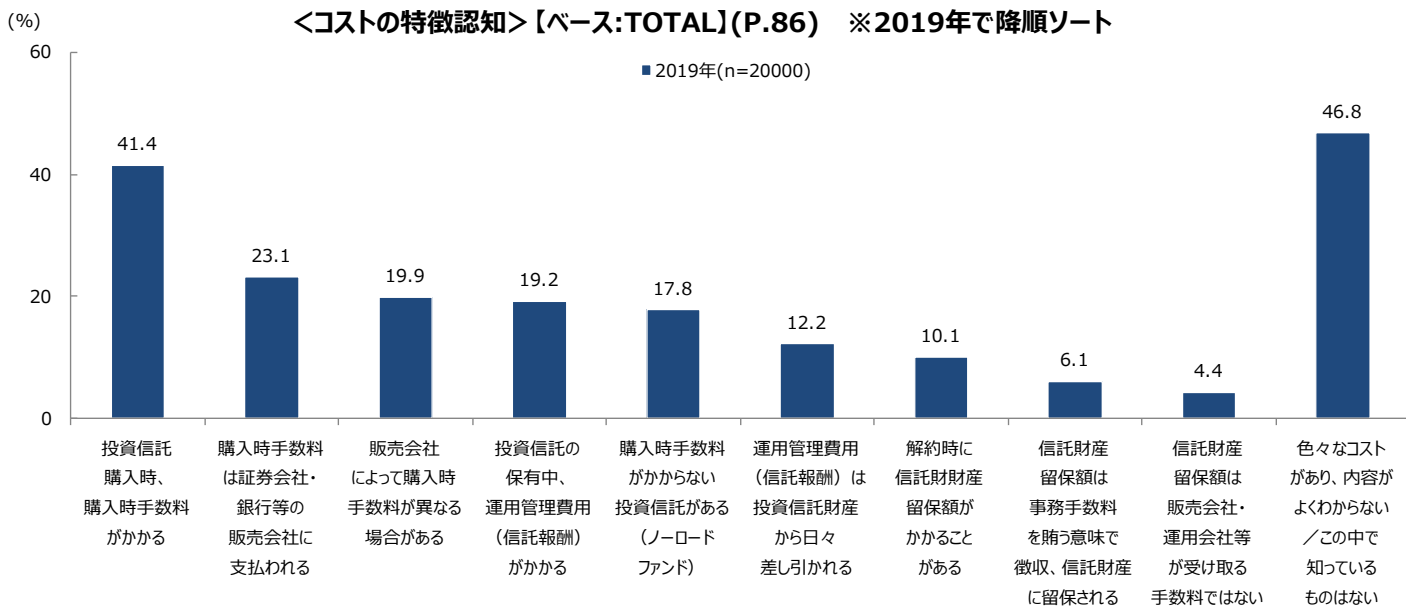
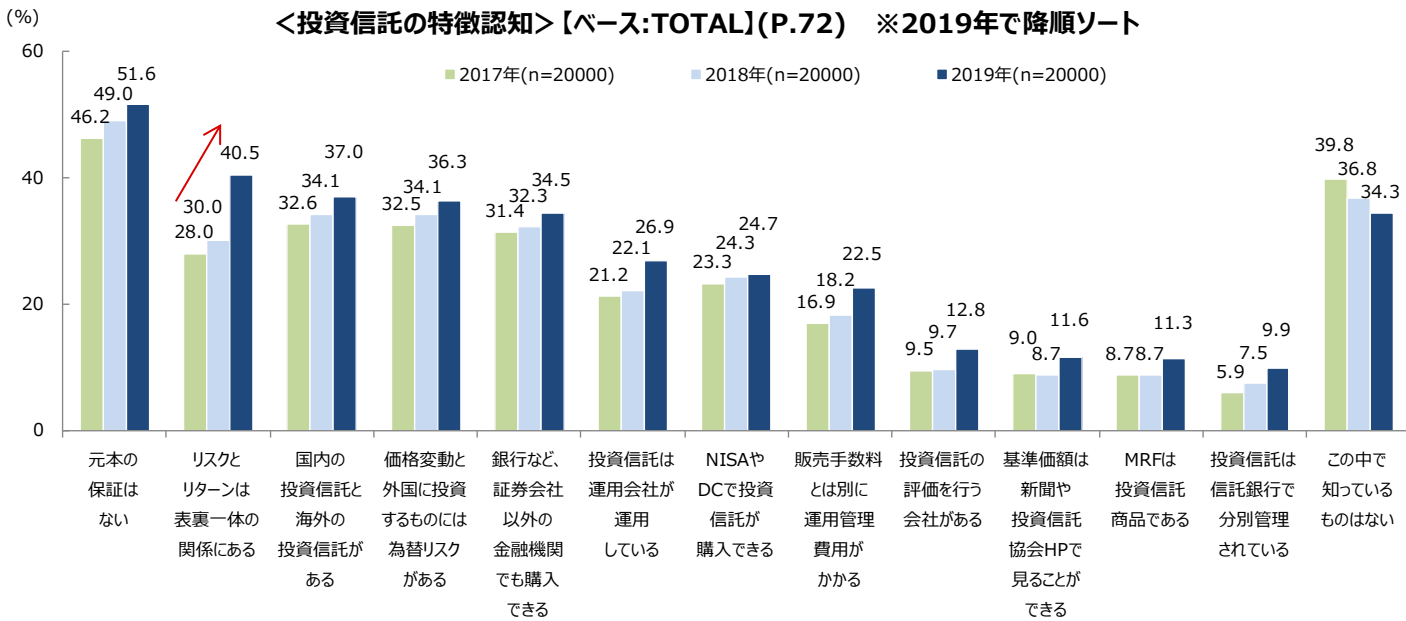
※選択肢「アフターサービス」「商品開発力」は2017年より聴取 ※選択肢「情報提供力」は2018年より聴取



2. 調査結果の要約

投資信託の商品および手数料特徴の認知状況

- 投信商品の特征認知は、前回に比べて僅かずつ高い項目が多いが、中でも「リスクとリターンは表裏一体の関係」は前回より10ポイント以上増加。
- 投信のコスト認知では、「購入時手数料がかかる」が最も高く、「購入時手数料は販売会社に支払われる」「販売会社により購入時手数料が異なる場合がある」「保有中、運用管理費用がかかる」「購入時手数料がかからない投信がある」が上位。



2. 調査結果の要約

投資信託の興味・関心・購入のきっかけ／投資信託購入時参考情報

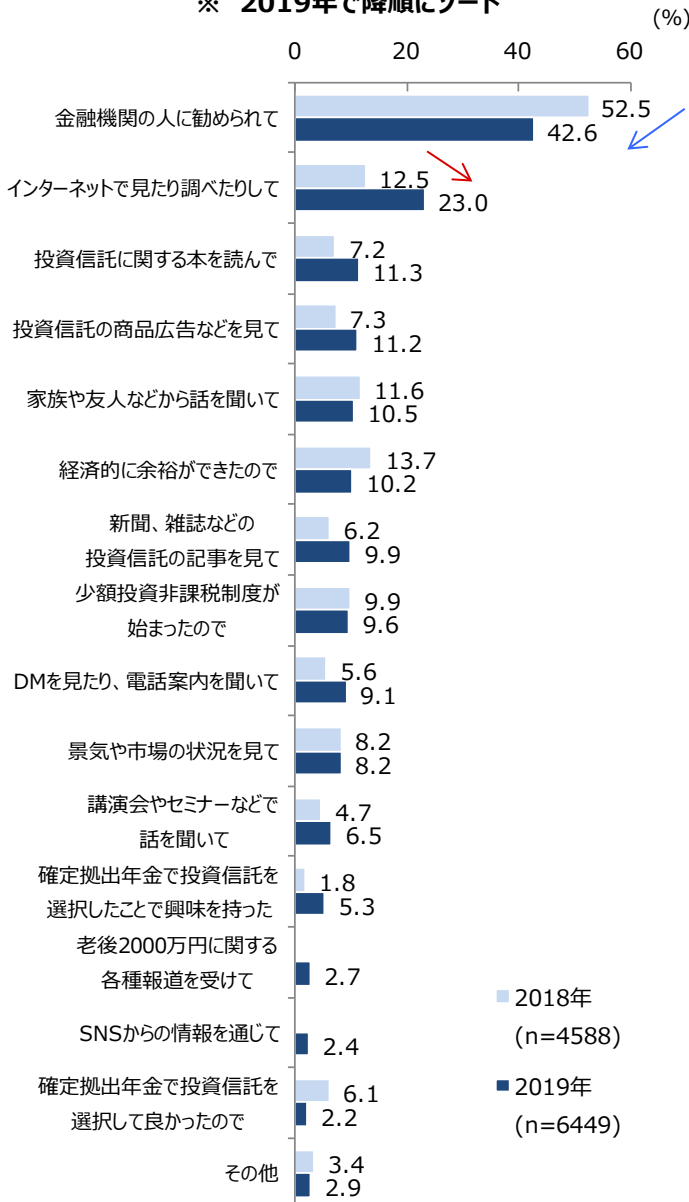
■ 投信の興味・関心・購入のきっかけは「金融機関の人に勧められて」が突出し、「インターネットで見たり調べたりして」が続く。前回に比べて前者が減少、後者は増加。また投信の購入時参考情報は、「金融機関の担当者の話」が前回より減少した一方、いくつかの項目では増加しており、より積極的に情報収集している様子。

- ・ 興味・関心・購入のきっかけは、50代以上では高齢になるほど「金融機関の人に勧められて」が高くなる。「インターネットで見たり調べたりして」「投資信託に関する本を読んで」は40代以下、「少額投資非課税制度が始まったので」「SNSからの情報を通じて」は20・30代で高い傾向。〔P44〕

<投資信託の興味・関心・購入のきっかけ>

【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.44)

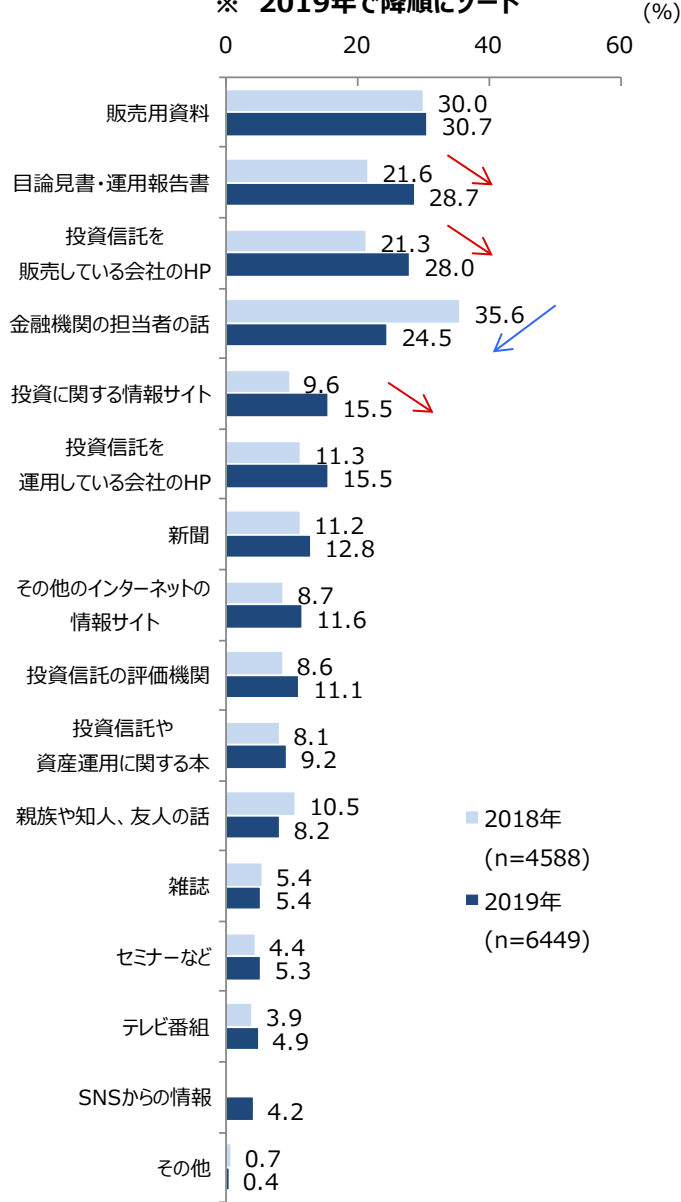
※ 2019年で降順にソート



<投資信託購入時参考情報>

【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.48)

※ 2019年で降順にソート



2. 調査結果の要約

投資信託保有未経験層の非購入理由／投資信託購入検討のきっかけ

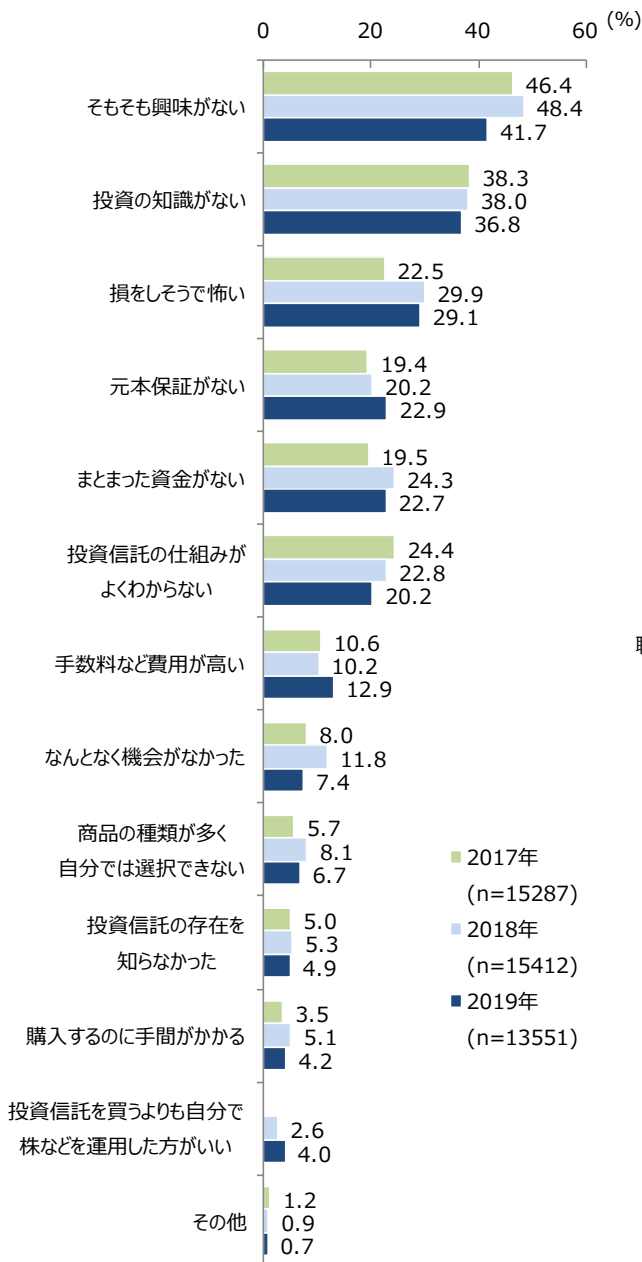
- 投信の非購入理由は、前回同様、「興味の欠如」「投資知識がない」が上位。また投信の購入のきっかけも引き続き分散傾向で、「金融や投資を勉強して理解できたら」「手取り収入が増えたら」「身近な人に勧められたら」が上位。

- ・ 購入検討のきっかけは、若年層ほど「金融や投資方法を勉強して理解したら」「手取り収入が増えたら」「身近な人に勧められたら」「貯蓄が一定額に達したら」「初心者セミナーなどがあれば」「職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら」「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」が高くなる傾向。〔P69〕

<投資信託の非購入理由>【ベース:保有未経験層】

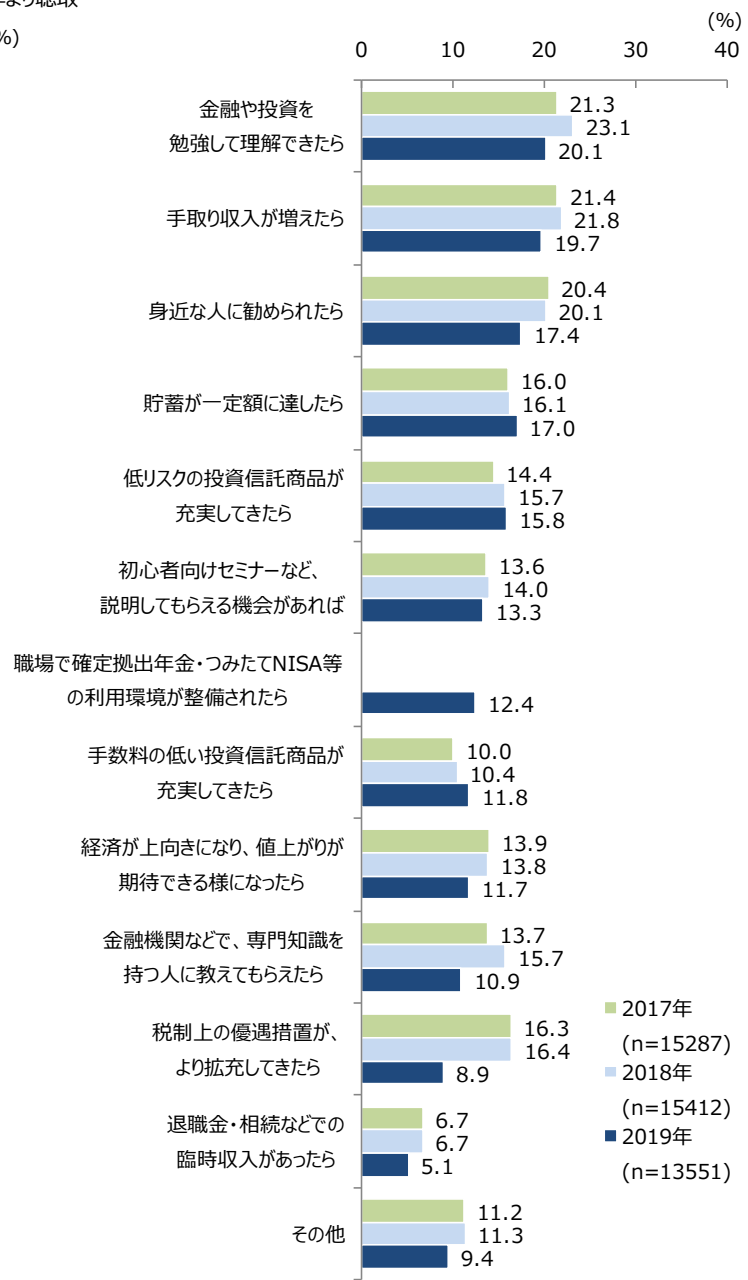
(P.67) ※ 2019年で降順にソート

※選択肢「投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいい」は2018年より聴取



<投資信託の購入検討のきっかけ>【ベース:保有未経験層】

(P.69) ※ 2019年で降順にソート

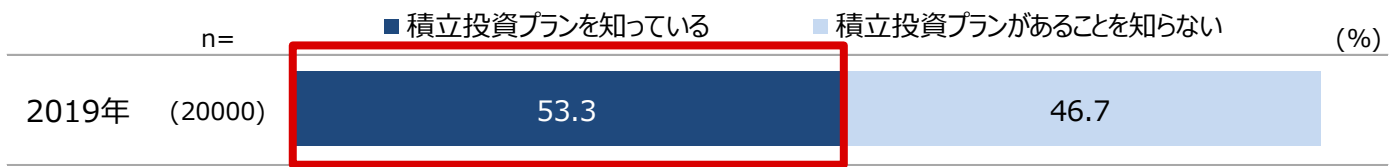


2. 調査結果の要約

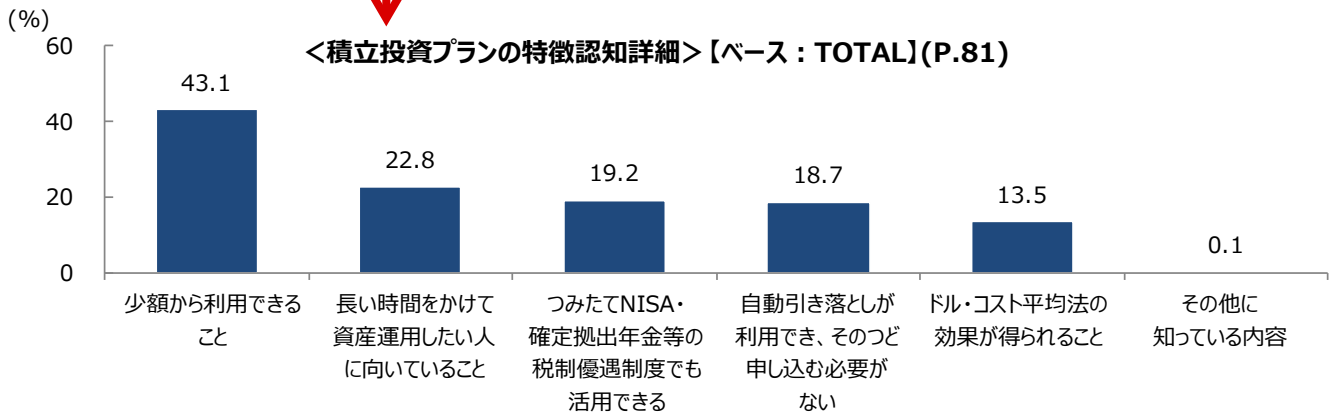
積立投資プランの特徴認知／ドル・コスト平均法の特徴認知

- 積立投資プランは約53%と半数超が存在を認知。
認知内容は「少額から利用できる」が約43%と突出し、それ以外の特性等の認知は20%前後。
- ドル・コスト平均法は内容認知は約33%に留まる。
認知している内容は「投資のリスク軽減法の一つ」が22%で最も高い。

<積立投資プランの特徴認知>【ベース：TOTAL】(P.81)



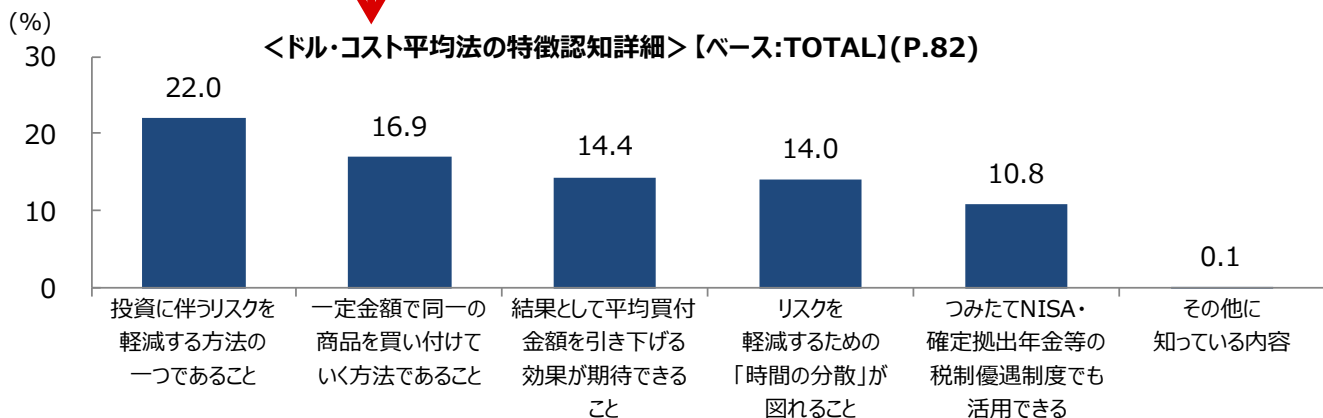
<積立投資プランの特徴認知詳細>【ベース：TOTAL】(P.81)



<ドル・コスト平均法の特徴認知>【ベース：TOTAL】(P.82)



<ドル・コスト平均法の特徴認知詳細>【ベース：TOTAL】(P.82)

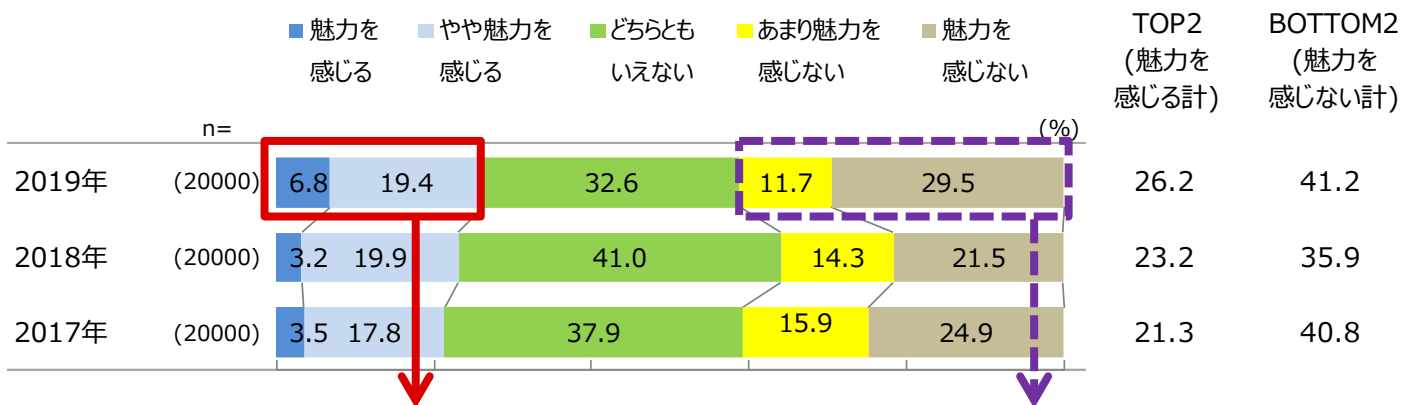


2. 調査結果の要約

毎月分配型投資信託の魅力度とその理由

- 「毎月分配型投資信託」に魅力を感じるのは、約26%程度で、前回は僅かに上回る。
- 魅力層での評価点は、前回同様、「分配金受取の安心感」「毎月利益を確定したい」。一方、非魅力層では「基準価額が下がる」が前回より増加して、最も高い。「元本の一部が払い戻される場合がある」との不満も増加している。

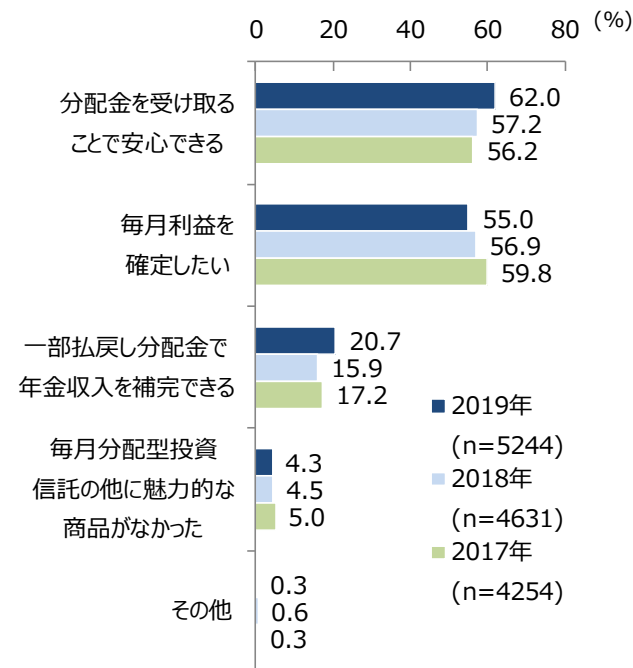
＜毎月分配型投資信託の魅力度＞ (P.75)



＜毎月分配型投資信託の魅力理由＞

【ベース:分配型魅力者】(P.77)

※2019年で降順ソート

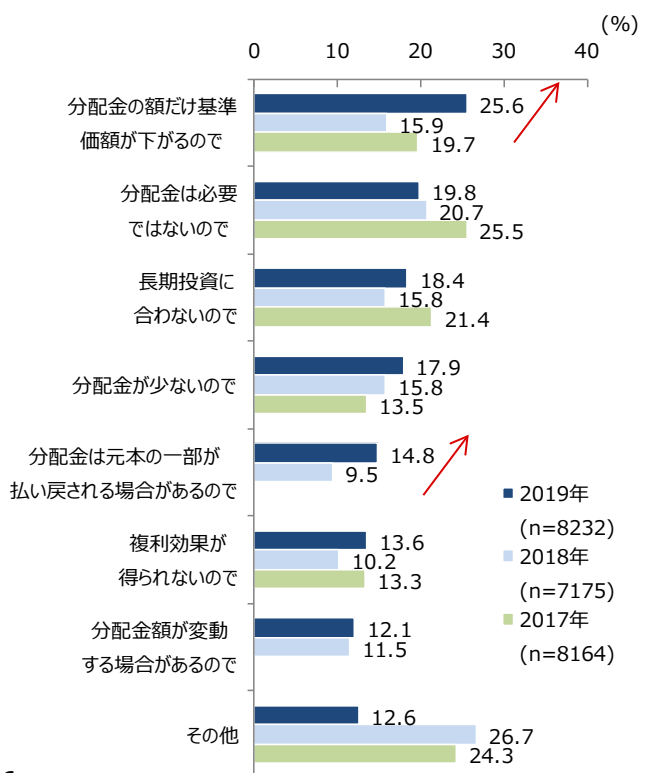


＜毎月分配型投資信託の非魅力理由＞

【ベース:分配型非魅力者】(P.79)

※2019年で降順ソート

※選択肢「分配金額が変動する場合があるので」「分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので」は2018年より聴取



3. 回答者のプロフィール

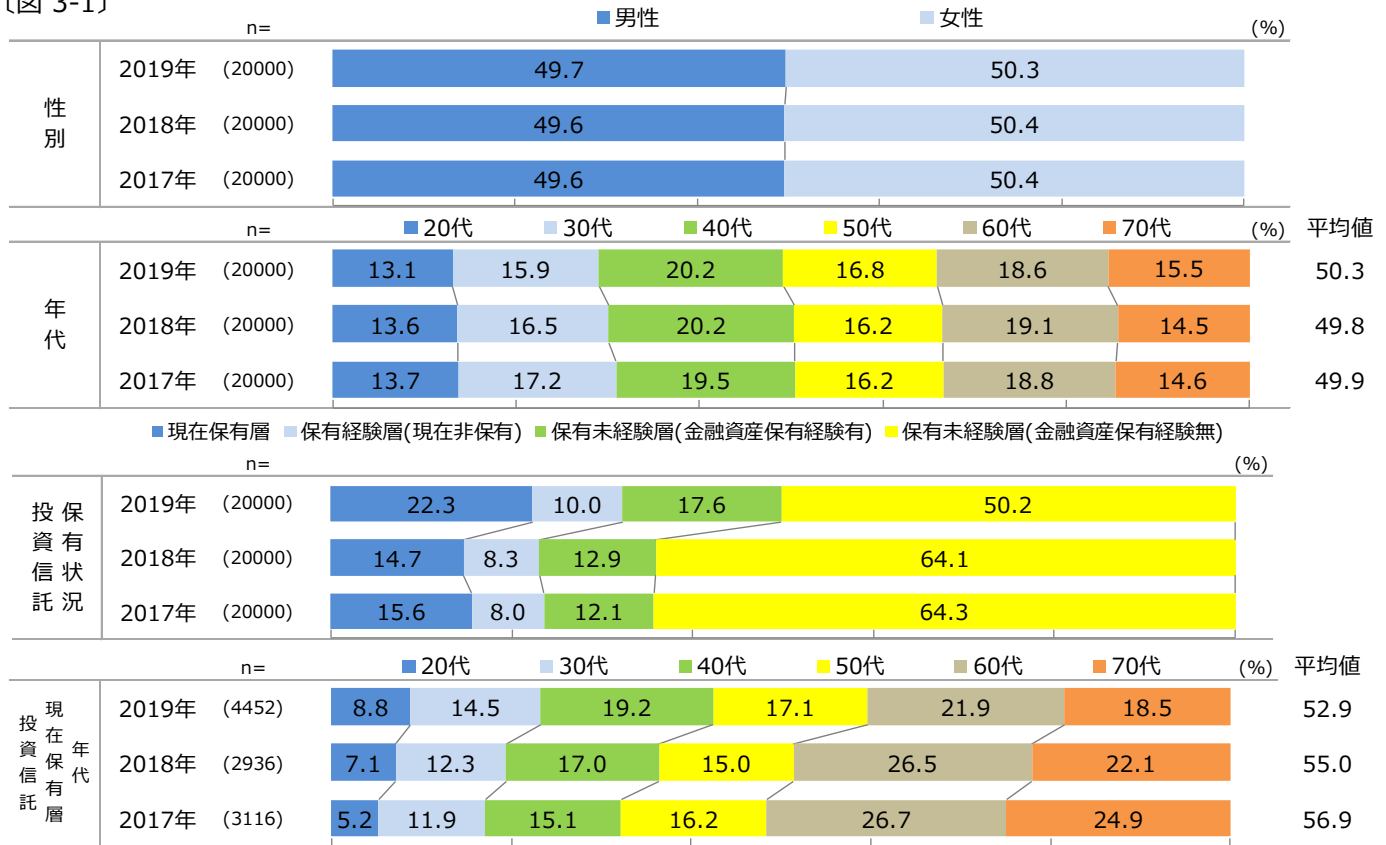


3. 回答者のプロフィール

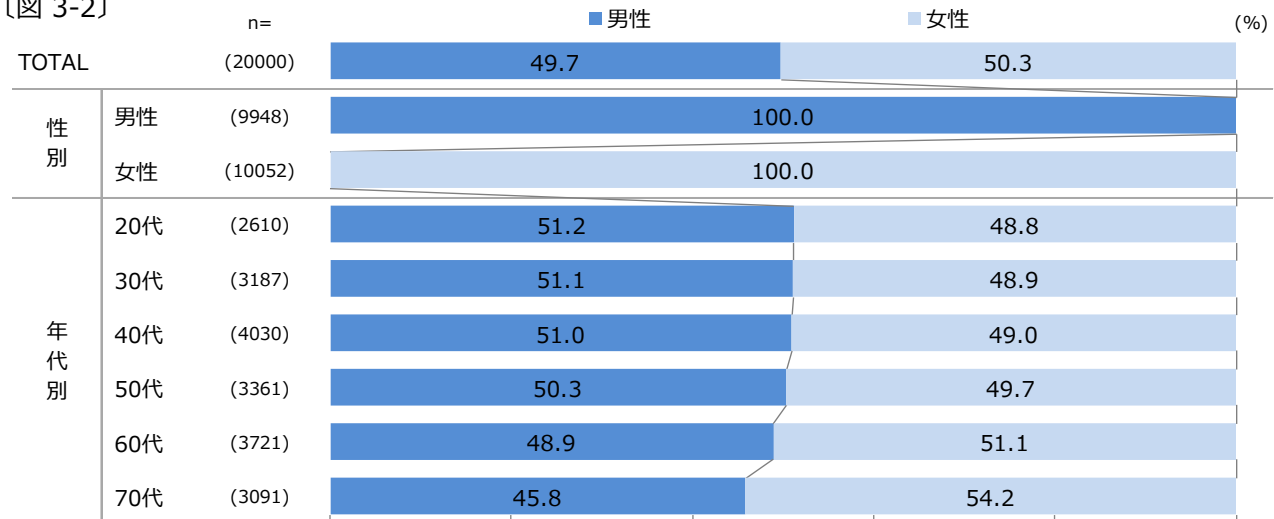
(1) 性別・年代〔Q30:単数回答・Q31:自由記述回答〕

- 回答者の性別は「男性」が49.7%、「女性」が50.3%。年代では「40代」が20.2%で最も高く、平均年齢は50.3歳となる。
- また、投信現在保有層の年代構成をみると、60・70代が合計で40.4%をしめるものの、前回に比べると20～50代の保有率が僅かずつ増えて、投信現在保有層の平均年齢は52.9歳に低下した。〔図3-1〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる

〔図 3-1〕



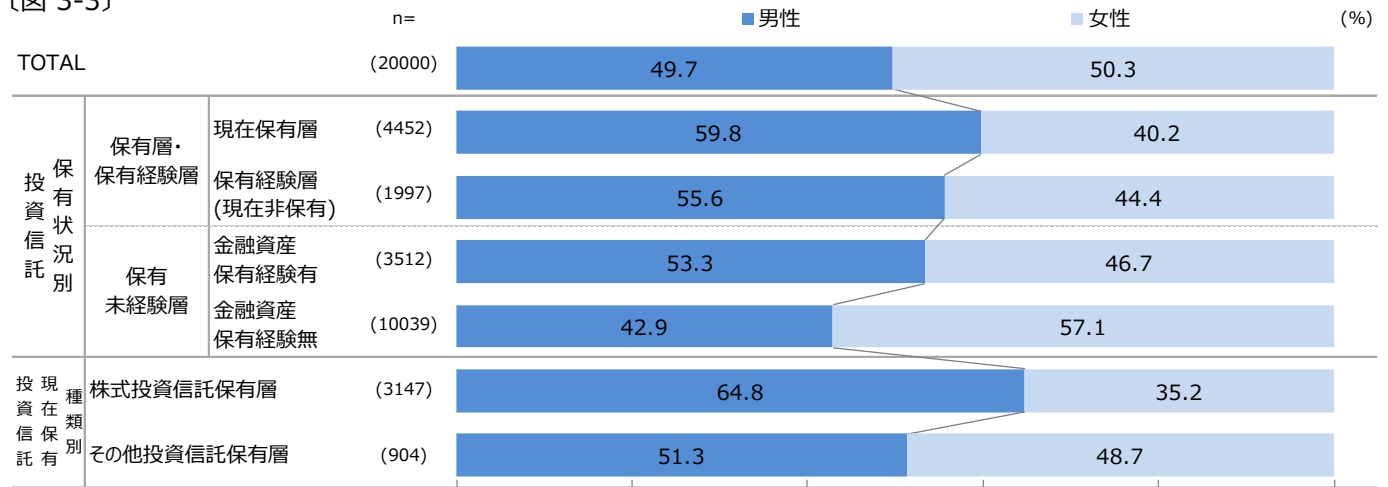
〔図 3-2〕



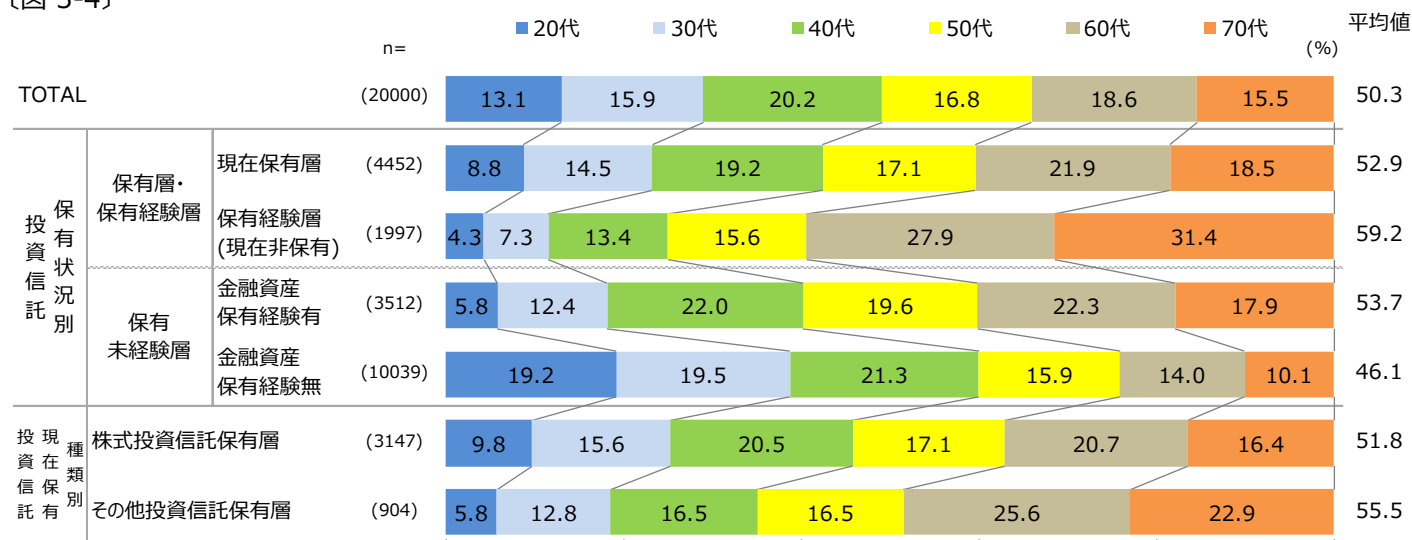
3. 回答者のプロフィール

(1) 性別・年代〔Q30:単数回答・Q31:自由記述回答〕

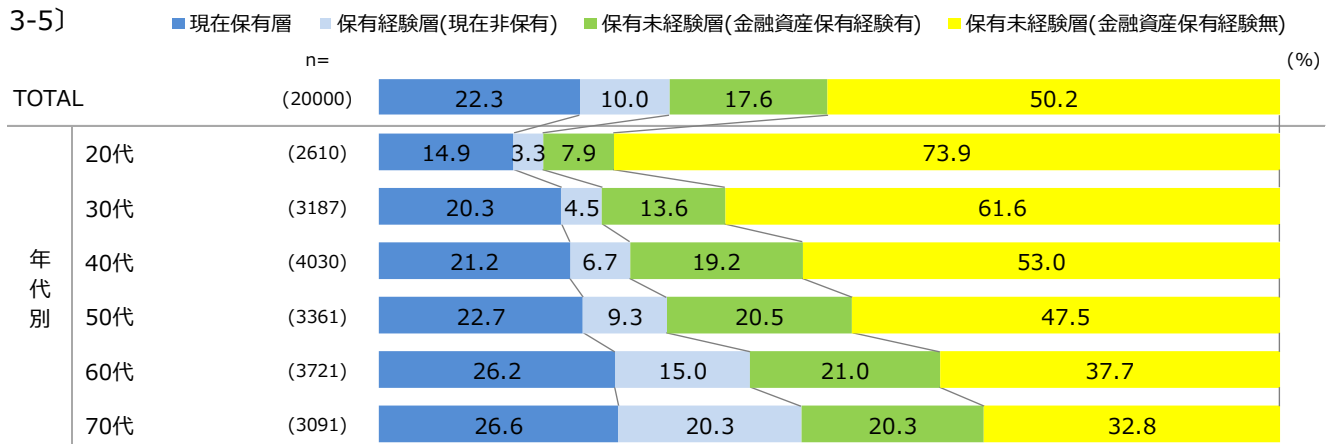
〔図 3-3〕



〔図 3-4〕



〔図 3-5〕

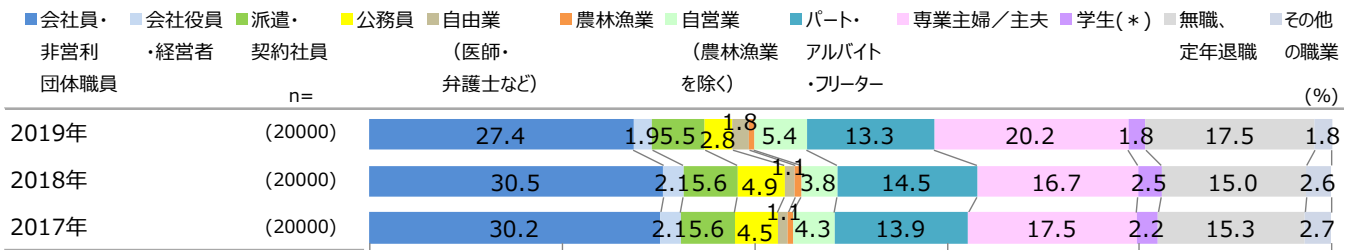


3. 回答者のプロフィール

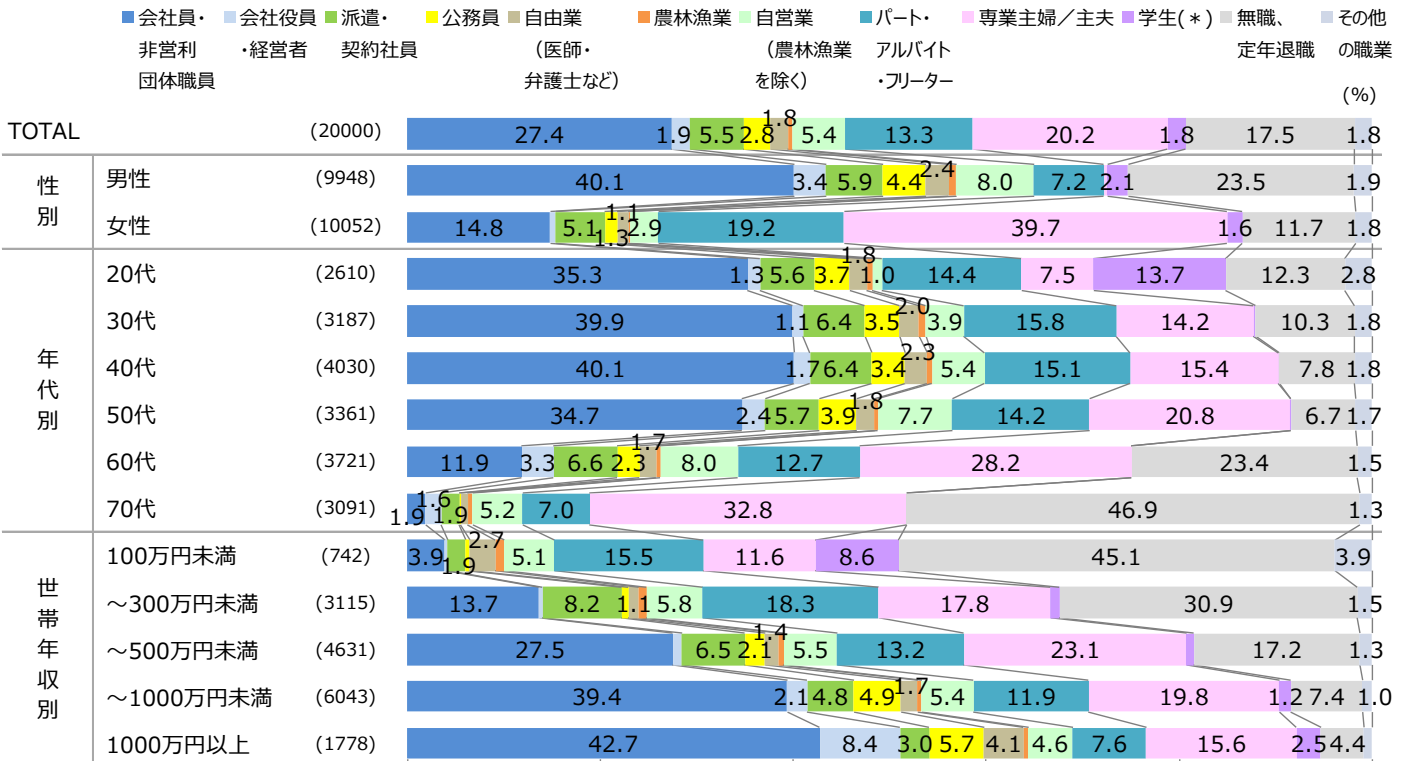
(2) 職業〔Q32:単数回答〕

- 回答者の職業は、前回と同様に「会社員・非営利団体職員」(27.4%)が最も高く、〔図3-6〕世帯年収が高くなるにつれて増加する。〔図3-7〕
また年収1,000万円以上の世帯では、「会社役員・経営者」(8.4%)がやや高い。〔図3-7〕
- 投信保有状況別でみると、保有経験層では、「専業主婦／主夫」「無職・定年退職」が、投信現在保有層や保有未経験層に比べてやや多い。また、投信現在保有種類別では、株式投信保有層はその他投信保有層に比べて「会社員・非営利団体職員」が多く、「専業主婦／主夫」「無職・定年退職」が少ない。〔図3-8〕

〔図 3-6〕



〔図 3-7〕

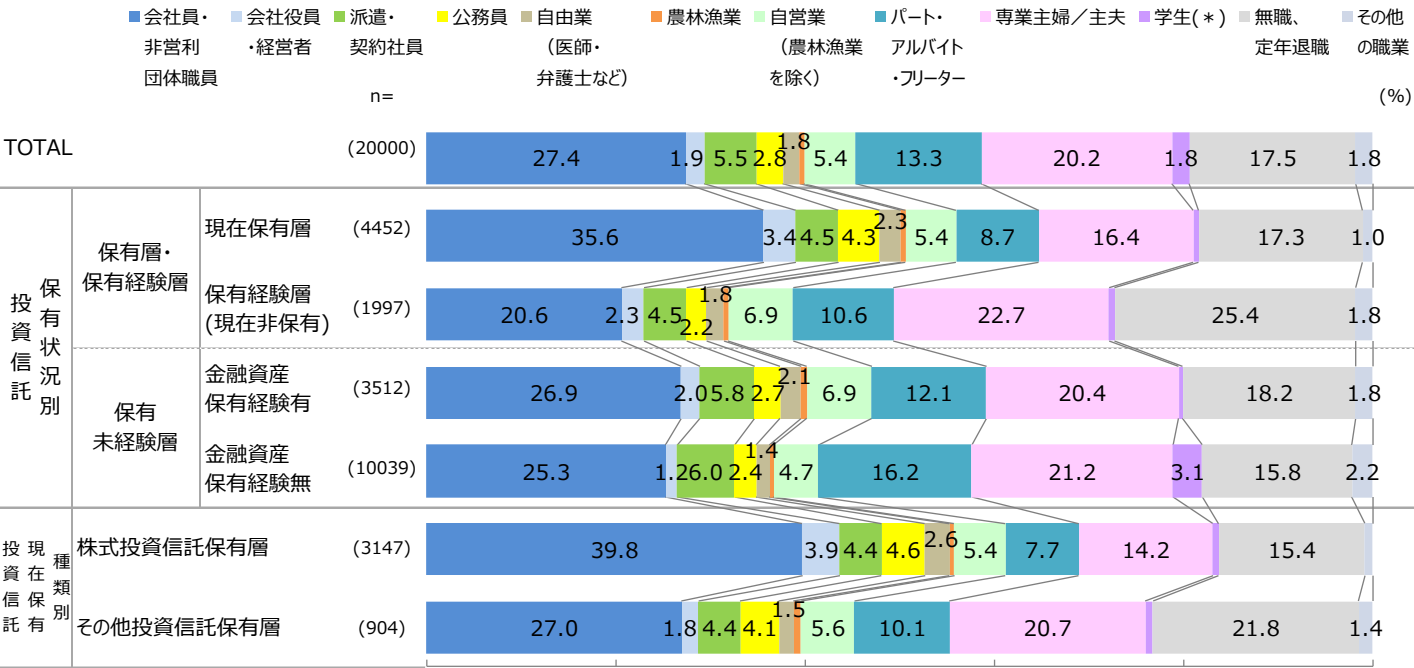


※1%未満は非表示

3. 回答者のプロフィール

(2) 職業〔Q32:単数回答〕

〔図 3-8〕



※1%未満は非表示

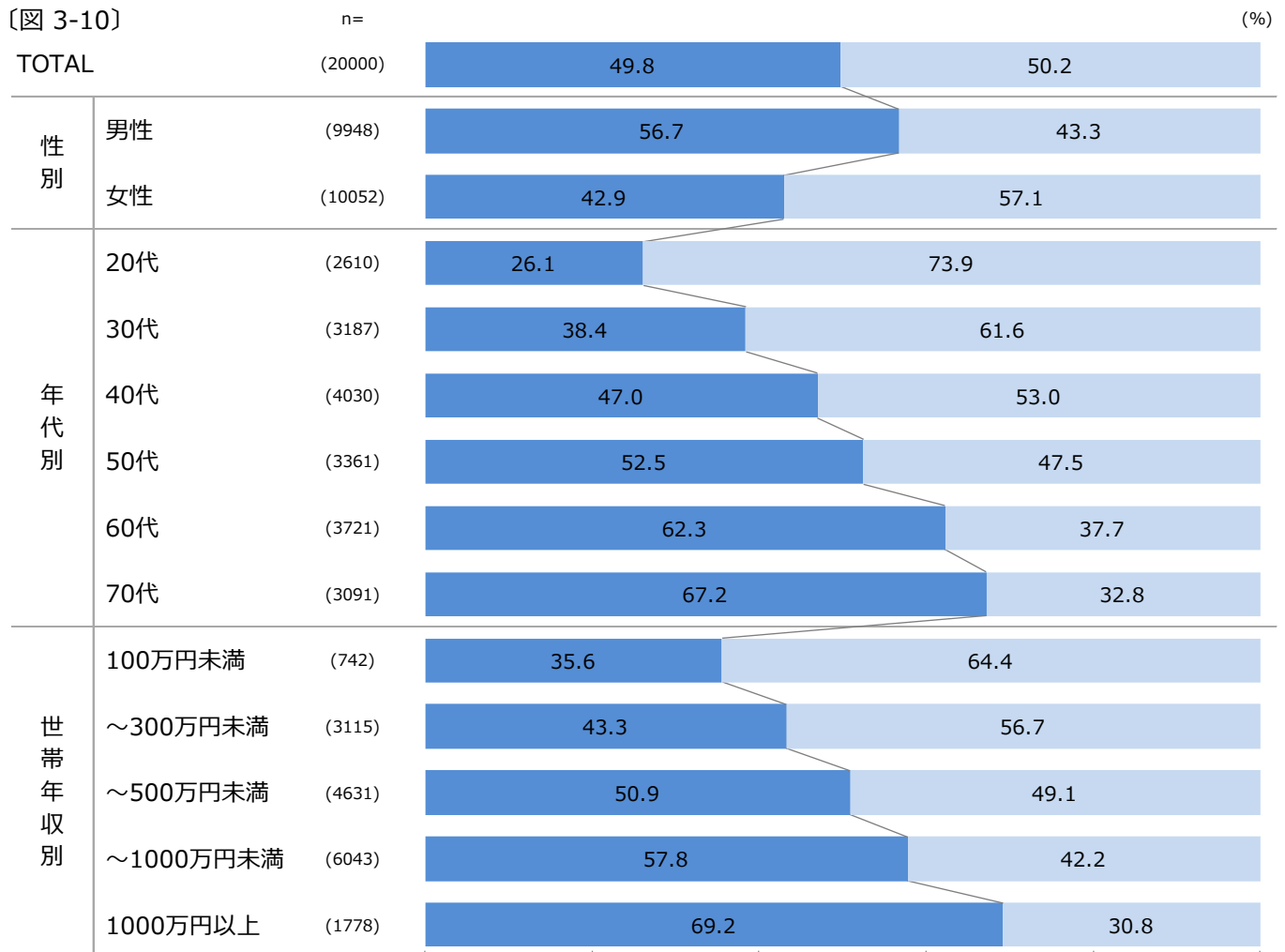
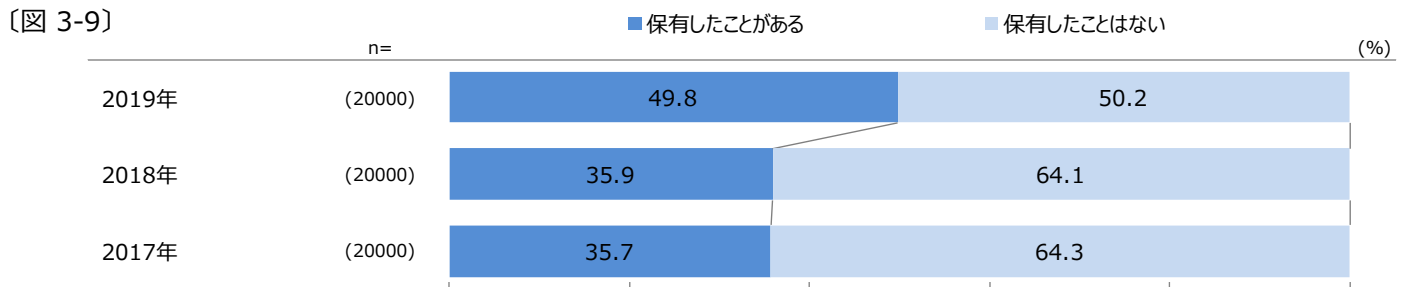
* 学生=大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

3. 回答者のプロフィール

(3) 金融資産の保有経験〔Q1:単数回答〕

- 金融資産（※）の保有経験率は49.8%と約半数で、前回より13.9ポイント増加。〔図3-9〕
* 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 性別では男性(56.7%)の方が高く、また年代や世帯年収が高くなるにつれて保有経験率も高くなる。〔図3-10〕

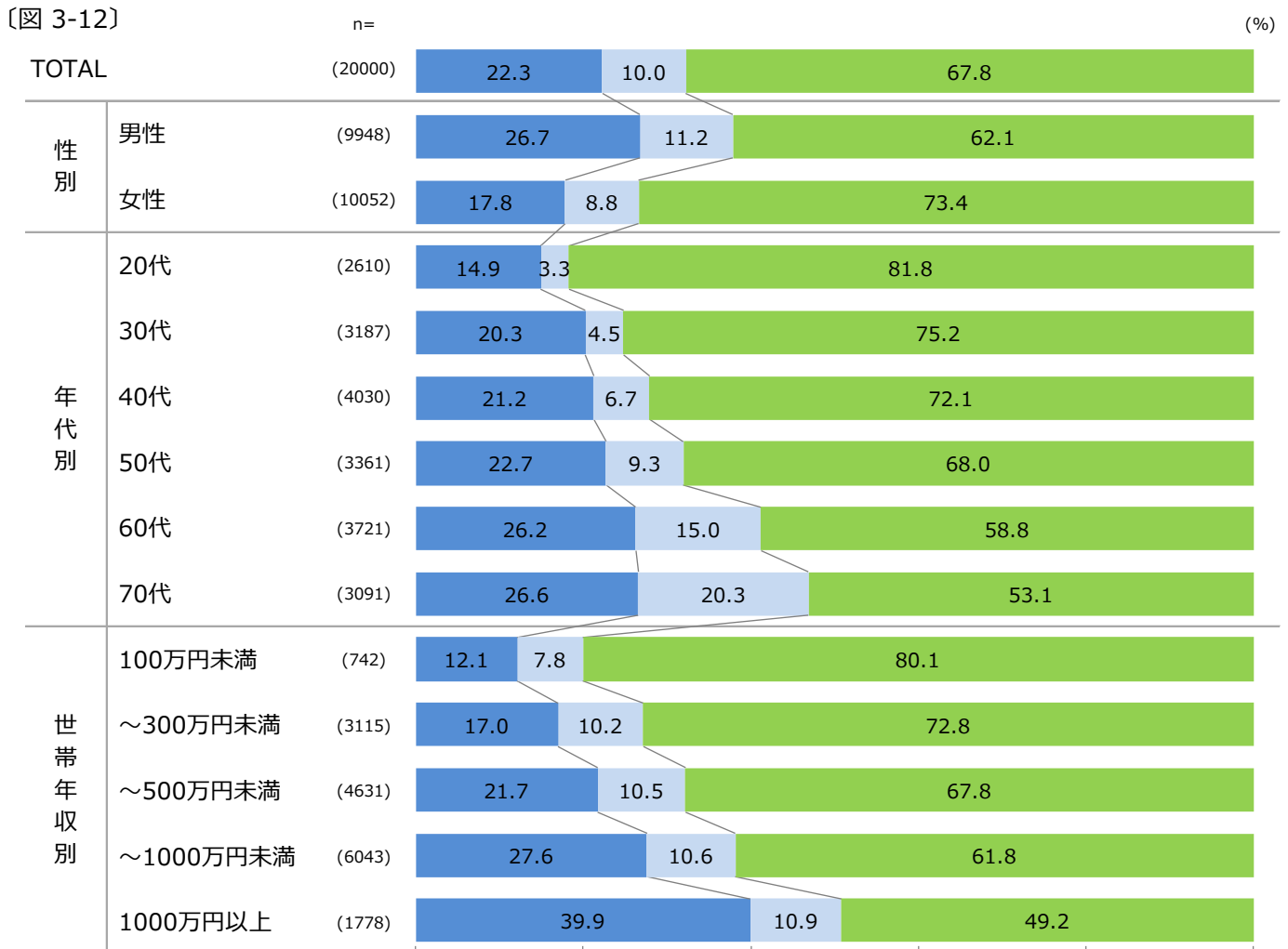
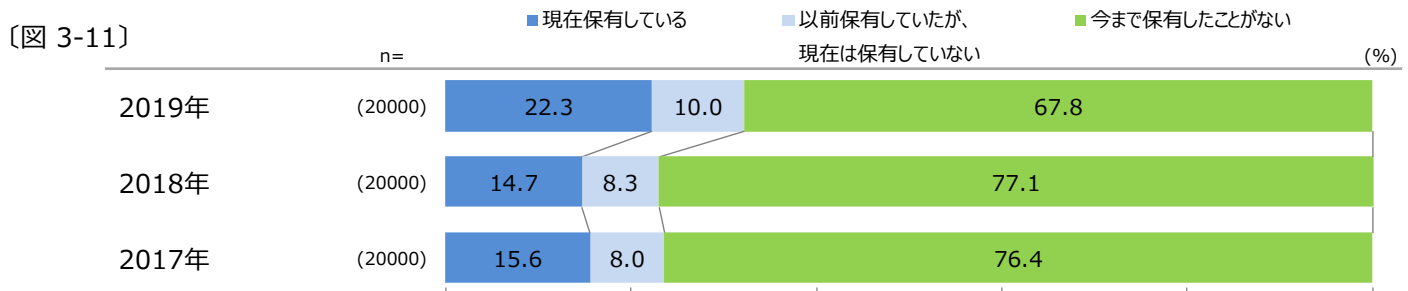
※ 金融資産・・・外貨預金、株式、債券（国債・公社債など）、投資信託、FX、ETF、REITなど。現金や円での預貯金、土地や不動産、保険は除く。



3. 回答者のプロフィール

(4) 投資信託の保有状況〔Q2:単数回答〕

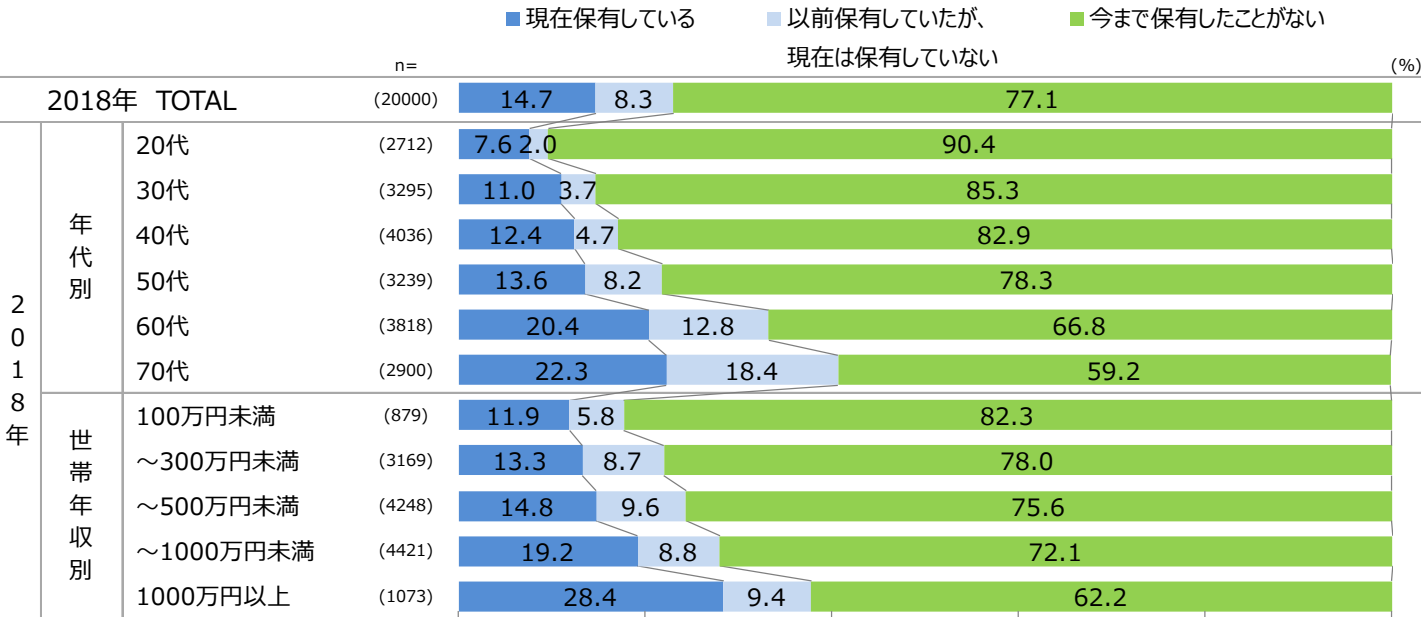
- 投資信託の保有状況は、「現在保有している」という“現在保有層”が22.3%、「以前保有していたが、現在は保有していない」との“保有経験層”が10.0%、「今まで保有したことがない」という“保有未経験層”67.8%で、前回に比べて“現在保有層”が7.6ポイント増加した。〔図3-11〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代が上がるにつれて、“現在保有層”、“保有経験層”ともに増加する。また、世帯年収が高いほど、“現在保有層”が増加する。〔図3-12〕



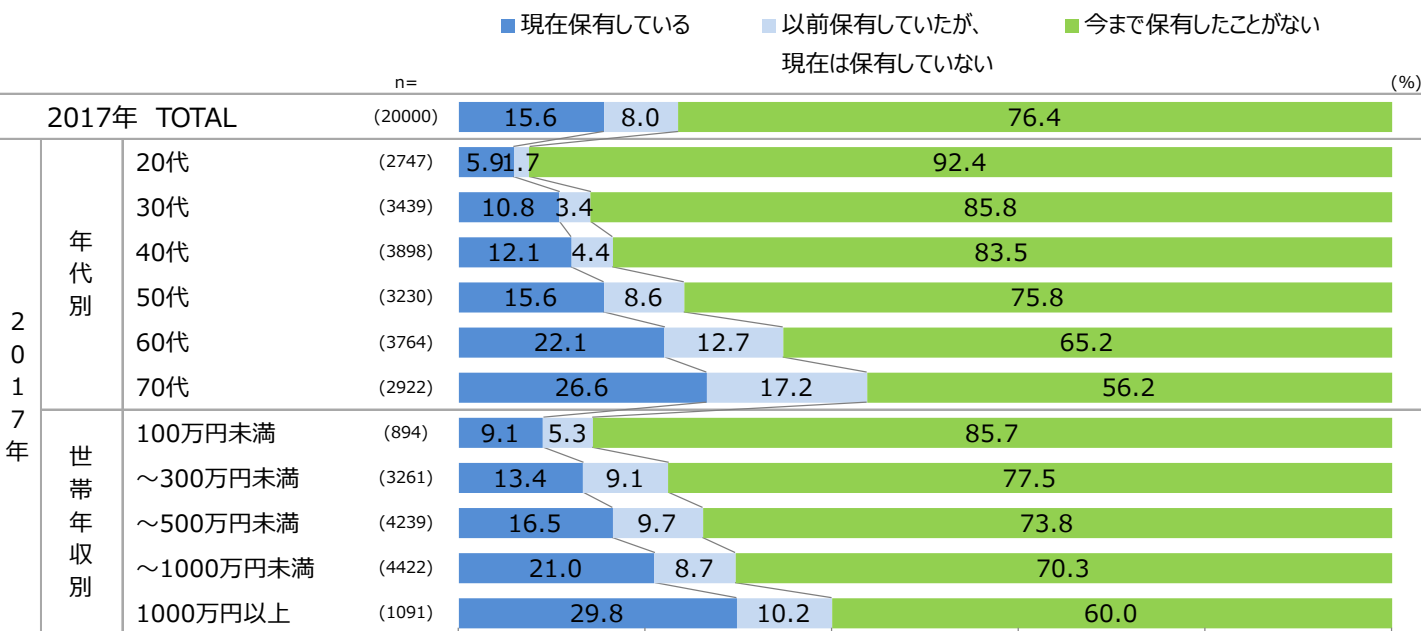
3. 回答者のプロフィール

(4) 投資信託の保有状況〔Q2:単数回答〕

〔図 3-13〕 2018年度結果 年代別、世帯年収別



〔図 3-14〕 2017年度結果 年代別、世帯年収別

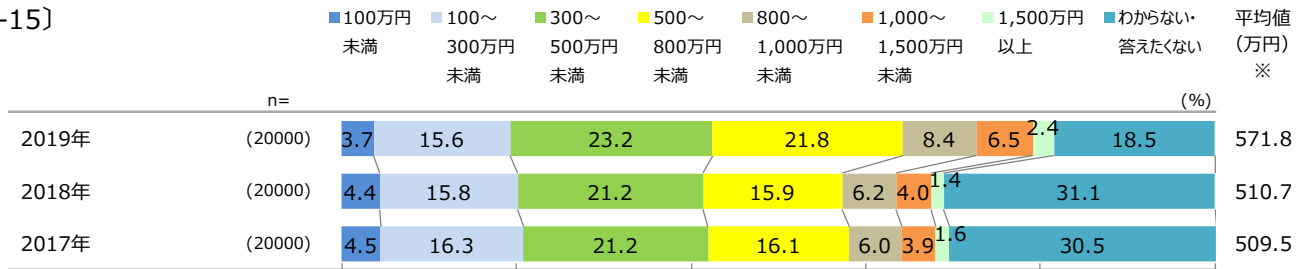


3. 回答者のプロフィール

(5) 世帯年収〔Q33①：単数回答〕

- 世帯年収は「300～500万円未満」(23.2%)、「500～800万円未満」(21.8%)が高く、『800万円未満』合計で64.3%を占める。また、平均値は「571.8万円」と前回より61.1万円高い。〔図3-15〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 投信保有状況別や投信現在保有種類別で世帯年収の平均をみると、投信現在保有層、特に株式投信保有層で高い。〔図3-17〕

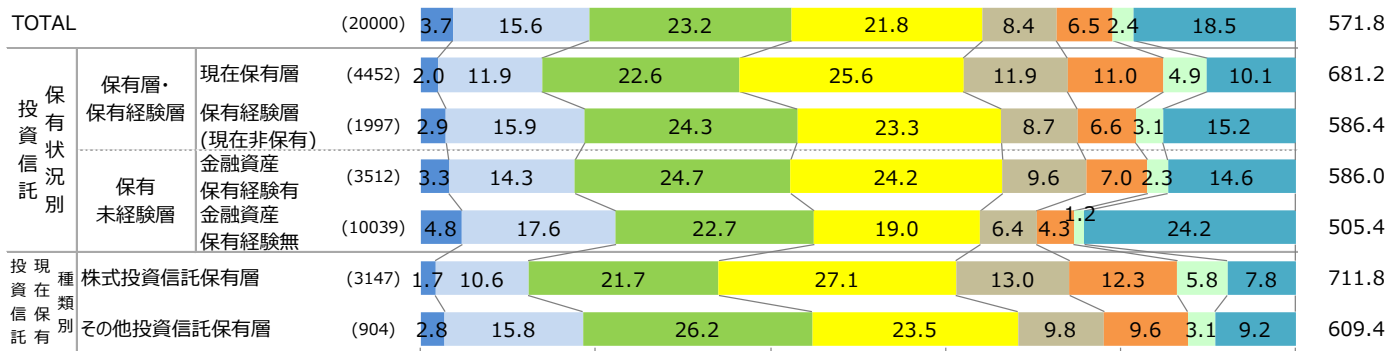
〔図 3-15〕



〔図 3-16〕



〔図 3-17〕



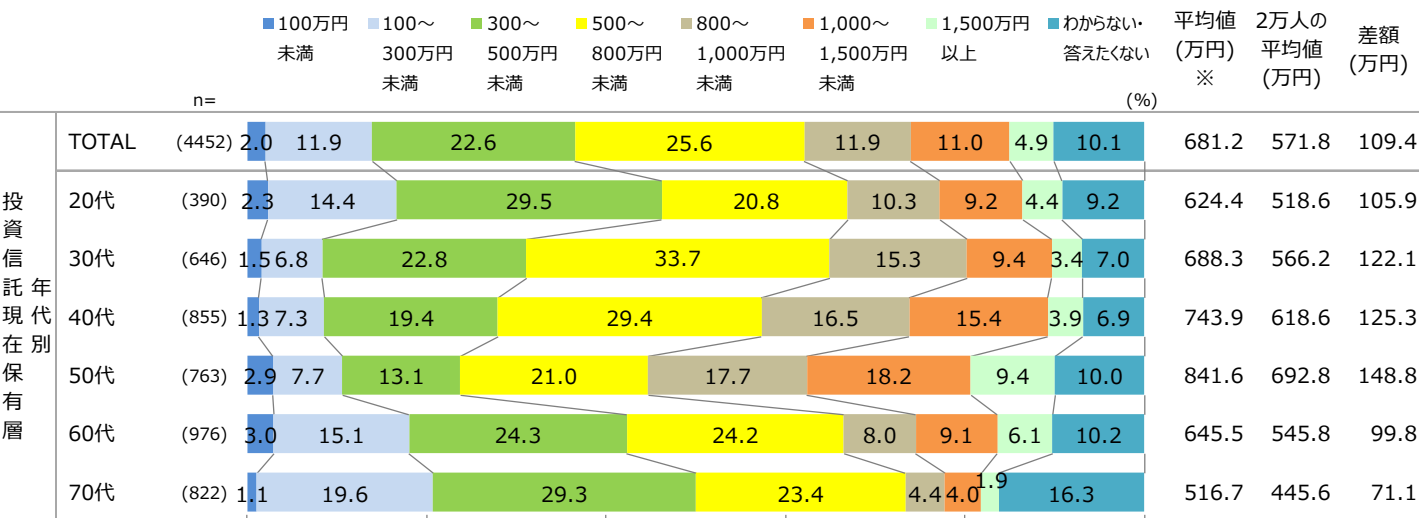
※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円
800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

(5) 世帯年収〔Q33①：単数回答〕

〔図 3-18〕



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

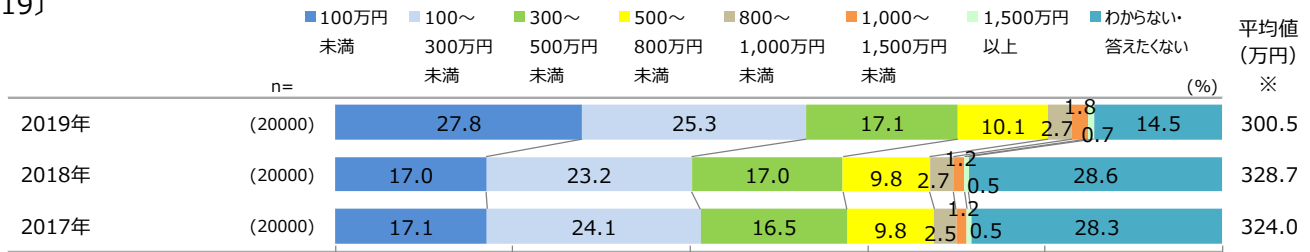
100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円
800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

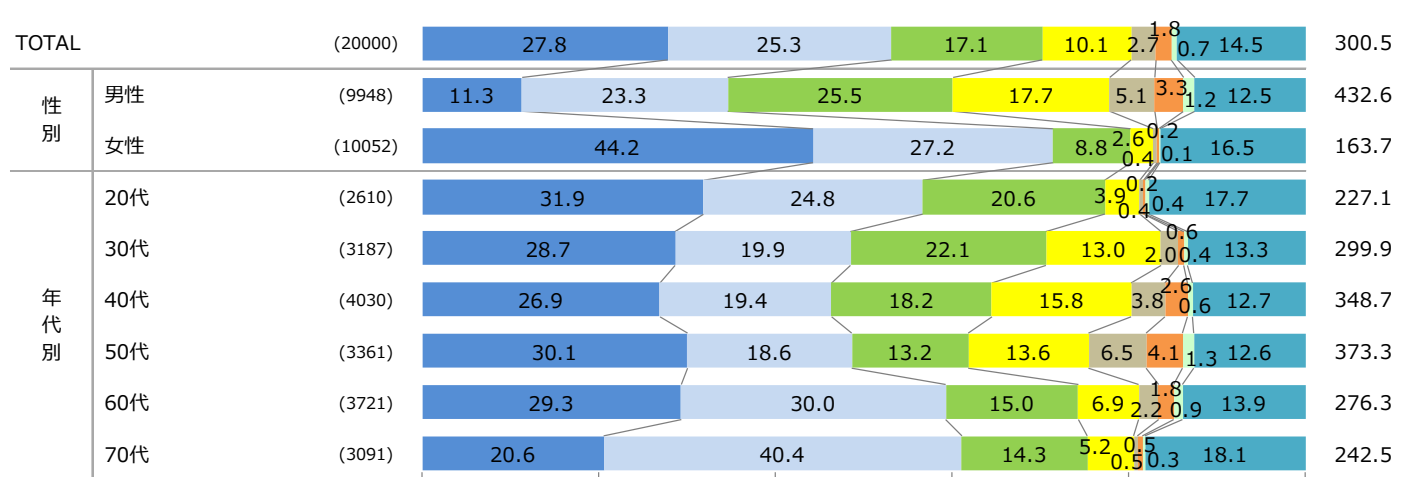
(6) 個人年収〔Q33②：単数回答〕

- 個人年収は「100万円未満」が27.8%、「100～300万円未満」が25.3%とやや高く、『500万円未満』合計で70.2%を占める。平均は「300.5万円」と前回に比べてやや低い。〔図3-19〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 投信保有状況別や投信現在保有種類別で個人年収の平均をみると、世帯年収と同様に、投信現在保有層、株式投信保有層で高い。〔図3-21〕

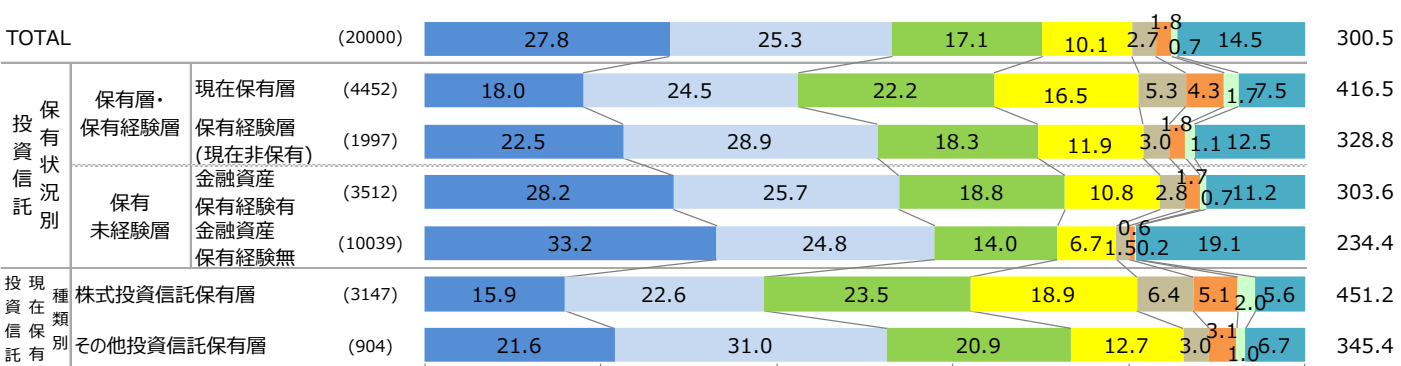
〔図 3-19〕



〔図 3-20〕



〔図 3-21〕



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあつたウエイト値は以下の通り
 100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円
 800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

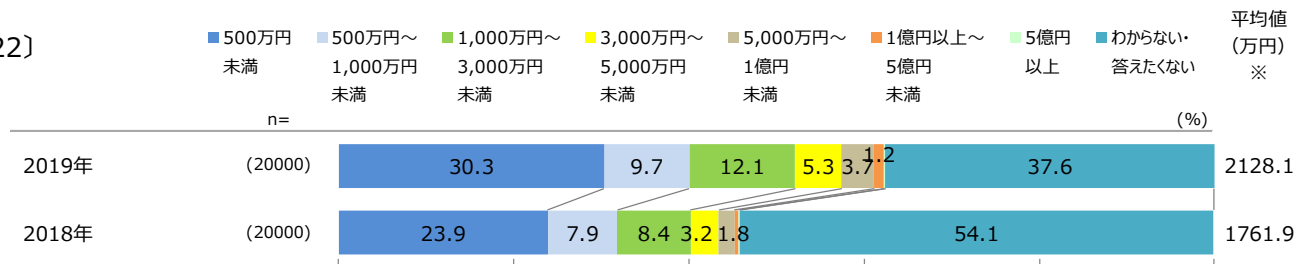
(7) 保有金融資産額〔Q34:単数回答〕

- 保有金融資産額は「500万円未満」が30.3%とやや多く、『3,000万円未満』合計で52.1%を占める。また、平均値は「2128.1万円」で前回に比べて高い。〔図3-22〕

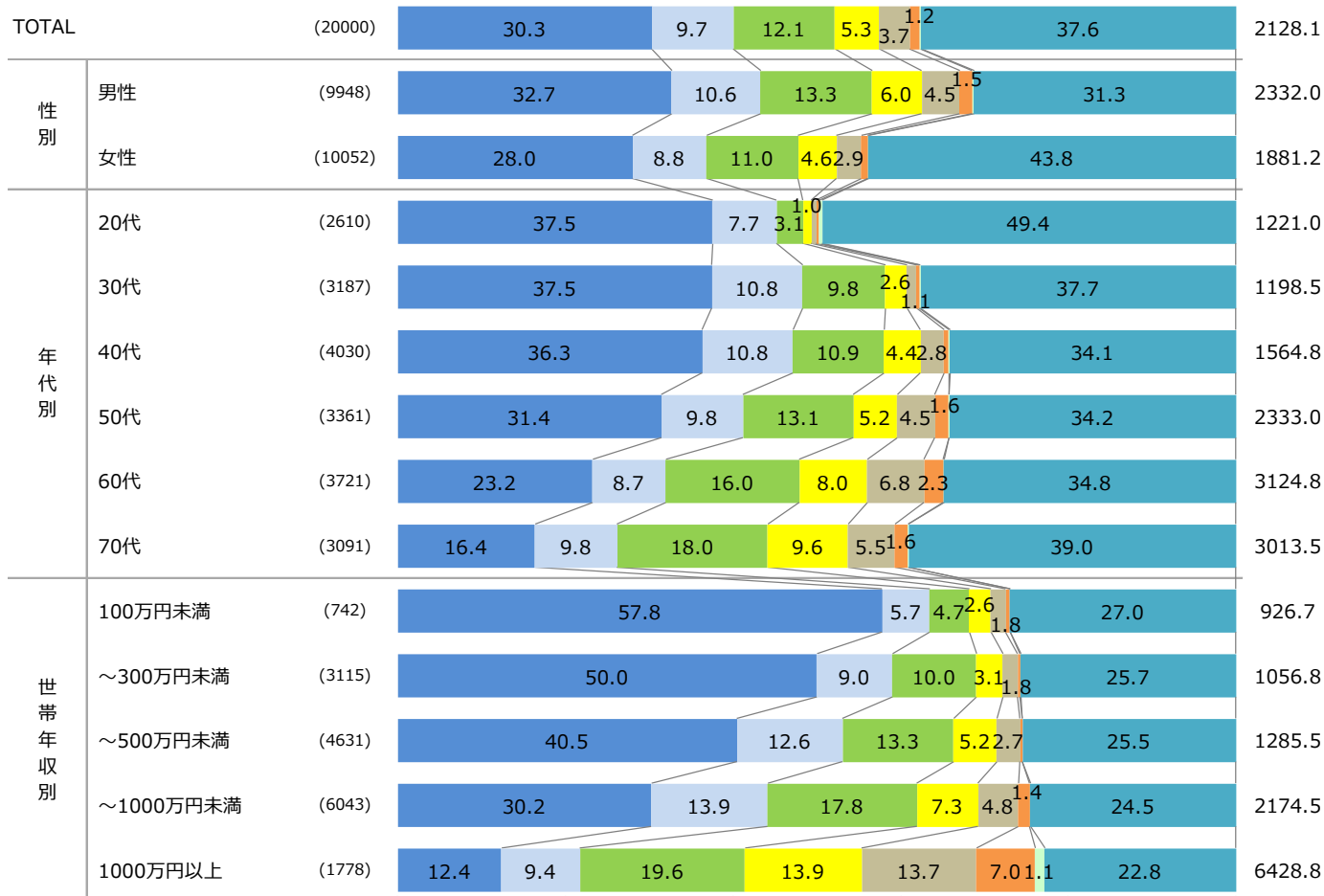
* 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる

- 投信保有状況別や投信現在保有種類別で保有金融資産額の平均をみると、投信現在保有層、株式投信保有層で高い。〔図3-24〕

〔図 3-22〕



〔図 3-23〕



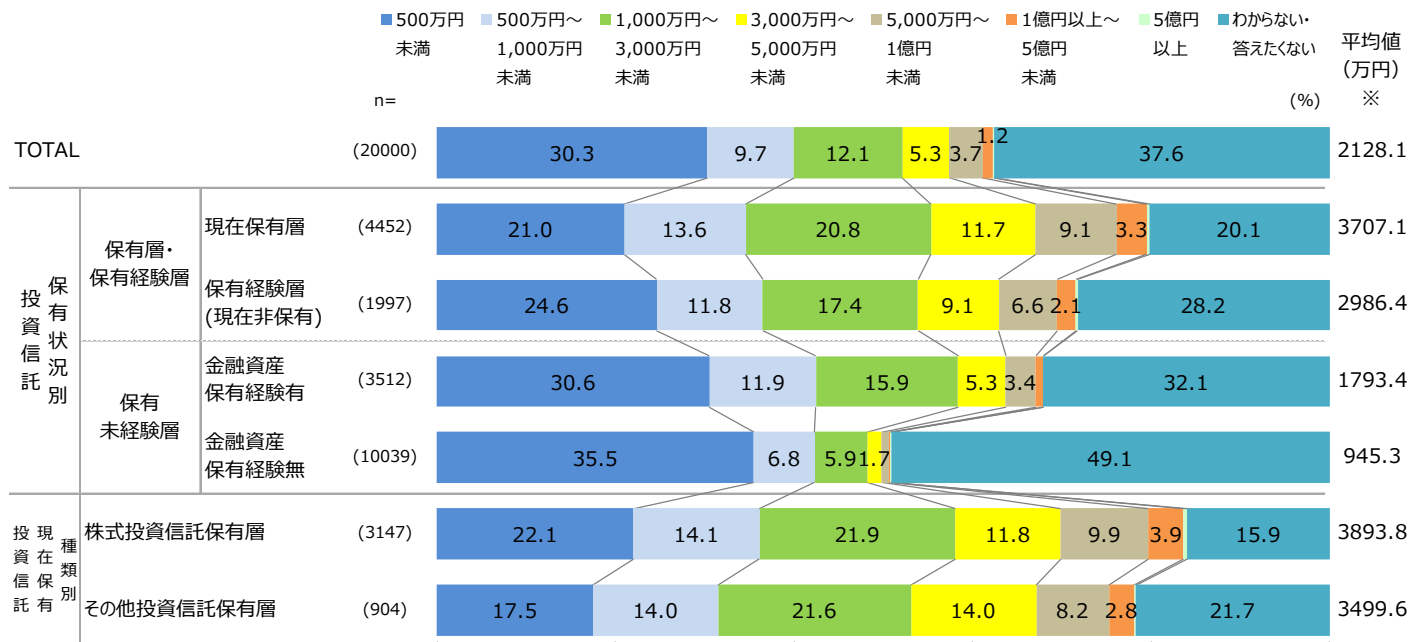
※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあつてのウエイト値は以下の通り

500万円未満：250万円 / 500～1000万円未満：750万円 / 1000～3000万円未満：2000万円 / 3000～5000万円未満：4000万円 / 5000万円～1億円未満：7500万円 / 1億円～5億円未満：3億円 / 5億円以上：7億円

3. 回答者のプロフィール

(7) 保有金融資産額〔Q34:単数回答〕

〔図 3-24〕



※1%未満は非表示

※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあつてのウエイト値は以下の通り

500万円未満：250万円 / 500～1000万円未満：750万円 / 1000～3000万円未満：2000万円 / 3000～5000万円未満：4000万円 / 5000万円～1億円未満：7500万円 / 1億円～5億円未満：3億円 / 5億円以上：7億円

4. 投資信託保有狀況（現在保有層）



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（1）投資信託の保有口座〔Q3:重複回答〕

- 投資信託の保有口座は、「特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座」が69.7%と最も高く、「NISA」(43.2%)が続く。「つみたてNISA」(17.4%)、「iDeCo（個人型確定拠出年金）」(11.8%)は10%台となっている。〔図4-1〕
- 「特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座」「NISA」は年代が上がるほど保有率が増加、「つみたてNISA」は若年層ほど保有率が高い。〔図4-2〕

〔図 4-1〕

	n=	特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	NISA	つみたてNISA	iDeCo (個人型 確定拠出 年金)	企業型DC (企業型 確定拠出 年金)	その他	わからない ・忘れた	(%)
2019年	(4452)	69.7	43.2	17.4	11.8	7.1	0.7	2.4	

〔図 4-2〕

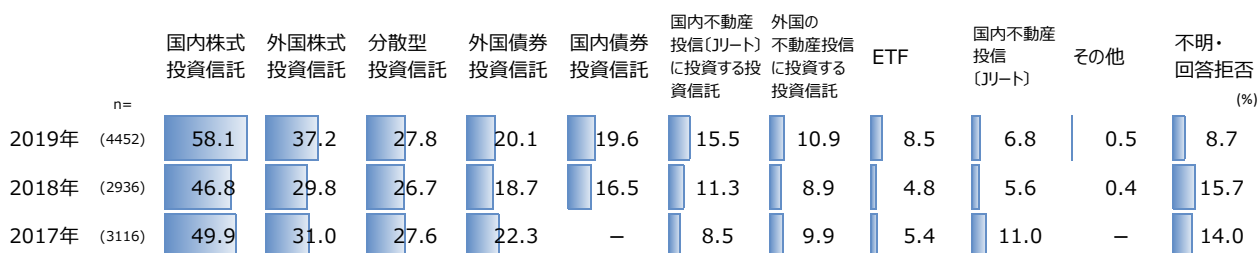
	n=	特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	NISA	つみたてNISA	iDeCo (個人型 確定拠出 年金)	企業型DC (企業型 確定拠出 年金)	その他	わからない ・忘れた	(%)
TOTAL	(4452)	69.7	43.2	17.4	11.8	7.1	0.7	2.4	
性別									
男性	(2661)	72.2	42.1	17.6	14.1	10.0	0.6	2.4	
女性	(1791)	66.0	44.8	17.1	8.4	2.8	0.9	2.4	
年代別									
20代	(390)	51.3	33.6	39.2	18.2	14.1	0.5	4.6	
30代	(646)	59.1	36.1	32.7	20.6	9.3	0.6	2.3	
40代	(855)	66.9	40.0	20.2	20.5	9.8	0.6	2.1	
50代	(763)	72.1	41.5	14.8	15.6	11.9	1.0	2.9	
60代	(976)	74.9	49.7	7.0	2.0	2.4	1.0	1.9	
70代	(822)	81.3	50.6	6.8	0.7	0.6	0.4	1.9	
世帯年収別									
100万円未満	(90)	70.0	42.2	10.0	11.1	3.3	0.0	6.7	
～300万円未満	(529)	67.5	45.6	15.7	4.9	2.3	0.8	3.4	
～500万円未満	(1006)	68.3	42.5	19.0	9.4	3.3	0.8	2.6	
～1000万円未満	(1667)	69.3	43.1	17.3	12.7	8.4	0.7	1.2	
1000万円以上	(710)	75.6	45.2	19.2	20.3	16.5	1.0	1.8	

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(2) 投資信託の保有種類〔Q6:重複回答〕

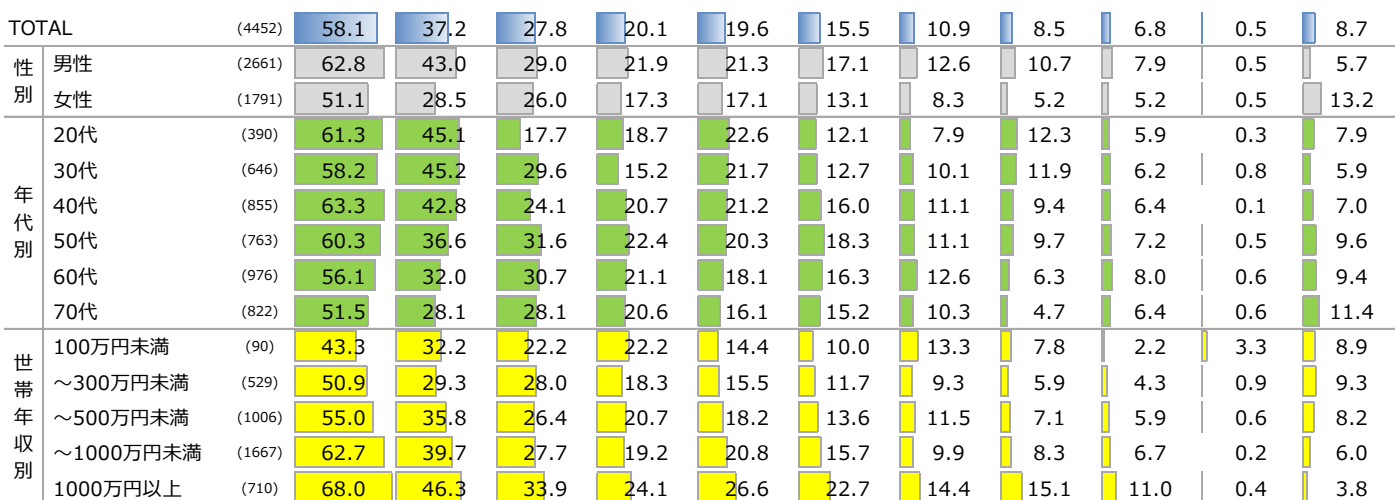
- 現在保有している投資信託の種類は、「国内株式投資信託」が58.1%で最も高い。次いで「外国株式投資信託」(37.2%)、「分散型投資信託」(27.8%)、「外国債券投資信託」(20.1%)、「国内債券投資信託」(19.6%)が続く。〔図4-3〕
- 年代別で保有率をみると、「国内株式投資信託」「外国株式投資信託」「ETF」は、若年層ほど高くなる傾向。〔図4-4〕
- 投資信託の平均保有数は2.25種類となっている。〔図4-5〕

〔図 4-3〕



※選択肢「国内債券投資信託」「その他」は2018年より聴取

〔図 4-4〕



〔図 4-5〕【投資信託の保有種類別回答者数と、平均保有数】

	国内株式投資信託	外国株式投資信託	分散型投資信託	外国債券投資信託	国内債券投資信託	国内不動産投信(リート)に投資する投資信託	外国の不動産投信に投資する投資信託	ETF	国内不動産投信(リート)	その他	平均保有数(種類) ※2
TOTAL(n=4064) ※1	2587	1656	1238	894	873	690	484	379	304	22	2.25

※1 投信保有者(n=4452)から「種類不明・回答拒否」(n=388)を控除。

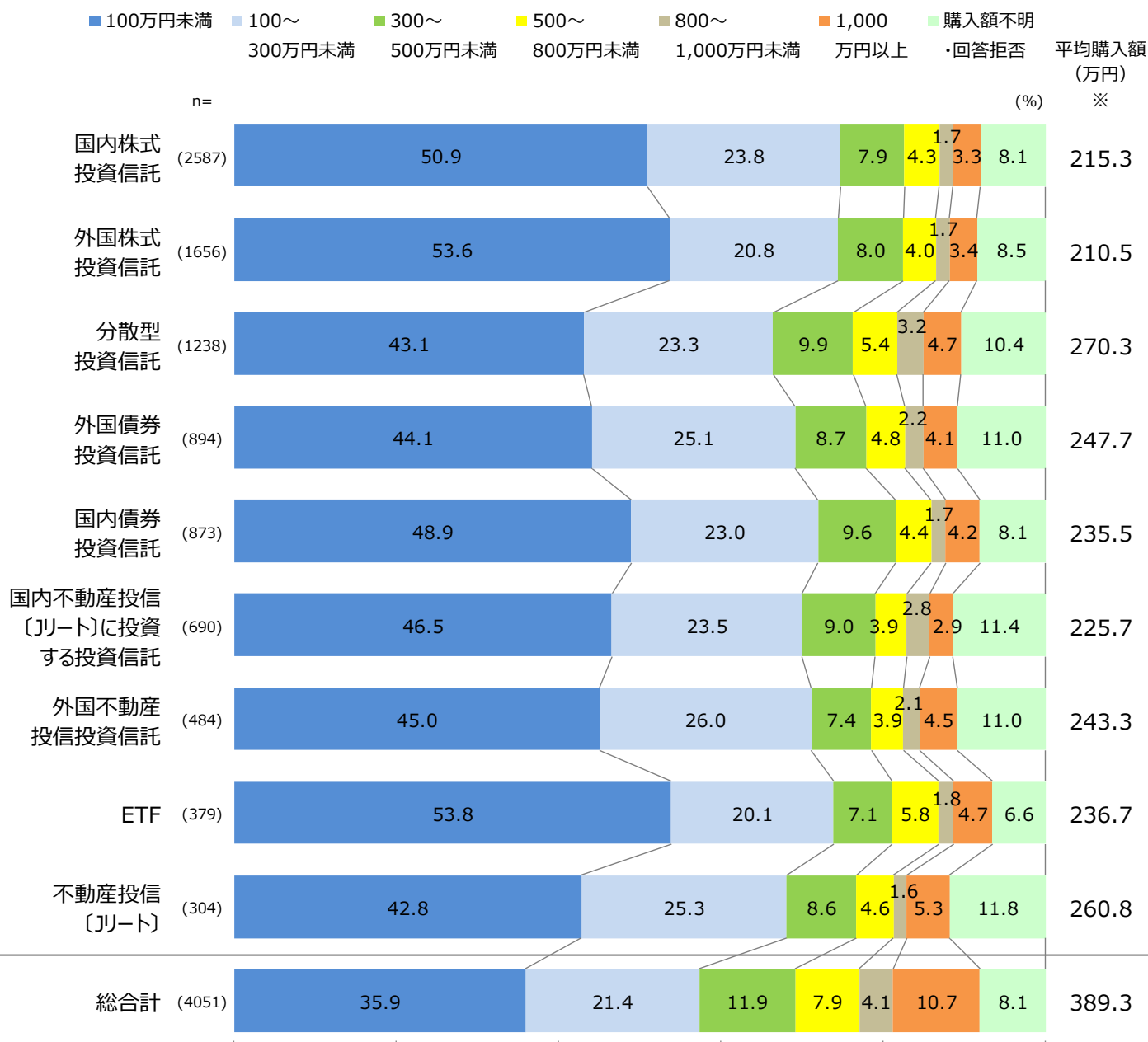
※2 平均保有数は、保有種類別回答者数の延べの総数を、n=4064で割って算出。

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(3) 投資信託の購入額〔Q7:単数回答-各種類現在保有層ベース〕

- 現在保有している投資信託の平均購入額は、総合計では「389.3万円」となる。種類別に平均購入額をみると、「分散型投資信託」が270.3万円で最も高く、次いで「不動産投資信託〔リート〕」が260.8万円、さらに「外国債券投資信託」「外国不動産投資信託」が240万円台で続く。〔図4-6〕

〔図 4-6〕



※ 平均値は「購入額不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

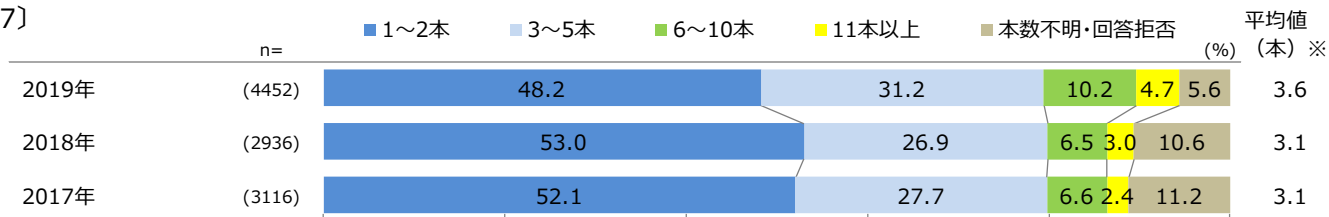
100万円未満：50万円 / 100~300万円未満：200万円 / 300~500万円未満：400万円 / 500~800万円未満：650万円 / 800~1000万円未満：900万円 / 1000万円以上：1500万円

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

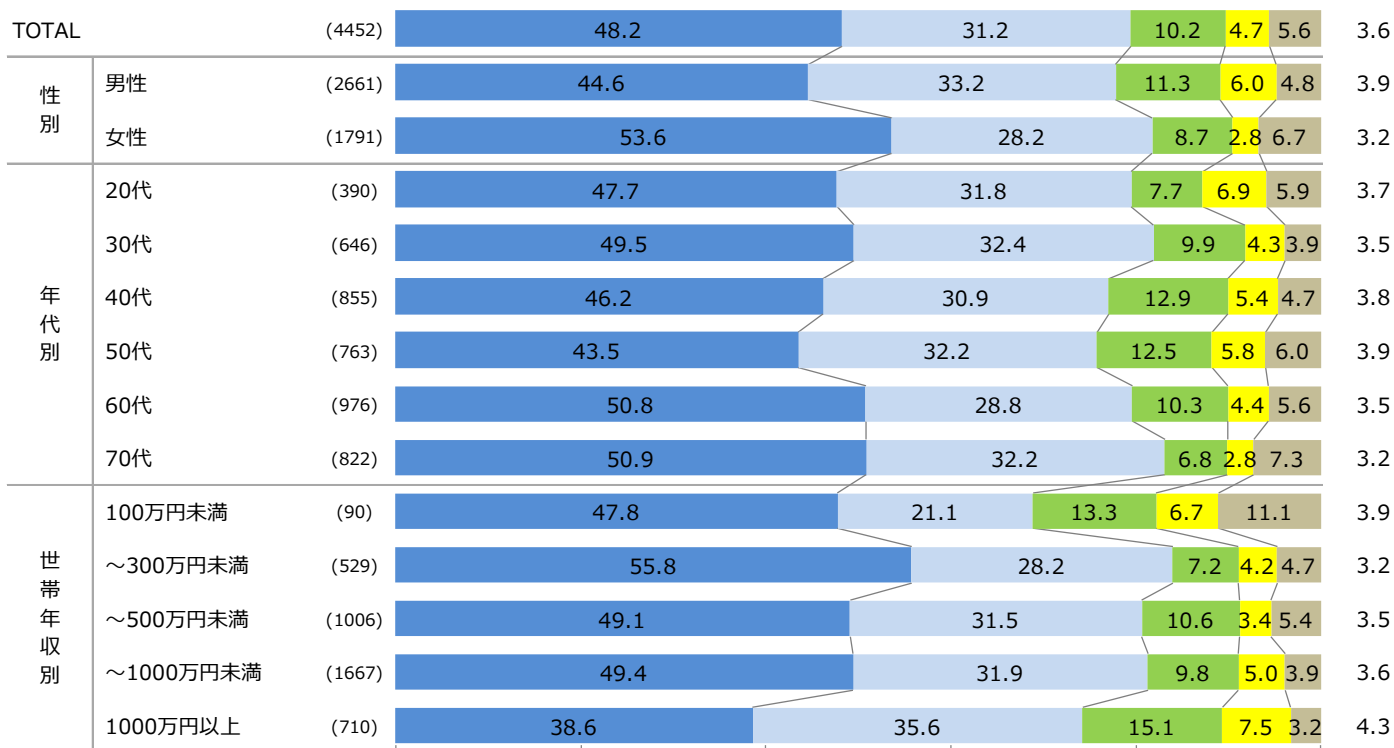
（4）現在保有している投資信託の本数〔Q4:単数回答〕

- 現在保有している投資信託の保有本数は、「1～2本」(48.2%)が約半数で、平均3.6本となり、前回に比べてやや多い。〔図4-7〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別では40～50代の平均保有本数がやや多い。また世帯年収が高いほど多くなる傾向。〔図4-8〕
- 投信現在保有種類別では、株式投信保有層で平均保有本数(4.0本)が多い。〔図4-9〕

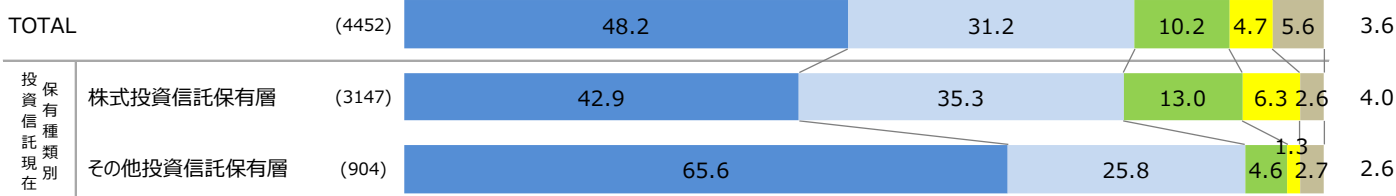
〔図 4-7〕



〔図 4-8〕



〔図 4-9〕



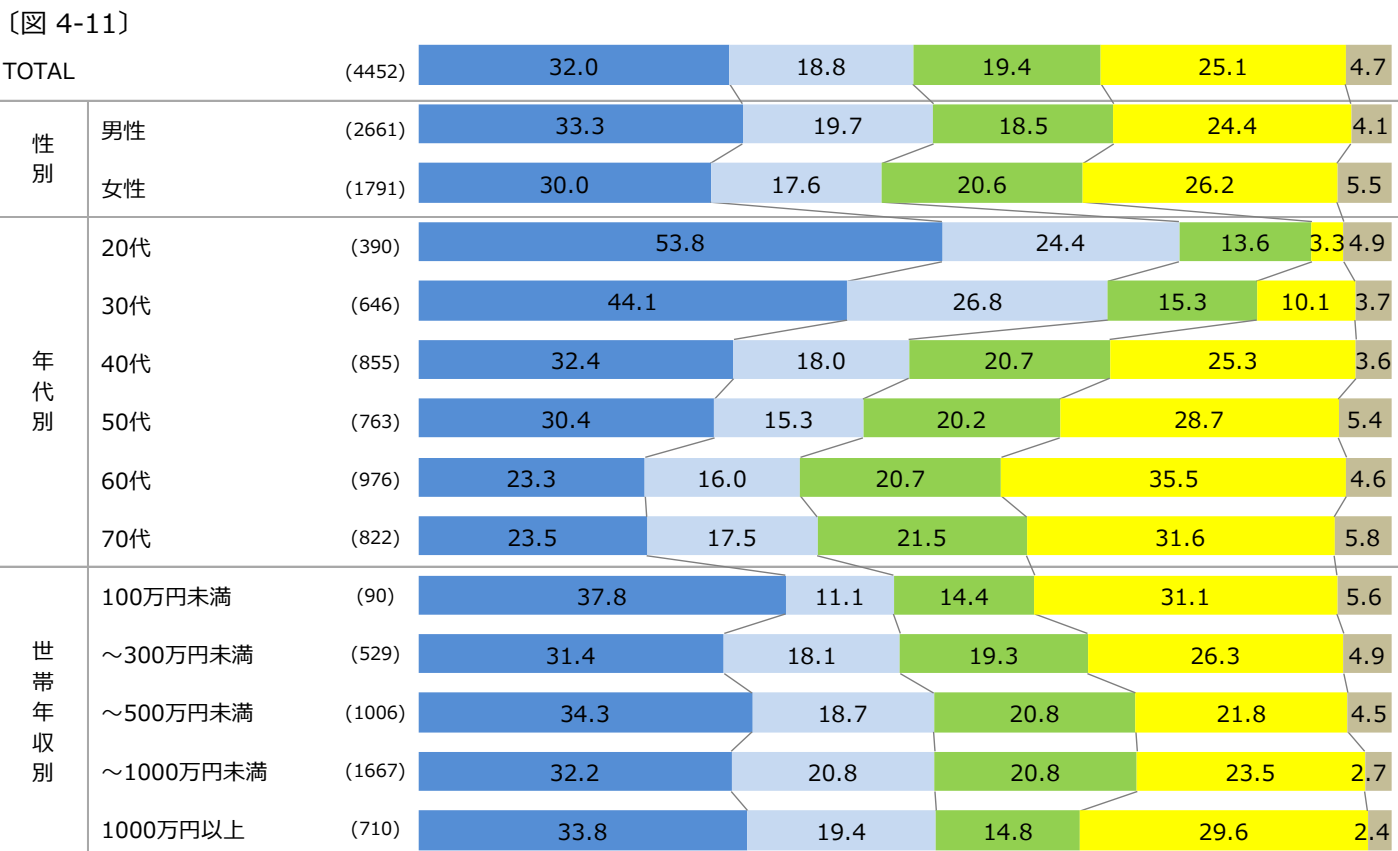
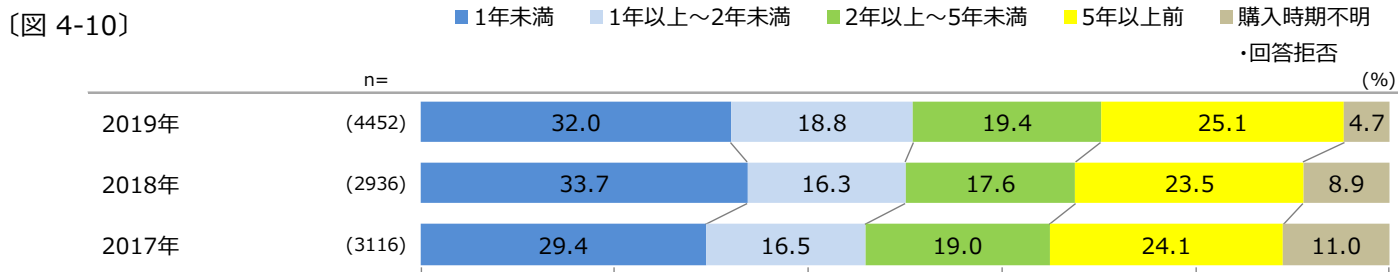
※ 平均値は「本数不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

1～2本：1.5本 / 3～5本：4本 / 6～10本：8本 / 11本以上：13本

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（5）投資信託商品の直近購入時期〔Q5:単数回答〕

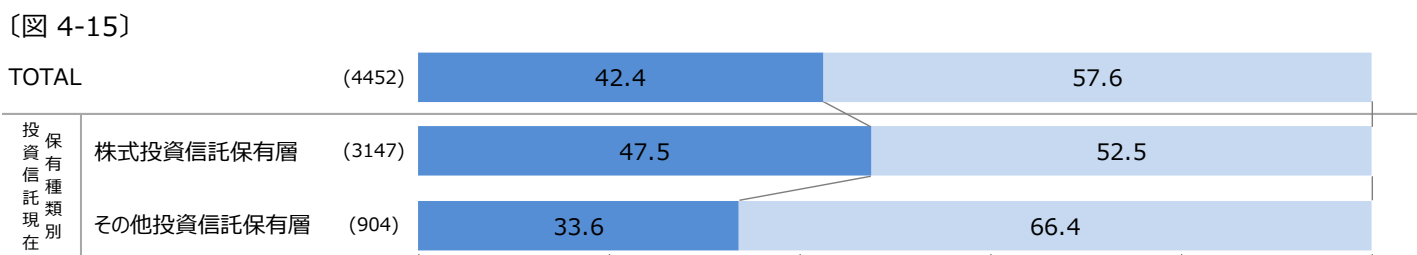
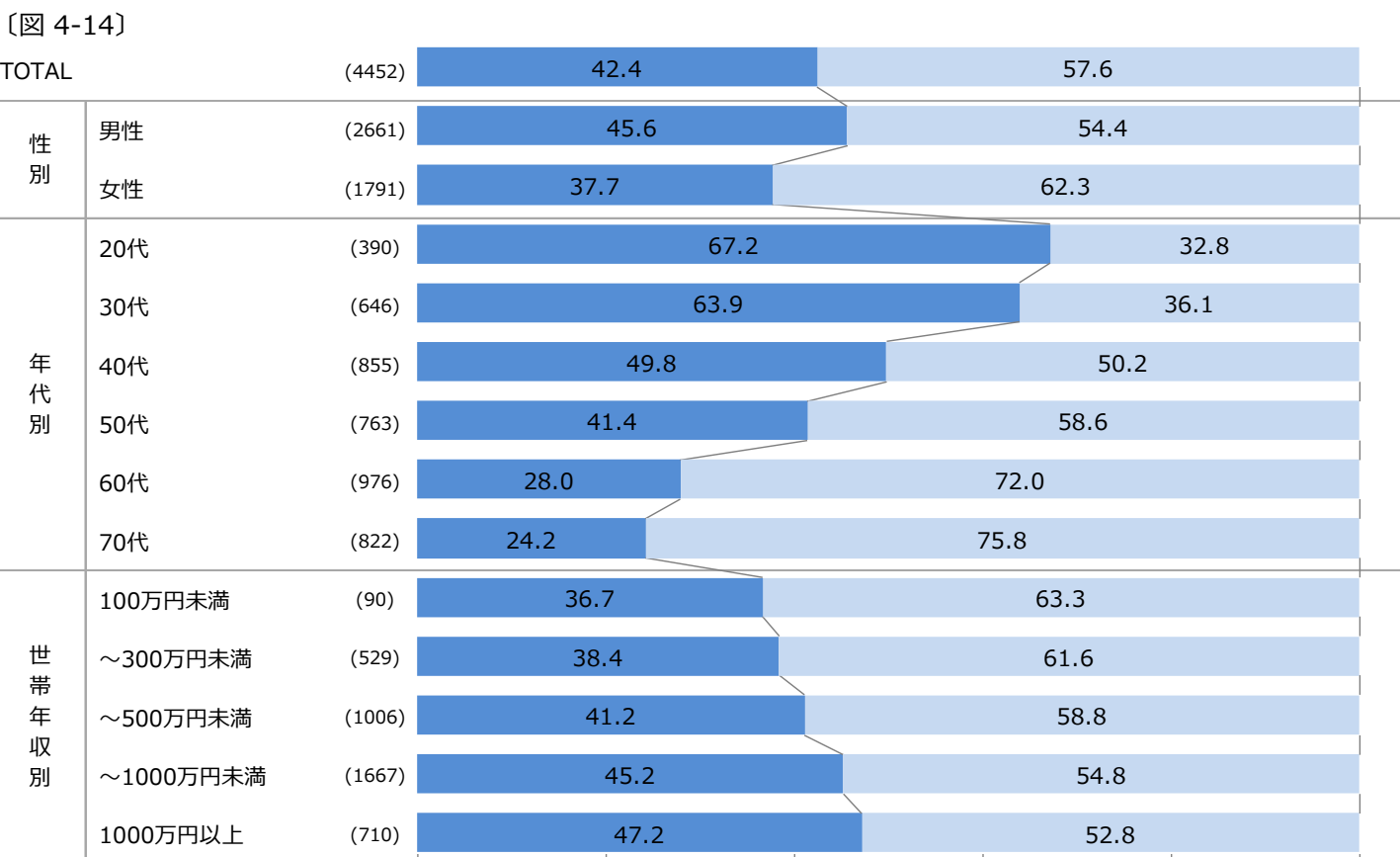
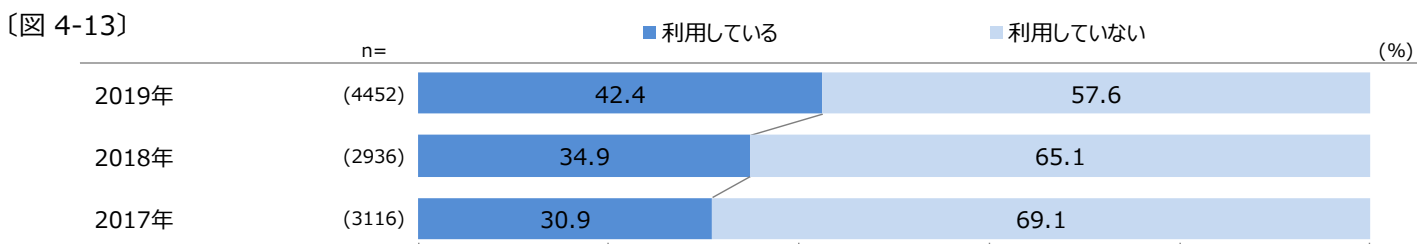
- 直近の購入時期は「1年未満」(32.0%)が最も高いが、「1年以上」が前回と比べて僅かずつ高い。〔図4-10〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 「1年未満」の購入率は、若年層ほど高くなる傾向。〔図4-11〕
- 投信現在保有種類別では、株式投信保有層で「1年未満」が高い。〔図4-12〕



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（6）投資信託の積立投資の利用状況〔Q19:単数回答〕

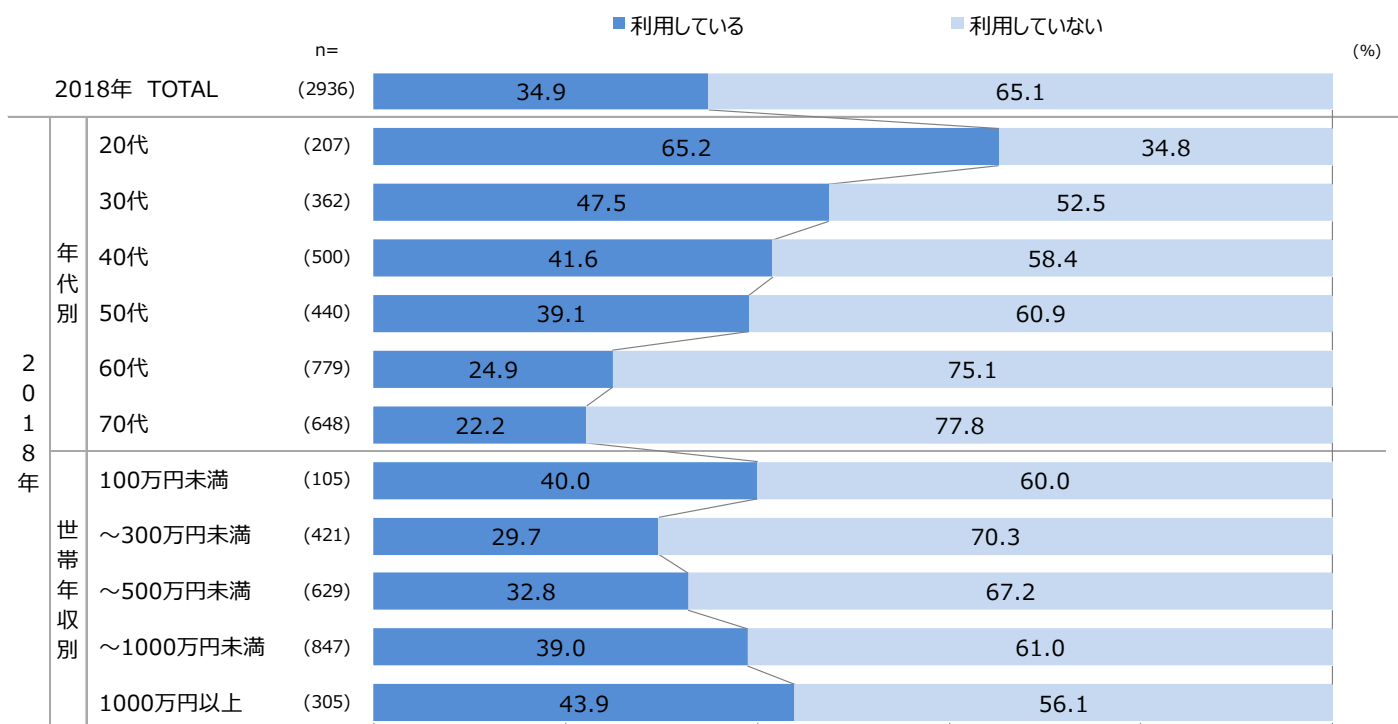
- 積立投資利用率は42.4%。前回(34.9%)に比べて7.5ポイント増加。〔図4-13〕
* 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 若年層ほど積立投資利用率は高く、特に20・30代は60%以上と高い。〔図4-14〕
- 投信現在保有種類別では、株式投信保有層で積立投資利用率が高い。〔図4-15〕



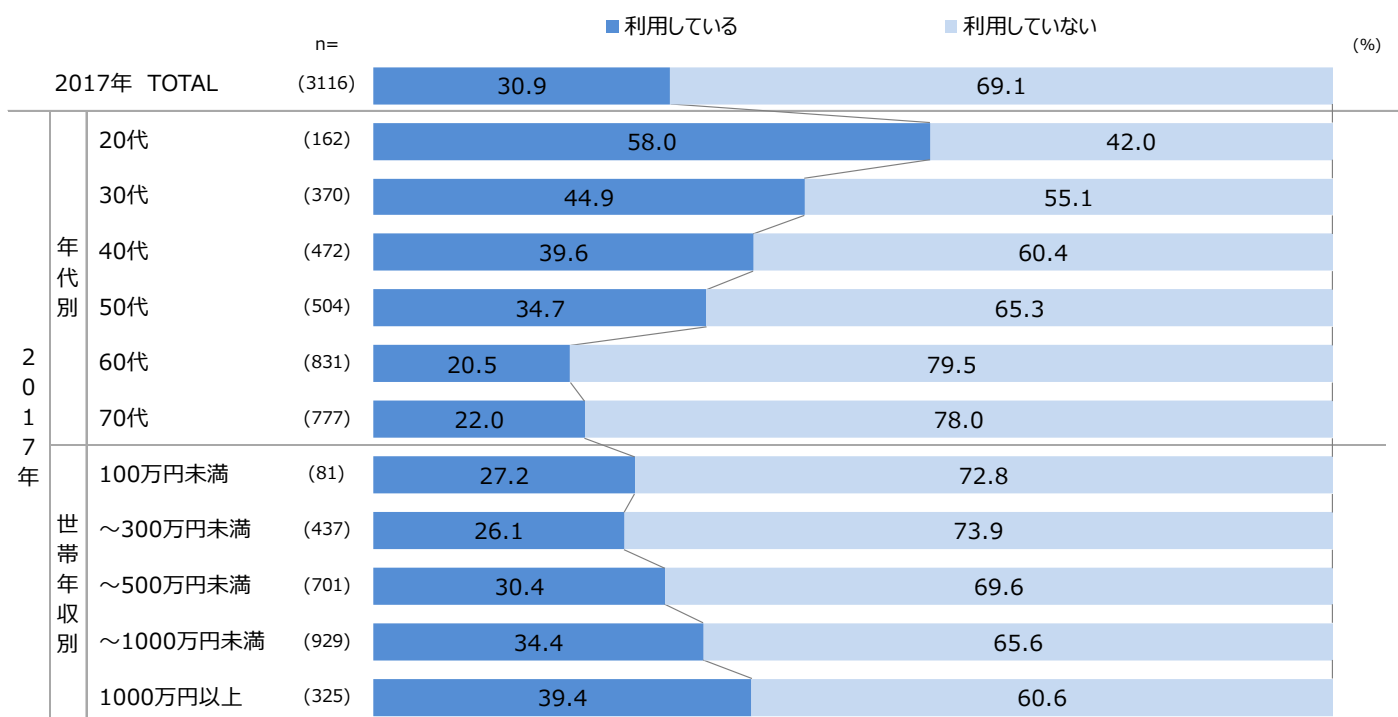
4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(6) 投資信託の積立投資の利用状況〔Q19:単数回答〕

〔図 4-16〕 2018年度結果 年代別、世帯年収別



〔図 4-17〕 2017年度結果 年代別、世帯年収別

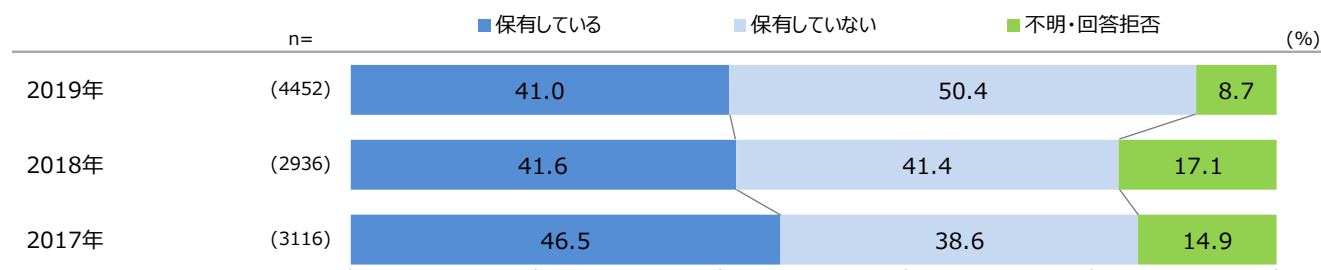


4. 投資信託保有状況（現在保有層）

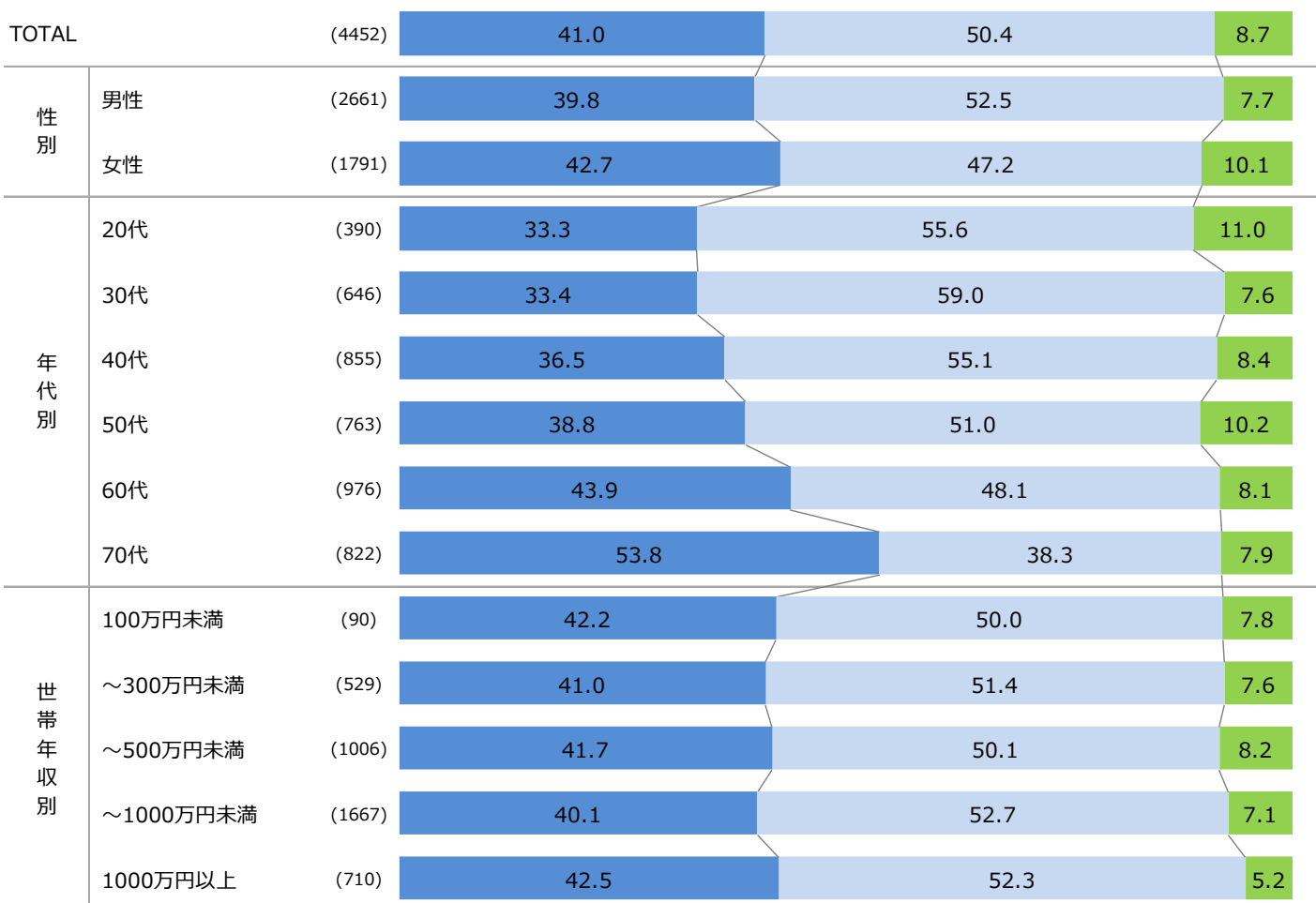
（7）毎月分配型投資信託の保有状況〔Q22:単数回答〕

- 現在投資信託保有層のうち、毎月分配型投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する分配方針のもの）の保有率は41.0%と、前回(41.6%)と同程度。〔図4-18〕
- 属性別では、女性(42.7%)の方がやや高く、また年代が上がるにつれ保有率が増加する傾向。〔図4-19〕

〔図 4-18〕



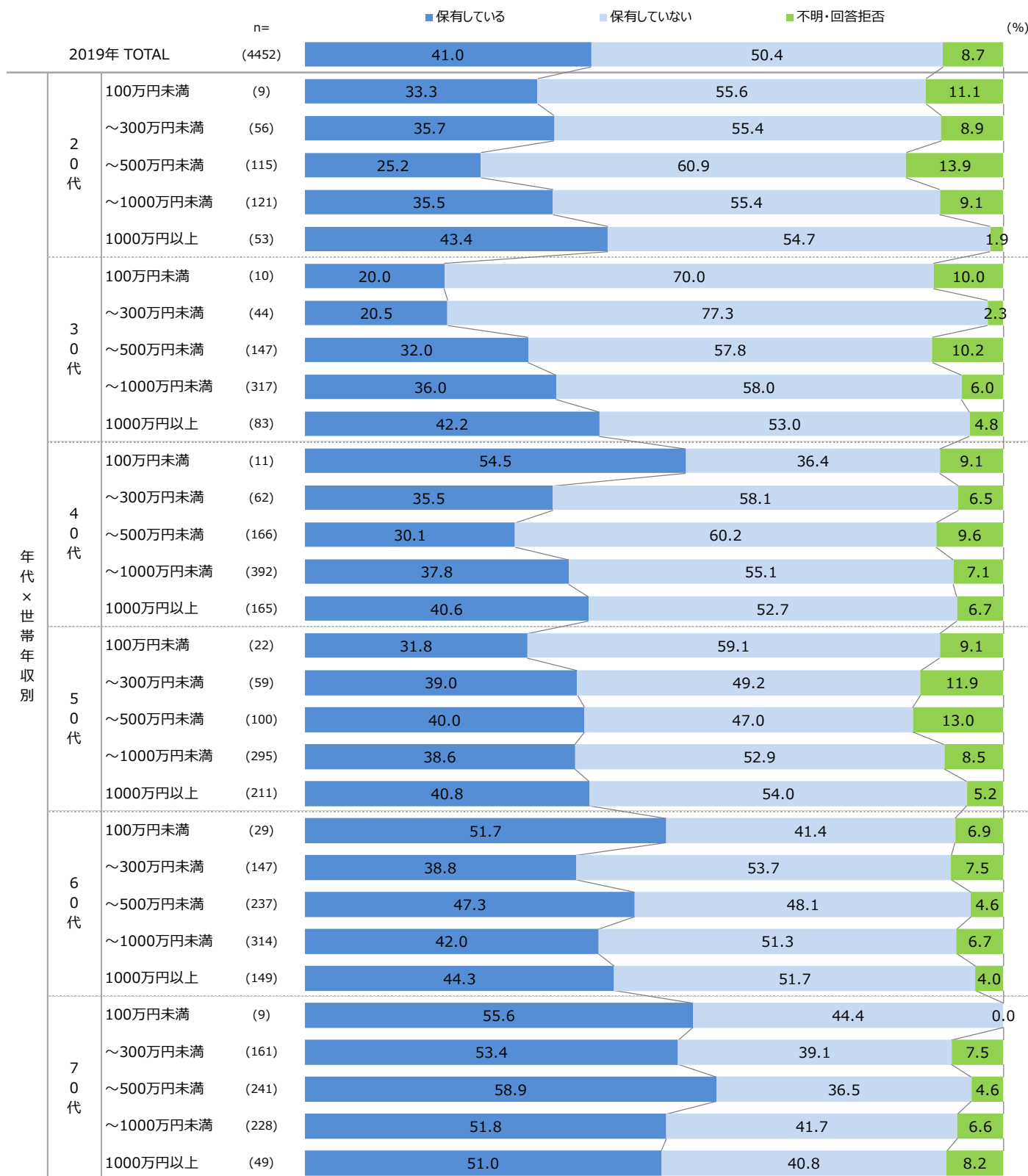
〔図 4-19〕



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q22:単数回答〕

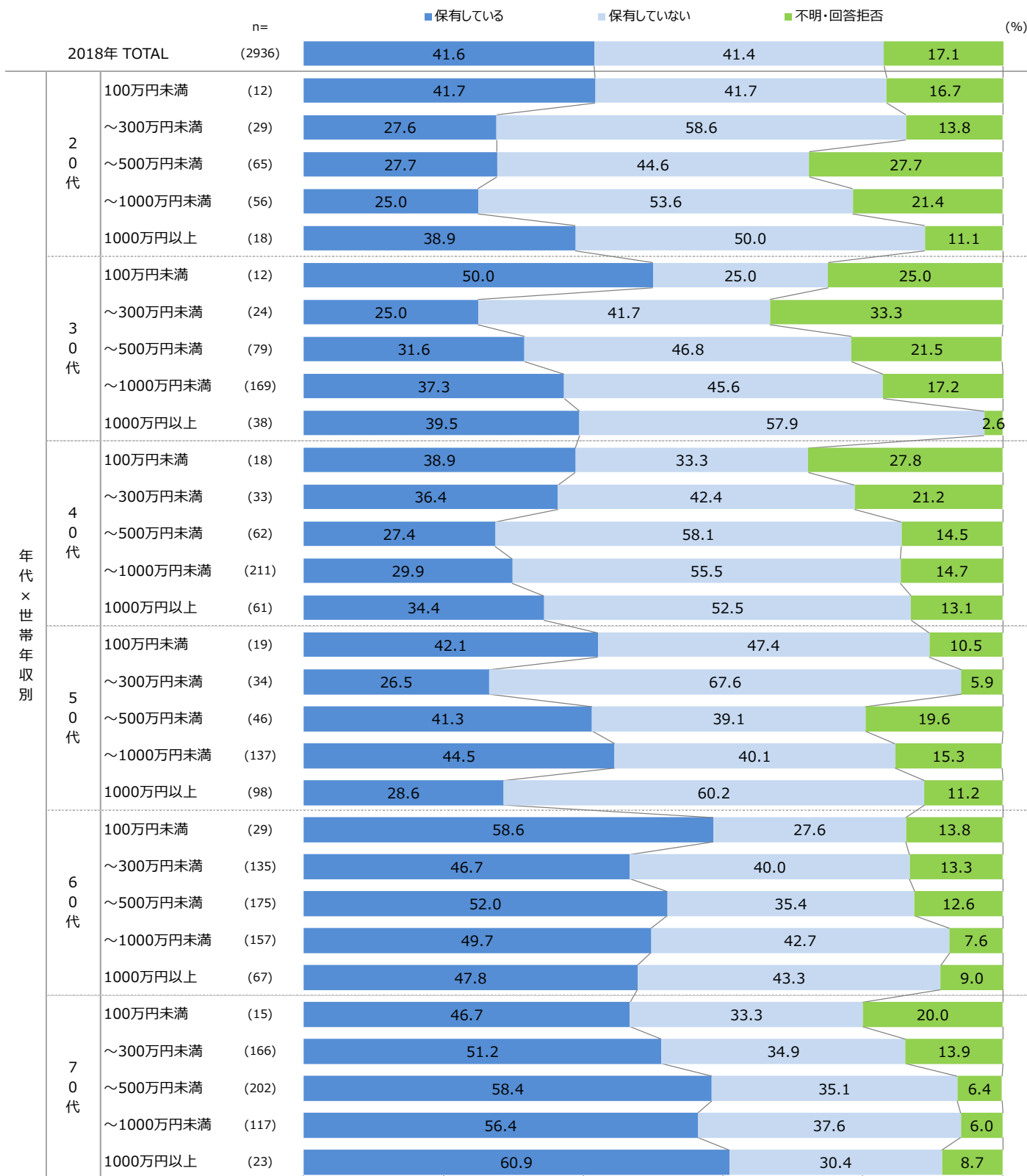
〔図 4-20〕 2019年度結果 年代×世帯年収別



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q22:単数回答〕

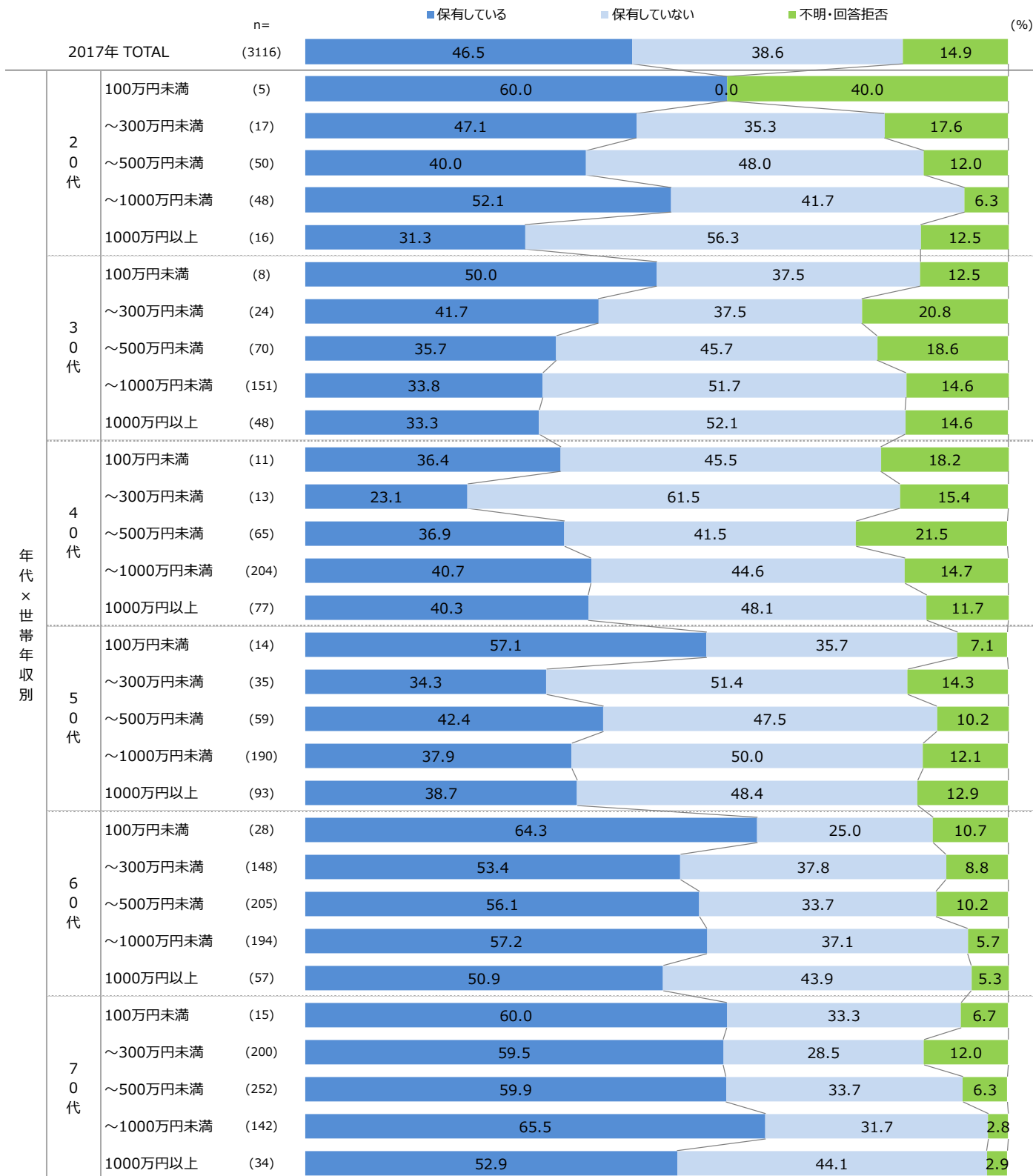
〔図 4-21〕 2018年度結果 年代×世帯年収別



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q22:単数回答〕

〔図 4-22〕 2017年度結果 年代×世帯年収別

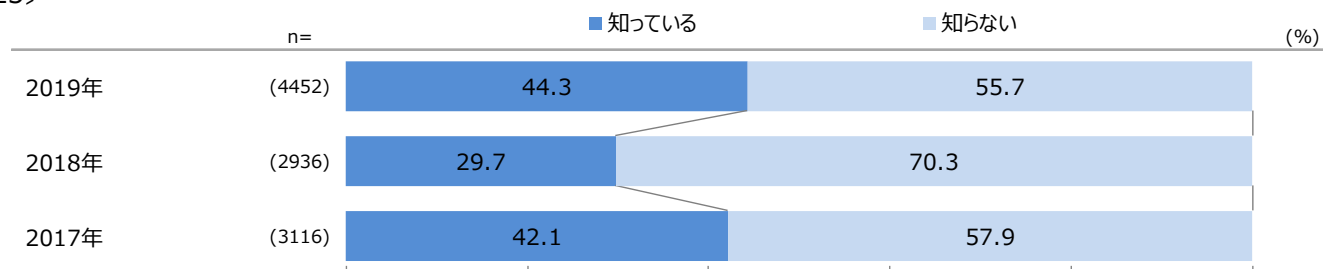


4. 投資信託保有状況（現在保有層）

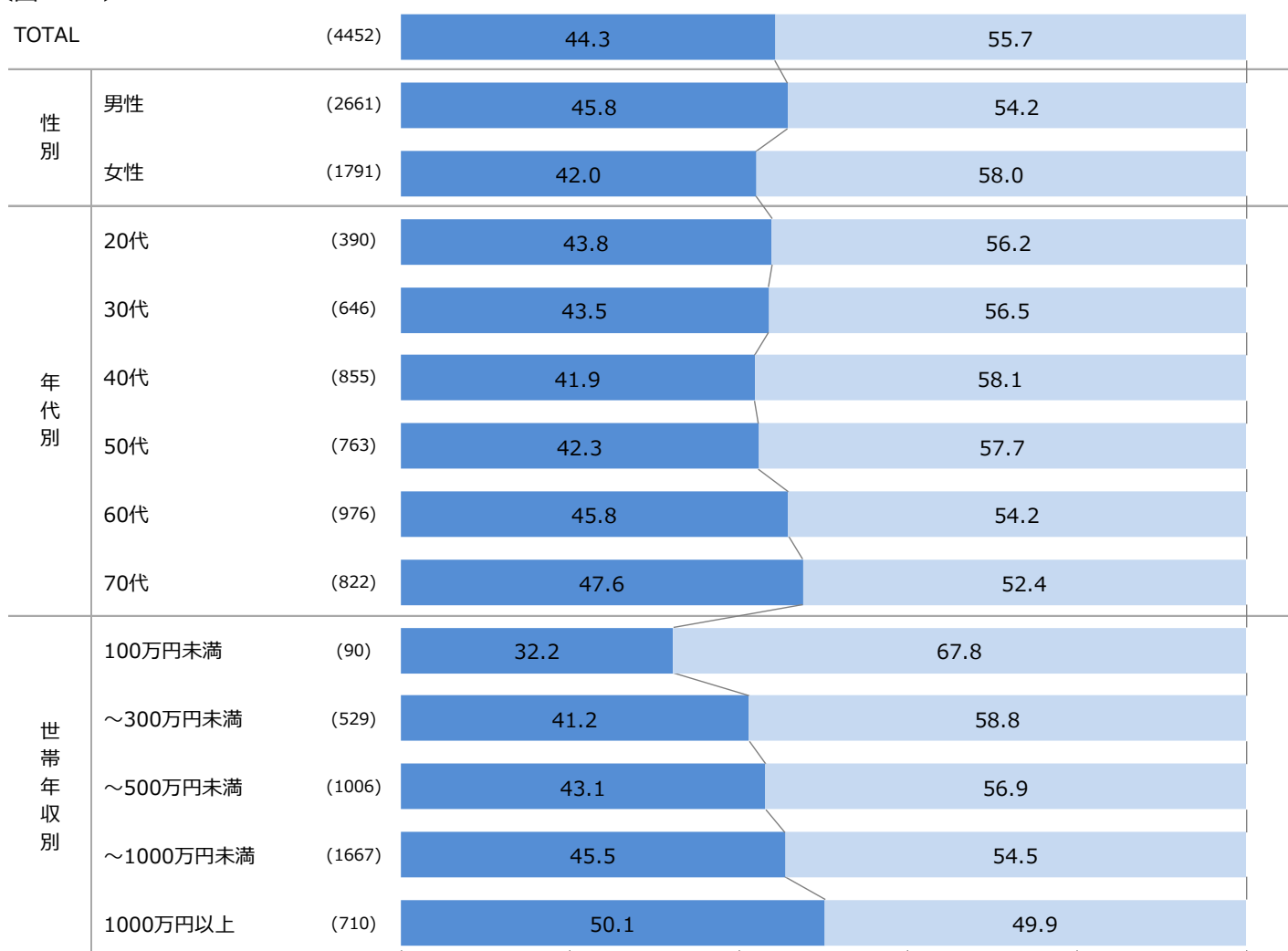
（8）トータルリターン通知制度の認知状況〔Q26:単数回答〕

- 2014年12月から実施の「投資信託の投資期間全体の損益（トータルリターン）通知制度」の現在投信保有層での認知率は44.3%で2017年と同水準となった。〔図4-23〕
- 年代別では60・70代が45%を超えて高く、40代が41.9%と最も低い。また、世帯年収が高いほど認知率も高くなる。〔図4-24〕


〔図 4-23〕



〔図 4-24〕



5. 投資信託購入状況 (現在保有層・保有経験層)



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（1）投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8：重複回答〕

- 興味・関心・購入のきっかけは、「金融機関の人に勧められて」(42.6%)が突出して高い。次いで「インターネットで見たり調べたりして」(23.0%)が続く。前回に比べて、「金融機関の人に勧められて」は9.9ポイント減少した一方、「インターネットで見たり調べたりして」は10.5ポイント増加するなど、情報収集に積極的な状況がみられる。〔図5-1〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別でみると、「金融機関の人に勧められて」は50代以上で年代が上がるほど高くなる。また、「インターネットで見たり調べたりして」「投資信託に関する本を読んで」は40代以下で、「少額投資非課税制度が始まったので」「SNSからの情報通じて」は20・30代で高い傾向。〔図5-2〕
- 投信現在保有層は、保有経験層に比べて「インターネットで見たり調べたりして」「投資信託に関する本を読んで」「少額投資非課税制度が始まったので」などが高い。〔図5-3〕

〔図 5-1〕

	n=	金融機関の人に勧められて	インターネットで見たり調べたりして	投資信託に関する本を読んで	投資信託の商品広告などを見て	家族や友人などから話を聞いて	経済的に余裕ができたので	新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て	少額投資非課税制度が始まったので	DMを見たり、電話案内を聞いて	景気や市場の状況を見て	講演会やセミナーなどで話を聞いて	確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った	老後2000万円に関する各種報道を受けて	SNSからの情報を通じて	確定拠出年金で投資信託を選択して良かったので	その他	(%)
2019年	(6449)	42.6	23.0	11.3	11.2	10.5	10.2	9.9	9.6	9.1	8.2	6.5	5.3	2.7	2.4	2.2	2.9	
2018年	(4588)	52.5	12.5	7.2	7.3	11.6	13.7	6.2	9.9	5.6	8.2	4.7	6.1	-	-	1.8	3.4	

※選択肢「老後2000万円に関する各種報道を受けて」「SNSからの情報を通じて」は2019年より聴取

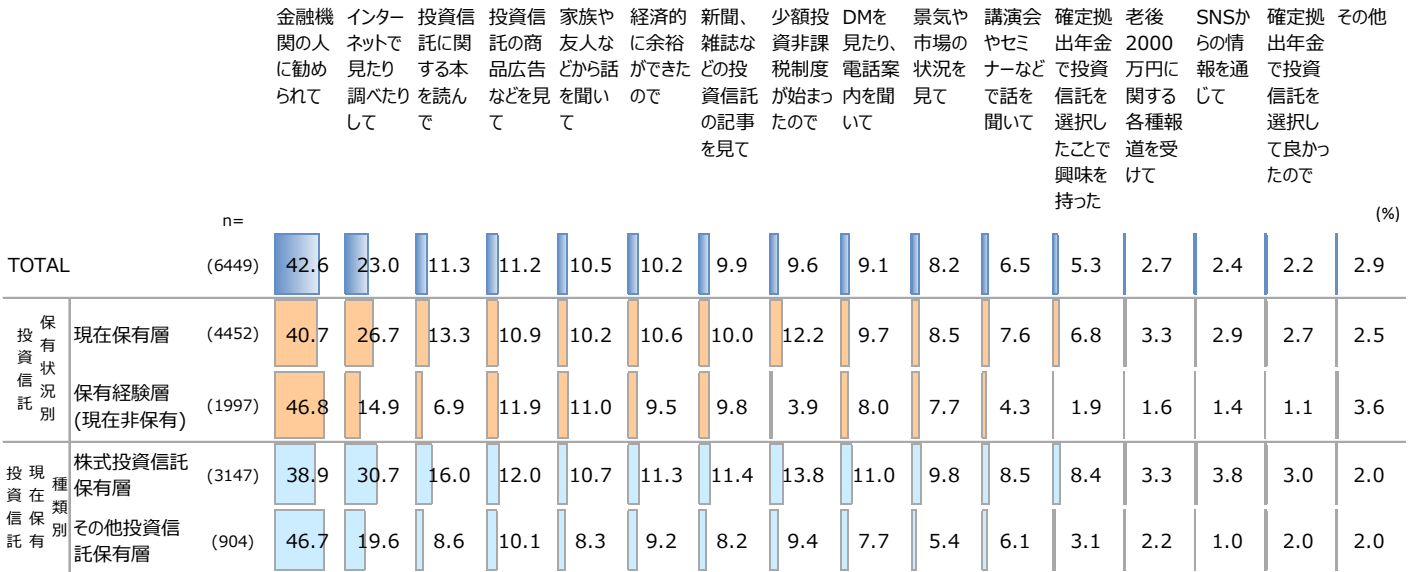
〔図 5-2〕

	n=	金融機関の人に勧められて	インターネットで見たり調べたりして	投資信託に関する本を読んで	投資信託の商品広告などを見て	家族や友人などから話を聞いて	経済的に余裕ができたので	新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て	少額投資非課税制度が始まったので	DMを見たり、電話案内を聞いて	景気や市場の状況を見て	講演会やセミナーなどで話を聞いて	確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った	老後2000万円に関する各種報道を受けて	SNSからの情報を通じて	確定拠出年金で投資信託を選択して良かったので	その他	(%)
TOTAL	(6449)	42.6	23.0	11.3	11.2	10.5	10.2	9.9	9.6	9.1	8.2	6.5	5.3	2.7	2.4	2.2	2.9	
性別																		
男性	(3771)	35.6	29.1	13.9	13.6	7.1	11.1	11.8	9.8	10.7	10.2	6.9	7.4	2.8	3.0	2.9	3.2	
女性	(2678)	52.5	14.5	7.7	7.8	15.2	9.0	7.3	9.3	7.0	5.5	6.0	2.3	2.7	1.6	1.0	2.4	
年代別																		
20代	(476)	23.3	35.3	19.5	12.8	10.1	12.8	8.8	16.4	14.9	9.5	10.1	10.7	6.7	8.4	6.1	1.9	
30代	(791)	23.1	39.6	20.0	12.4	12.6	9.9	9.2	16.6	11.5	8.2	10.1	8.3	5.1	7.0	3.4	1.4	
40代	(1123)	25.8	33.5	16.5	10.7	10.9	10.5	12.1	10.2	8.4	9.3	5.6	8.6	3.3	3.1	3.6	2.2	
50代	(1075)	39.3	23.7	10.9	10.9	9.6	9.4	10.1	8.4	8.2	8.6	5.2	7.6	2.7	1.3	1.7	3.1	
60代	(1534)	54.0	16.2	7.4	11.9	9.1	10.2	10.0	6.4	8.3	8.3	5.1	2.2	1.5	0.7	1.3	3.1	
70代	(1450)	62.8	8.6	4.5	9.9	11.2	10.1	8.8	7.3	8.1	6.7	6.7	0.8	1.0	0.3	0.3	4.0	
世帯年収別																		
100万円未満	(148)	43.9	18.9	12.2	12.2	7.4	4.1	8.1	6.1	9.5	8.1	4.1	2.0	4.1	2.0	0.7	3.4	
～300万円未満	(846)	47.6	19.4	10.4	10.2	8.9	8.6	8.6	8.4	7.6	6.0	5.3	2.0	3.2	1.3	1.2	3.1	
～500万円未満	(1491)	43.7	22.1	11.2	11.9	10.4	10.3	10.1	10.5	7.6	7.4	5.0	3.3	2.0	2.5	1.4	3.4	
～1000万円未満	(2307)	41.0	25.2	11.4	11.1	10.9	10.5	9.9	10.1	10.4	8.1	7.7	7.2	2.9	2.6	2.6	2.0	
1000万円以上	(904)	37.6	28.3	14.7	14.8	10.1	13.9	13.4	10.7	13.6	12.5	9.5	10.1	3.3	4.0	4.3	2.0	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（1）投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8：重複回答〕

〔図 5-3〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（2）投資信託の購入目的〔Q9：重複回答〕

- 投資信託の購入目的は、「老後の生活資金」(50.1%)が最も高く、次いで「資産のリスク分散」(24.8%)、「金銭的に余裕ある生活をするため」(19.9%)、「金融・経済・投資の勉強のため」(14.0%)が多い。〔図5-4〕
- 年代別では、50～70代で「老後の生活資金」が50%以上と高い。「金銭的に余裕ある生活をするため」「金融・経済・投資の勉強のため」は若年層ほど高い。〔図5-5〕
- 投信現在保有層では、「老後の生活資金」「資産のリスク分散」が高い。〔図5-6〕

〔図 5-4〕

	n=	老後の生活資金	資産のリスク分散	金銭的に余裕のある生活をするため	金融・経済・投資の勉強のため	不測の事態への備え	レジャー資金	子供又は孫のための教育などの資金	子供や孫に十分な資産を残したいため	住宅資金	高額商品の購入資金	結婚資金	事業用資金	その他	目的はないが資金を増やしたい
2019年	(6449)	50.1	24.8	19.9	14.0	9.8	7.8	6.4	5.0	4.6	3.5	2.3	1.4	1.0	18.0

〔図 5-5〕

		n=	老後の生活資金	資産のリスク分散	金銭的に余裕のある生活をするため	金融・経済・投資の勉強のため	不測の事態への備え	レジャー資金	子供又は孫のための教育などの資金	子供や孫に十分な資産を残したいため	住宅資金	高額商品の購入資金	結婚資金	事業用資金	その他	目的はないが資金を増やしたい
TOTAL		(6449)	50.1	24.8	19.9	14.0	9.8	7.8	6.4	5.0	4.6	3.5	2.3	1.4	1.0	18.0
性別	男性	(3771)	49.7	28.0	21.4	16.2	10.0	9.1	5.8	5.4	5.5	4.7	2.9	2.0	1.1	15.8
	女性	(2678)	50.6	20.4	17.8	10.8	9.5	5.8	7.1	4.6	3.3	1.9	1.4	0.6	0.9	20.9
年代別	20代	(476)	33.2	23.5	29.2	26.3	8.4	16.6	9.5	4.6	13.7	12.2	10.5	5.9	0.8	15.3
	30代	(791)	46.4	28.3	24.3	23.9	12.3	12.3	12.3	7.2	7.8	7.8	5.3	3.0	0.8	13.5
	40代	(1123)	47.4	25.4	20.3	16.8	9.3	8.8	9.3	4.5	4.8	4.2	1.8	1.5	0.7	17.5
	50代	(1075)	51.2	23.8	19.9	11.1	9.0	5.2	5.3	3.3	3.7	2.4	1.7	0.9	1.0	19.3
	60代	(1534)	55.0	25.4	18.3	10.0	9.5	5.0	3.3	4.4	2.8	1.2	0.6	0.6	1.0	18.5
	70代	(1450)	53.7	23.1	15.8	8.7	10.0	6.4	3.9	6.3	2.2	1.0	0.6	0.3	1.3	19.9
世帯年収別	100万円未満	(148)	35.8	16.2	20.3	11.5	9.5	8.1	3.4	2.0	5.4	4.1	4.7	2.0	2.0	20.9
	～300万円未満	(846)	50.0	20.3	16.8	12.3	9.7	5.3	3.4	2.7	2.4	3.0	2.1	0.7	0.7	20.4
	～500万円未満	(1491)	50.7	23.7	20.5	12.7	9.2	7.8	4.9	3.8	4.5	2.7	2.3	1.4	1.2	17.5
	～1000万円未満	(2307)	52.7	27.5	20.5	15.1	10.3	8.7	8.5	5.9	5.1	4.1	2.3	1.5	0.7	14.7
	1000万円以上	(904)	51.9	31.3	25.1	17.8	10.8	10.4	8.8	8.1	6.7	5.1	3.1	2.8	0.4	14.6

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(2) 投資信託の購入目的〔Q9：重複回答〕

〔図 5-6〕

		n=	老後の生活資金	資産のリスク分散	金銭的に余裕のある生活をするため	金融・経済・投資の勉強のため	不測の事態への備え	レジャー資金	子供又は孫のための教育などの資金	子供や孫に十分な資産を残したいため	住宅資金	高額商品の購入資金	結婚資金	事業用資金	その他	目的はないが資金を増やしたい (%)
TOTAL		(6449)	50.1	24.8	19.9	14.0	9.8	7.8	6.4	5.0	4.6	3.5	2.3	1.4	1.0	18.0
投資信託 保有状況別	現在保有層	(4452)	58.1	27.5	20.6	14.9	10.8	8.1	6.7	6.1	4.4	4.1	2.3	1.6	0.9	15.2
	保有経験層 (現在非保有)	(1997)	32.1	18.9	18.4	11.9	7.5	7.0	5.5	2.6	4.9	2.2	2.3	1.1	1.2	24.1
投資信託 種類別 現在保有	株式投資信託 保有層	(3147)	60.0	30.2	23.1	17.4	11.9	9.4	7.9	7.2	5.1	5.0	2.9	1.8	0.6	12.5
	その他投資信託 保有層	(904)	58.5	25.3	17.4	10.8	9.4	6.0	3.8	4.1	3.5	2.5	0.8	1.2	0.8	14.2

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（3）投資信託購入時参考情報〔Q11：重複回答〕

- 購入時参考情報は、「販売用資料」(30.7%)、「目論見書・運用報告書」(28.7%)、「投資信託を販売している会社のHP」(28.0%)が30%前後で上位。前回に比べて「金融機関の担当者」の話(24.5%)は11.1ポイント減少。〔図5-7〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 多くの参考情報では若年層の方が高いが、インターネット経由の情報は特にその傾向が強い。一方、「金融機関の担当者」の話は高齢層ほど高い。〔図5-8〕
- 投信現在保有種類別では、株式投信保有層で「金融機関の担当者」の話が他層より低く、「目論見書・運用報告書」「投資を販売している会社のHP」「投資に関する情報サイト」「投資信託の評価機関」が他層より高い。〔図5-9〕

〔図 5-7〕

	n=	販売用資料	目論見書・運用報告書	投資信託を販売している会社のHP	金融機関の担当者の話	投資に関する情報サイト	投資信託を運用している会社のHP	新聞	その他のインターネットの情報サイト	投資信託の評価機関	投資信託や資産運用に関する本	親族や知人、友人の話	雑誌	セミナーなど	テレビ番組	SNSからの情報	その他	特にな	(%)
2019年	(6449)	30.7	28.7	28.0	24.5	15.5	15.5	12.8	11.6	11.1	9.2	8.2	5.4	5.3	4.9	4.2	0.4	15.1	
2018年	(4588)	30.0	21.6	21.3	35.6	9.6	11.3	11.2	8.7	8.6	8.1	10.5	5.4	4.4	3.9	-	0.7	13.8	

※選択肢「SNSからの情報」は2019年より聴取

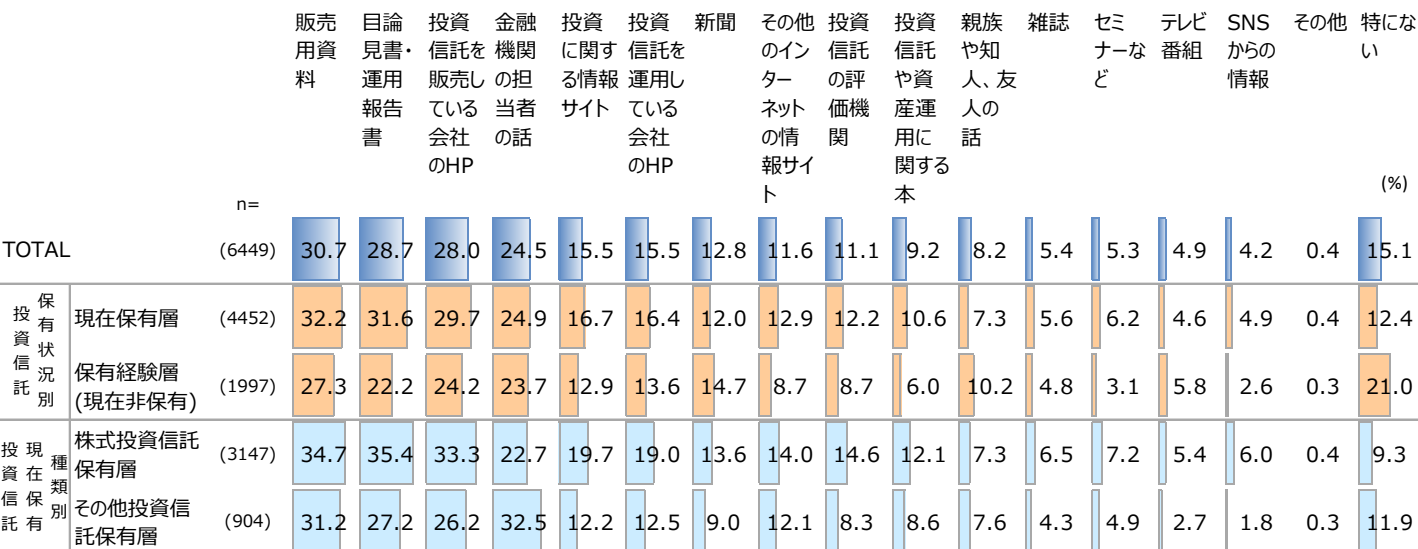
〔図 5-8〕

	n=	販売用資料	目論見書・運用報告書	投資信託を販売している会社のHP	金融機関の担当者の話	投資に関する情報サイト	投資信託を運用している会社のHP	新聞	その他のインターネットの情報サイト	投資信託の評価機関	投資信託や資産運用に関する本	親族や知人、友人の話	雑誌	セミナーなど	テレビ番組	SNSからの情報	その他	特にな	(%)
TOTAL	(6449)	30.7	28.7	28.0	24.5	15.5	15.5	12.8	11.6	11.1	9.2	8.2	5.4	5.3	4.9	4.2	0.4	15.1	
性別																			
男性	(3771)	31.3	33.0	31.0	16.5	18.2	17.9	14.0	13.0	13.4	10.1	4.7	6.4	5.1	4.7	4.7	0.4	15.3	
女性	(2678)	29.8	22.5	23.7	35.9	11.8	12.2	11.2	9.6	8.0	8.0	13.0	3.8	5.5	5.3	3.5	0.4	14.8	
年代別																			
20代	(476)	29.0	33.0	30.9	6.7	19.5	20.4	9.2	20.8	12.4	16.6	8.4	5.0	3.8	6.1	15.8	0.4	11.1	
30代	(791)	28.8	30.7	33.6	10.0	22.1	21.2	10.4	18.3	13.8	15.2	8.3	7.0	5.2	4.3	10.0	0.1	11.0	
40代	(1123)	29.8	30.2	31.9	13.8	21.1	17.6	10.5	15.0	14.6	12.0	9.5	8.4	4.7	4.9	4.8	0.2	12.6	
50代	(1075)	32.1	28.4	28.6	21.9	14.0	14.7	12.1	11.2	11.3	8.4	8.1	5.2	4.3	4.1	2.8	0.4	16.2	
60代	(1534)	32.7	29.0	27.1	32.0	13.0	13.7	14.7	7.7	9.6	6.3	7.0	4.5	5.4	5.5	1.1	0.4	17.2	
70代	(1450)	29.7	24.8	21.6	40.8	10.0	11.7	15.7	6.6	8.0	5.0	8.2	3.3	6.8	4.9	1.0	0.7	17.4	
世帯年収別																			
100万円未満	(148)	27.0	20.9	25.7	17.6	14.2	14.9	5.4	13.5	6.1	6.1	3.4	4.1	4.1	5.4	0.7	1.4	18.9	
～300万円未満	(846)	27.4	24.9	24.8	28.5	12.4	11.8	9.8	12.1	8.0	7.3	5.3	3.1	5.3	4.8	3.8	0.6	16.3	
～500万円未満	(1491)	28.4	26.5	26.3	26.4	15.2	13.1	13.6	10.5	8.9	9.1	7.0	4.4	4.3	4.8	4.8	0.1	16.0	
～1000万円未満	(2307)	33.3	30.6	30.9	23.0	16.7	17.6	12.6	11.9	12.5	9.8	9.8	5.9	5.3	5.1	4.2	0.4	12.0	
1000万円以上	(904)	35.6	36.6	33.1	20.5	19.9	22.1	16.9	14.4	16.7	12.9	9.3	9.0	8.3	5.8	5.4	0.6	12.5	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(3) 投資信託購入時参考情報〔Q11：重複回答〕

〔図 5-9〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（4）投資信託購入の際の重視点〔Q10①：最大3項目回答〕

- 購入時重視点は、「過去の運用実績」(35.2%)が前回より6.1ポイント増加して、最も高い。僅差で「値上がりへの期待」(33.8%)、さらに「値下がりの不安が少ない」(26.5%)が続く。前回に比べて「手数料や運用管理費用の水準」が9.4ポイント、「過去の運用実績」が6.1ポイント増加した。〔図5-10〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別で見ると、「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」「少額から投資できる」は若年層ほど重視率が高い傾向。〔図5-11〕
- 投信現在保有層は「手数料や運用管理費用の水準」が、保有経験層では「換金のしやすさ」が他層より高い。また、株式投信保有層では「過去の運用実績」が他層に比べて高い。〔図5-12〕

〔図 5-10〕

	n=	過去の運用実績	値上がりへの期待	値下がりの不安が少ない	手数料や運用管理費用の水準	少額から投資できる	商品内容のわかりやすさ	換金のしやすさ	過去の分配金額	分配頻度	純資産額の大きさ	商品コンセプト	評価会社による評価	社会性が高い企業が投資先	その他	特にな	(%)
2019年	(6449)	35.2	33.8	26.5	22.6	17.6	11.4	10.8	10.4	10.1	6.2	5.6	4.7	2.9	0.4	12.8	
2018年	(4588)	29.1	32.3	24.0	13.2	21.5	7.8	9.1	10.7	10.9	4.8	7.8	5.8	-	1.9	12.1	
2017年	(4713)	25.7	36.5	-	11.1	-	9.0	9.7	11.0	11.4	5.2	7.4	5.3	-	1.3	13.3	

※選択肢「値下がりの不安が少ない」「少額から投資できる」は2018年より聴取、「社会性が高い企業が投資先」は2019年より聴取

〔図 5-11〕

	n=	過去の運用実績	値上がりへの期待	値下がりの不安が少ない	手数料や運用管理費用の水準	少額から投資できる	商品内容のわかりやすさ	換金のしやすさ	過去の分配金額	分配頻度	純資産額の大きさ	商品コンセプト	評価会社による評価	社会性が高い企業が投資先	その他	特にな	(%)
TOTAL	(6449)	35.2	33.8	26.5	22.6	17.6	11.4	10.8	10.4	10.1	6.2	5.6	4.7	2.9	0.4	12.8	
性別																	
男性	(3771)	37.8	35.6	23.2	24.2	16.2	10.6	11.2	10.4	10.2	6.9	6.3	4.4	2.4	0.4	12.0	
女性	(2678)	31.5	31.4	31.2	20.4	19.5	12.5	10.3	10.4	10.0	5.3	4.6	5.1	3.7	0.3	14.0	
年代別																	
20代	(476)	41.2	30.7	24.8	29.0	16.2	9.5	12.8	4.6	3.8	6.9	6.1	2.1	2.9	0.0	10.3	
30代	(791)	37.0	29.8	25.9	31.1	19.7	8.7	8.6	6.7	9.4	7.1	4.9	3.5	2.5	0.1	10.9	
40代	(1123)	36.0	29.6	23.7	27.2	19.4	10.9	8.0	9.6	9.3	6.4	5.6	4.9	2.0	0.0	11.4	
50代	(1075)	35.7	34.0	25.2	23.3	18.2	12.8	8.6	10.2	8.7	5.1	6.5	5.4	2.1	0.4	13.0	
60代	(1534)	35.1	36.7	27.6	18.9	16.8	12.7	10.7	11.7	10.7	6.6	5.8	5.1	3.0	0.6	13.6	
70代	(1450)	31.4	37.2	29.5	15.9	15.9	11.4	15.3	13.6	13.7	5.9	4.8	5.1	4.3	0.8	14.8	
世帯年収別																	
100万円未満	(148)	27.0	27.0	17.6	16.9	18.9	11.5	13.5	7.4	9.5	2.0	2.0	4.7	3.4	0.7	18.2	
～300万円未満	(846)	28.7	33.5	25.7	22.0	19.3	9.8	11.6	9.1	10.3	5.9	5.7	5.0	2.1	0.5	15.5	
～500万円未満	(1491)	35.5	34.9	26.9	21.3	19.4	11.5	11.1	10.9	11.3	5.6	5.3	4.6	3.0	0.5	11.1	
～1000万円未満	(2307)	37.8	33.7	26.9	23.9	18.6	11.7	10.8	11.2	10.0	6.7	5.4	5.9	3.2	0.3	11.1	
1000万円以上	(904)	40.6	37.3	24.8	27.3	12.1	12.6	10.2	10.4	9.6	7.5	7.4	4.2	3.1	0.1	10.3	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（4）投資信託購入の際の重視点〔Q10①：最大3項目回答〕

〔図 5-12〕

		n=	過去の運用実績	値上がりへの期待	値下がりの不安が少ない	手数料や運用管理費用の水準	少額から投資できる	商品内容のわかりやすさ	換金のしやすさ	過去の分配金額	分配頻度	純資産額の大きさ	商品コンセプト	評価会社による評価	社会性が高い企業が投資先	その他	特にな	(%)
TOTAL		(6449)	35.2	33.8	26.5	22.6	17.6	11.4	10.8	10.4	10.1	6.2	5.6	4.7	2.9	0.4	12.8	
投資信託 保有状況別	現在保有層	(4452)	35.8	33.4	24.6	25.7	17.6	11.2	9.2	10.5	10.9	7.5	6.8	5.2	3.1	0.4	11.3	
	保有経験層 (現在非保有)	(1997)	33.9	34.8	30.7	15.8	17.6	11.8	14.4	10.1	8.5	3.4	2.8	3.6	2.4	0.4	16.3	
投資信託 種類別	株式投資信託 保有層	(3147)	39.5	36.6	23.7	28.2	17.7	11.7	9.5	9.9	10.4	8.6	7.1	5.4	3.2	0.3	8.3	
	その他投資信託 保有層	(904)	30.8	28.8	29.3	23.6	20.2	12.1	10.0	14.0	14.3	6.2	7.5	5.5	3.3	0.6	8.2	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（4）今後、投資信託購入の際に重視したい点〔Q10②：最大3項目回答〕

- 今後の重視点では、「値上がりへの期待」(26.5%)、「過去の運用実績」(24.7%)、「値下がりの不安が少ない」(23.2%)が僅差で上位に並ぶ。購入時重視点（〔図5-11〕）に比べて、「過去の運用実績」「値上がりへの期待」「値下がりの不安が少ない」「少額から投資できる」が低い。「値下がりの不安が少ない」は前回より9.3ポイント減少。
〔図5-13〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別で見ると、若年層ほど「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」「少額から投資できる」が高くなる傾向。〔図5-14〕
- 投信現在保有層では「手数料や運用管理費用の水準」他層に比べて高い。また、株式投信保有層では「値上がりへの期待」「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」が、その他投信保有層では「値下がりの不安が少ない」が高い。〔図5-15〕

〔図 5-13〕

	n=	値上りへの期待	過去の運用実績	値下がりの不安が少ない	手数料や運用管理費用の水準	少額から投資できる	商品内容のわかりやすさ	換金のしやすさ	過去の分配金額	分配頻度	商品コンセプト	純資産額の大きさ	評価会社による評価	社会性が高い企業が投資先	その他	特にな	(%)
2019年	(6449)	26.5	24.7	23.2	19.3	11.4	8.3	8.0	6.8	6.3	5.4	5.0	3.6	3.2	0.5	17.4	
2018年	(4588)	29.5	23.8	32.5	16.8	16.4	10.2	10.7	8.8	8.3	8.0	5.8	6.1	-	1.3	15.7	
2017年	(4713)	35.8	24.2	-	14.2	-	9.7	11.3	8.7	8.5	7.3	5.6	5.7	-	0.4	16.2	

※選択肢「値下がりの不安が少ない」「少額から投資できる」は2018年より聴取、「社会性が高い企業が投資先」は2019年より聴取

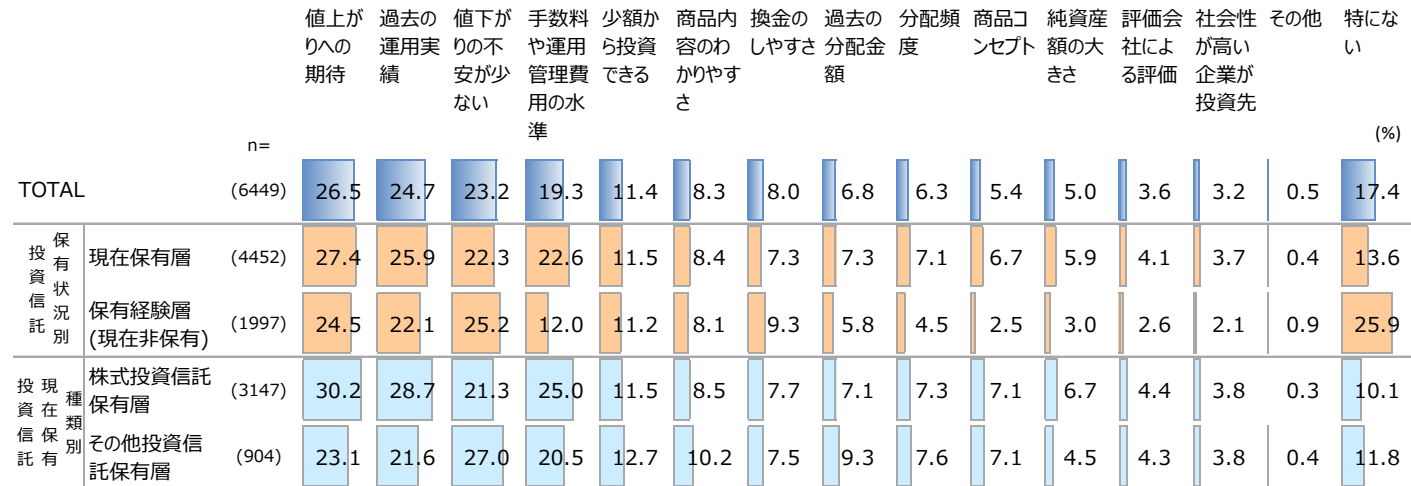
〔図 5-14〕

TOTAL		n=	値上りへの期待	過去の運用実績	値下がりの不安が少ない	手数料や運用管理費用の水準	少額から投資できる	商品内容のわかりやすさ	換金のしやすさ	過去の分配金額	分配頻度	商品コンセプト	純資産額の大きさ	評価会社による評価	社会性が高い企業が投資先	その他	特にな	(%)
TOTAL		(6449)	26.5	24.7	23.2	19.3	11.4	8.3	8.0	6.8	6.3	5.4	5.0	3.6	3.2	0.5	17.4	
性別	男性	(3771)	28.5	26.8	19.9	21.0	10.5	7.9	8.2	7.3	6.5	5.9	5.5	3.2	2.8	0.5	15.9	
	女性	(2678)	23.6	21.9	27.9	16.9	12.7	8.9	7.7	6.1	5.9	4.7	4.3	4.2	3.8	0.7	19.6	
年代別	20代	(476)	26.5	31.5	24.4	25.8	11.3	7.1	8.6	4.4	4.6	5.9	6.7	2.7	2.9	0.0	11.1	
	30代	(791)	27.3	30.2	21.0	27.7	13.8	6.7	7.2	5.4	7.6	5.4	5.7	2.8	2.3	0.1	11.8	
	40代	(1123)	25.9	27.8	21.5	24.1	14.4	7.5	6.7	7.2	6.1	5.8	5.1	3.8	3.3	0.1	12.8	
	50代	(1075)	26.0	26.0	22.5	19.8	12.7	8.9	6.8	7.6	5.4	6.4	4.1	3.8	2.9	0.6	16.3	
	60代	(1534)	27.3	21.6	24.1	15.0	10.4	9.1	8.0	7.0	5.8	5.2	5.0	3.4	3.3	0.7	19.8	
	70代	(1450)	25.9	19.6	24.9	13.1	7.9	9.0	10.0	7.3	7.3	4.3	4.6	4.3	3.7	1.1	24.6	
世帯年収別	100万円未満	(148)	18.9	18.9	22.3	14.2	14.2	8.1	7.4	3.4	8.1	2.7	2.7	3.4	4.1	1.4	25.0	
	～300万円未満	(846)	22.9	20.1	22.7	18.2	13.8	6.7	8.6	5.4	6.5	5.1	3.9	3.4	2.0	0.8	22.9	
	～500万円未満	(1491)	26.6	24.4	24.0	18.6	12.0	8.7	7.8	6.9	5.8	4.6	5.0	3.4	3.0	0.7	16.4	
	～1000万円未満	(2307)	27.8	26.9	22.8	20.5	11.8	8.8	8.1	8.1	6.9	5.8	5.2	4.4	3.4	0.3	13.7	
	1000万円以上	(904)	30.6	29.6	22.3	23.1	7.5	9.2	8.5	7.0	6.6	7.2	6.0	3.4	4.5	0.0	13.7	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（4）今後、投資信託購入の際に重視したい点〔Q10②：最大3項目回答〕

〔図 5-15〕

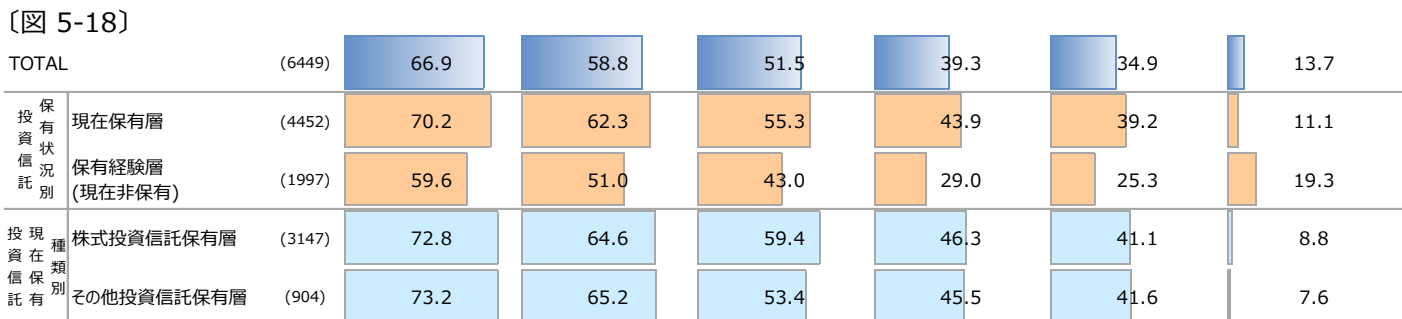
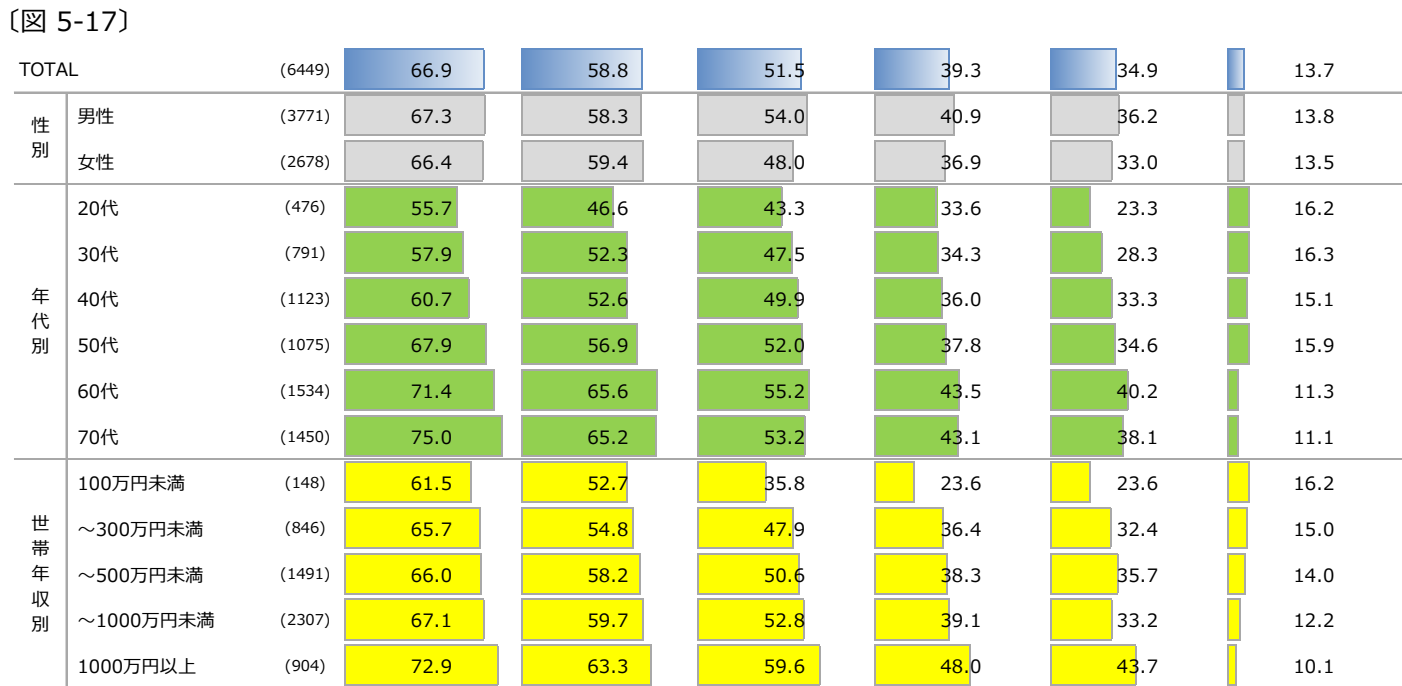
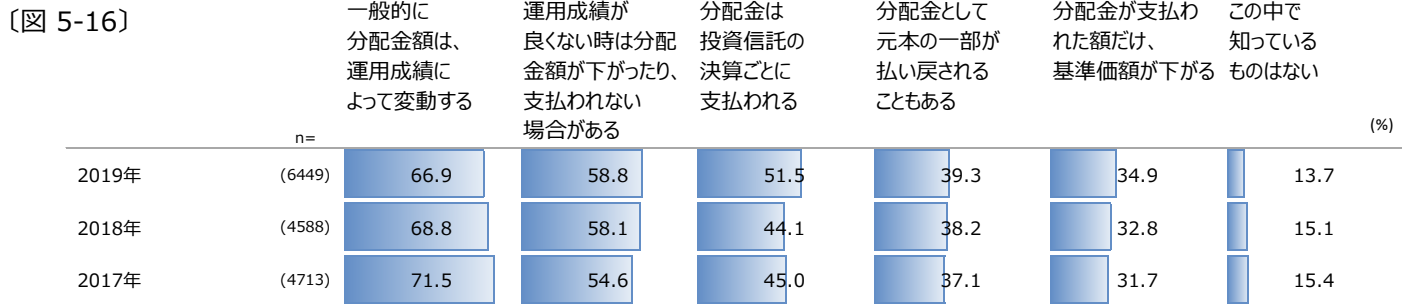


5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（5）分配金の特徴認知状況〔Q13:重複回答〕

- 分配金の特徴認知は、「運用成績によって変動する」(66.9%)が最も高く、「運用成績が良くない時は分配金額が下がったり、支払われない場合がある」(58.8%)が続く。「分配金は投資信託の決算ごとに支払われる」(51.5%)は、前回より7.4ポイント高い。〔図5-16〕
* 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる

- どの特徴も、年代が高いほど認知率が高い傾向。〔図5-17〕
- 現在投信保有層では、いずれの特徴でも認知率が高い。〔図5-18〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（5）分配金の特徴認知状況（毎月分配型保有者）〔Q13:重複回答〕

〔図 5-19〕

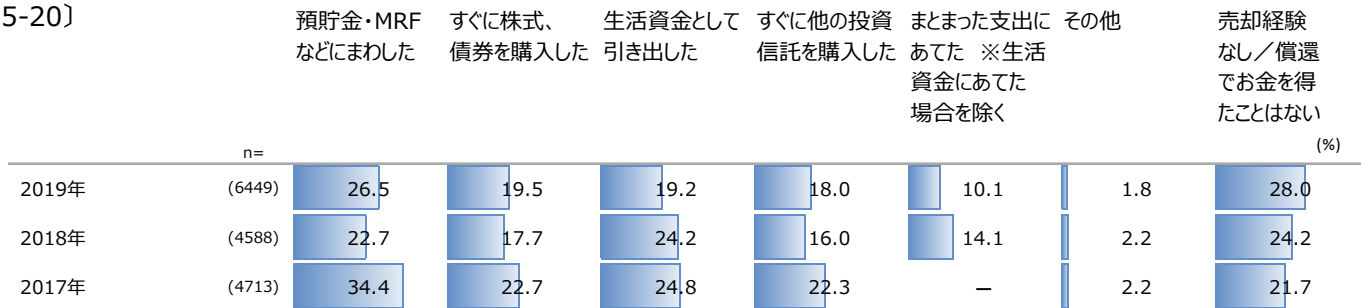
		一般的に 分配金額は、 運用成績に よって変動する	運用成績が 良くない時は分配 金額が下がったり、 支払われない 場合がある	分配金は 投資信託の 決算ごとに 支払われる	分配金として 元本の一部が 払い戻される こともある	分配金が支払わ れた額だけ、 基準価額が下がる	この中で 知っている ものはない	(%)
	TOTAL (1824)	80.0	70.7	62.1	52.4	48.2	3.7	
毎月分配型 投資信託別	20代 (130)	65.4	53.1	50.8	33.8	26.2	3.8	
	30代 (216)	69.9	62.0	56.0	42.6	33.3	5.6	
	40代 (312)	72.1	61.2	56.7	42.3	40.1	3.8	
	50代 (296)	82.8	67.9	65.9	52.0	49.7	4.7	
	60代 (428)	86.9	77.8	68.0	58.6	56.3	3.0	
	70代 (442)	86.2	81.7	64.0	63.8	59.0	2.7	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(6) 償還・売却資金の流出先〔Q14:重複回答〕

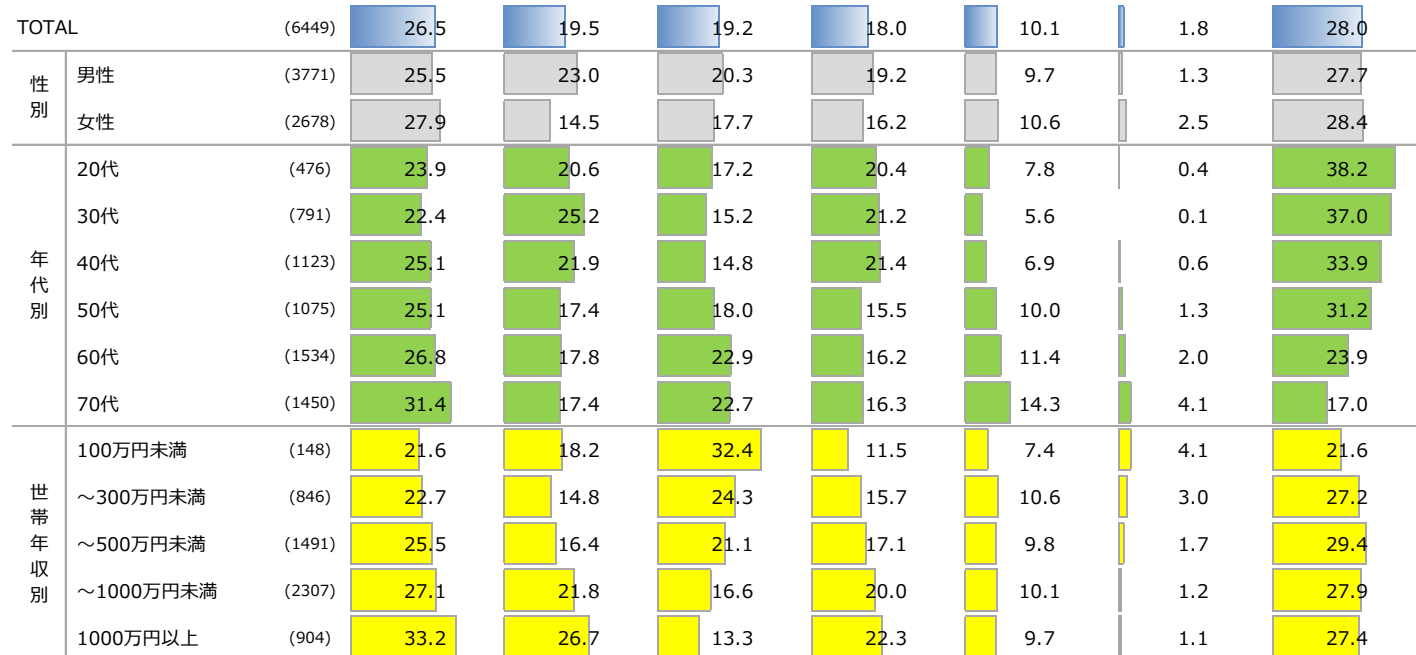
- 投資信託の償還・売却資金流出先は、「預貯金・MRFなどにまわした」(26.5%)が最も高いが、「売却経験なし／償還でお金を得たことはない」も28.0%と高い。〔図5-20〕
- 年代別で見ると、高齢層ほど「生活資金」「預貯金・MRF」「まとまった支出」が増加する傾向。「すぐに株式・債券を購入」「すぐに他の投資信託購入」は40代以下でやや高い。〔図5-21〕

〔図 5-20〕

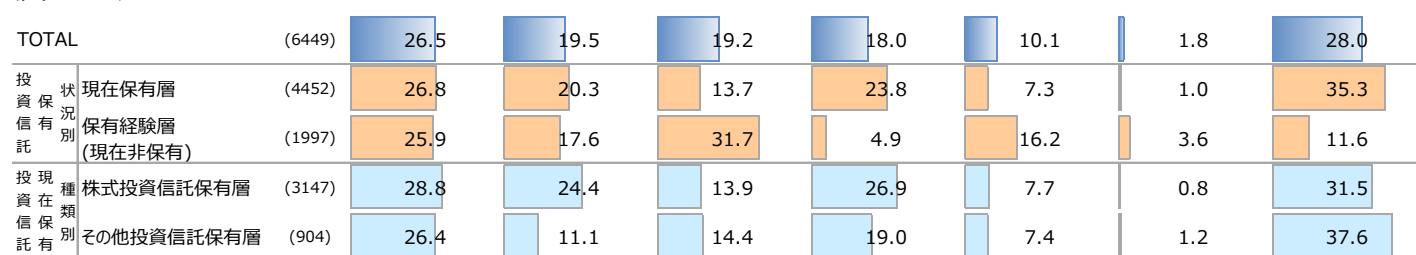


※選択肢「まとまった支出にあてた ※生活資金にあてた場合を除く」は2018年より聴取

〔図 5-21〕



〔図 5-22〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(6) 償還・売却資金の流出先〔Q14:重複回答〕

〔図 5-23〕

		預貯金・MRF などにまわした	すぐに株式、 債券を購入した	生活資金として 引き出した	すぐに他の投資 信託を購入した	まとまった支出に あてた ※生活資金 にあてた場合を除く	その他	売却経験なし/ 償還でお金を 得たことはない	(%)
2019年		n=(6449) 26.5	19.5	19.2	18.0	10.1	1.8	28.0	
20代	100万円未満	(12) 33.3	33.3	33.3	8.3	8.3	0.0	16.7	
	～300万円未満	(63) 22.2	17.5	11.1	23.8	12.7	0.0	39.7	
	～500万円未満	(133) 21.8	17.3	20.3	14.3	3.8	0.0	44.4	
	～1000万円未満	(157) 19.7	21.0	17.8	25.5	8.3	1.3	36.3	
	1000万円以上	(63) 38.1	23.8	14.3	25.4	7.9	0.0	27.0	
30代	100万円未満	(17) 5.9	41.2	17.6	11.8	5.9	0.0	35.3	
	～300万円未満	(55) 25.5	21.8	7.3	21.8	5.5	0.0	38.2	
	～500万円未満	(192) 22.4	17.2	13.0	22.9	5.2	0.0	39.1	
	～1000万円未満	(377) 21.2	27.6	15.9	20.4	5.0	0.3	38.5	
	1000万円以上	(94) 31.9	33.0	20.2	27.7	5.3	0.0	24.5	
40代	100万円未満	(14) 35.7	28.6	0.0	14.3	7.1	7.1	21.4	
	～300万円未満	(93) 17.2	18.3	22.6	16.1	7.5	1.1	36.6	
	～500万円未満	(216) 19.0	15.3	13.0	17.6	6.0	0.0	41.7	
	～1000万円未満	(514) 25.3	22.8	13.2	24.3	7.0	0.2	33.1	
	1000万円以上	(195) 39.0	27.7	16.4	22.1	7.2	1.5	27.7	
50代	100万円未満	(34) 20.6	14.7	29.4	11.8	5.9	2.9	29.4	
	～300万円未満	(89) 20.2	11.2	28.1	16.9	9.0	2.2	31.5	
	～500万円未満	(150) 25.3	11.3	24.0	13.3	7.3	0.0	34.0	
	～1000万円未満	(430) 24.4	17.4	17.4	15.1	11.9	1.4	29.1	
	1000万円以上	(259) 29.3	23.6	10.4	20.1	9.3	1.2	30.9	
60代	100万円未満	(45) 20.0	11.1	46.7	15.6	8.9	4.4	15.6	
	～300万円未満	(254) 22.0	12.6	29.1	12.6	10.2	2.4	28.0	
	～500万円未満	(362) 28.5	14.4	25.4	16.3	9.9	2.2	23.8	
	～1000万円未満	(478) 29.5	21.8	18.4	17.4	13.2	2.1	19.7	
	1000万円以上	(215) 29.3	27.4	12.1	22.3	13.0	1.4	27.0	
70代	100万円未満	(26) 23.1	7.7	38.5	3.8	7.7	7.7	15.4	
	～300万円未満	(292) 25.3	14.7	25.7	15.1	13.0	5.5	17.5	
	～500万円未満	(438) 28.8	19.6	24.2	17.1	16.2	4.1	17.8	
	～1000万円未満	(351) 39.3	19.7	18.2	20.2	14.8	2.3	14.8	
	1000万円以上	(78) 39.7	26.9	9.0	21.8	15.4	1.3	20.5	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（7）投資信託の優れていると感じる点〔Q15①：重複回答〕

- 魅力点上位は前回と変わらず「少額でも分散投資ができる」(49.2%)、「専門知識や時間がなくても投資ができる」(32.0%)が続く。「積立投資ができる」(26.3%)は前回より4.9ポイント、「少額でも分散投資ができる」は4.8ポイント増加した。〔図5-24〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別で見ると、若年層ほど「少額でも分散投資ができる」「積立投資ができる」「少額でも投資の面白味がある」「手数料が比較的安い」が高く、高齢層ほど「定期的に分配金が受け取れる」が高くなる傾向。〔図5-25〕
- 投信現在保有層は保有経験層に比べて各項目で高いが、中でも「少額でも分散投資ができる」「専門知識がなくても投資ができる」「積立投資ができる」「種類が豊富で目的に応じたものが選べる」「分配金が自動的に再投資される商品がある」が高い。〔図5-26〕

〔図 5-24〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資ができる	積立投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	購入手続きが簡単である	少額でも投資の面白味がある	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	分配金が自動的に再投資される商品がある	手数料が比較的安い	海外投資が手軽にできる	購入後の運用に関する情報が多い	その他	わからない・特にない	(%)
2019年	(6449)	49.2	32.0	26.3	25.2	22.8	22.2	21.9	19.3	18.9	11.6	11.1	7.0	0.2	18.6	
2018年	(4588)	44.4	30.1	21.4	27.3	22.6	20.1	24.4	17.5	16.4	8.7	8.8	5.0	0.5	18.7	
2017年	(4713)	39.8	39.5	20.3	29.9	23.4	19.0	22.4	17.4	19.1	7.4	10.1	4.7	0.2	19.0	

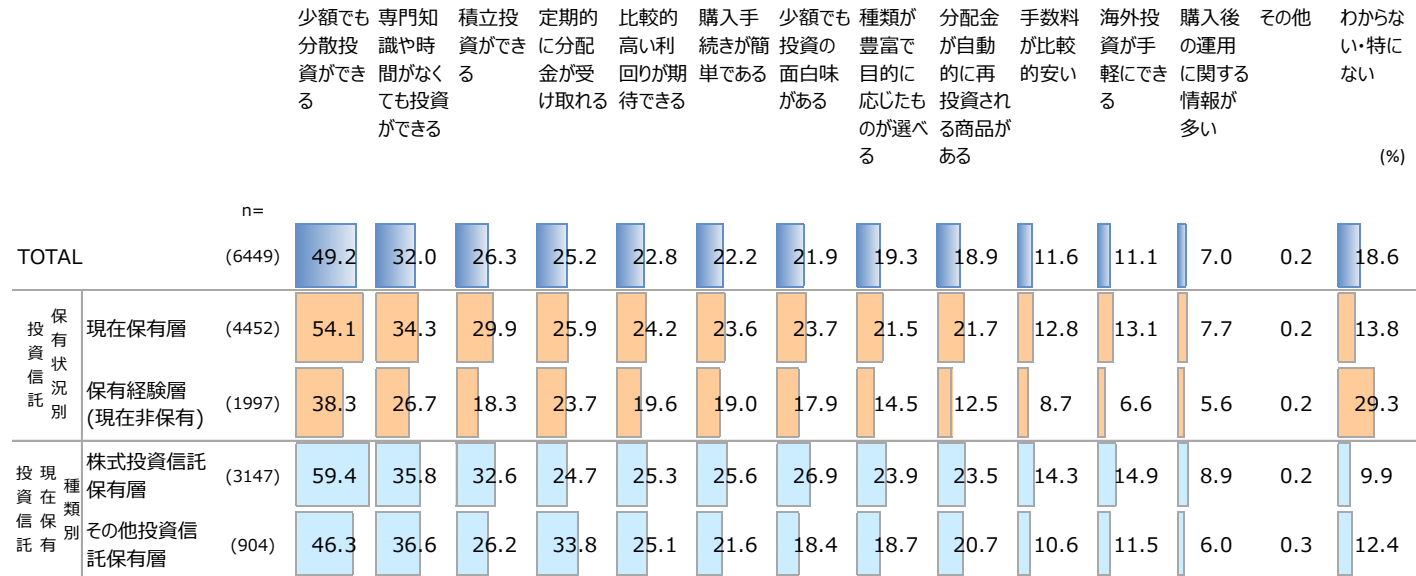
〔図 5-25〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資ができる	積立投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	購入手続きが簡単である	少額でも投資の面白味がある	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	分配金が自動的に再投資される商品がある	手数料が比較的安い	海外投資が手軽にできる	購入後の運用に関する情報が多い	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL	(6449)	49.2	32.0	26.3	25.2	22.8	22.2	21.9	19.3	18.9	11.6	11.1	7.0	0.2	18.6	
性別																
男性	(3771)	51.6	33.1	26.9	22.1	22.0	21.6	22.9	20.8	19.2	11.8	11.9	7.5	0.2	17.9	
女性	(2678)	45.8	30.3	25.5	29.6	23.8	23.0	20.5	17.3	18.3	11.3	10.0	6.4	0.1	19.5	
年代別																
20代	(476)	60.7	34.0	35.1	14.3	18.9	19.7	31.9	20.6	16.4	17.4	11.3	10.1	0.4	9.0	
30代	(791)	61.3	35.1	35.3	11.3	19.3	22.3	29.7	22.0	15.4	15.0	11.6	6.6	0.0	10.7	
40代	(1123)	55.7	29.0	29.0	18.4	19.6	19.9	24.1	17.4	15.7	12.3	11.0	6.4	0.4	15.7	
50代	(1075)	52.2	28.7	25.4	20.2	23.6	19.3	21.1	17.9	17.9	12.1	10.3	5.4	0.2	19.3	
60代	(1534)	42.8	31.9	22.8	30.2	24.3	24.1	16.7	21.3	19.9	10.6	11.1	7.8	0.2	22.3	
70代	(1450)	38.2	34.3	20.9	40.2	26.1	24.9	18.7	17.9	23.6	7.9	11.4	7.2	0.1	23.8	
世帯年収別																
100万円未満	(148)	41.9	31.8	16.9	17.6	18.9	25.0	16.2	14.2	15.5	12.8	11.5	4.7	0.7	27.7	
～300万円未満	(846)	43.4	32.0	22.5	28.8	20.7	24.7	20.7	18.0	16.4	11.7	11.9	6.5	0.4	24.0	
～500万円未満	(1491)	48.7	33.1	26.2	27.1	21.3	22.2	20.9	18.9	19.9	11.9	10.0	6.8	0.0	17.8	
～1000万円未満	(2307)	53.4	33.0	29.2	24.3	24.7	22.5	24.4	21.6	18.7	12.1	10.8	7.6	0.0	13.8	
1000万円以上	(904)	52.7	34.1	29.2	21.7	27.0	22.7	23.2	20.6	21.2	11.3	15.3	8.5	0.6	14.4	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（7）投資信託の優れていると感じる点〔Q15①：重複回答〕

〔図 5-26〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（7）投資信託で特に魅力を感じる点〔Q15②：単数回答〕

- 投資信託で特に魅力を感じる点としては、「少額でも分散投資ができる」(23.2%)、「専門知識や時間がなくても投資できる」(12.3%)が上位にあがる。「少額でも分散投資ができる」は前回より5.0ポイント増加。〔図5-27〕
* 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別では、若年層ほど「少額でも分散投資ができる」「積立投資ができる」「少額でも投資の面白味がある」が高く、高齢層ほど「比較的高い利回りが期待できる」「定期的に分配金が受け取れる」が高くなる傾向。〔図5-28〕
- 投信現在保有層、株式投信保有層では、「少額でも分散投資ができる」が高く、その他投信保有層では「定期的に分配金が受け取れる」が高い。〔図5-29〕

〔図 5-27〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資できる	比較的高い利回りが期待できる	定期的に分配金が受け取れる	積立投資ができる	少額でも投資の面白味がある	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	手数料が比較的安い	購入手続きが簡単である	分配金が自動的に再投資される商品がある	海外投資が手軽にできる	購入後の運用に関する情報が多い	その他	わからない・特にな	(%)
2019年	(6449)	23.2	12.3	9.4	9.2	6.9	6.1	3.2	2.5	2.3	2.1	1.6	0.8	0.2	20.0	
2018年	(4588)	18.2	14.0	11.0	12.5	5.6	8.1	3.3	1.9	2.5	2.1	1.3	0.4	0.4	18.7	
2017年	(4713)	15.2	18.3	10.7	12.8	5.6	6.9	3.4	1.4	2.4	2.3	1.4	0.3	0.2	19.0	

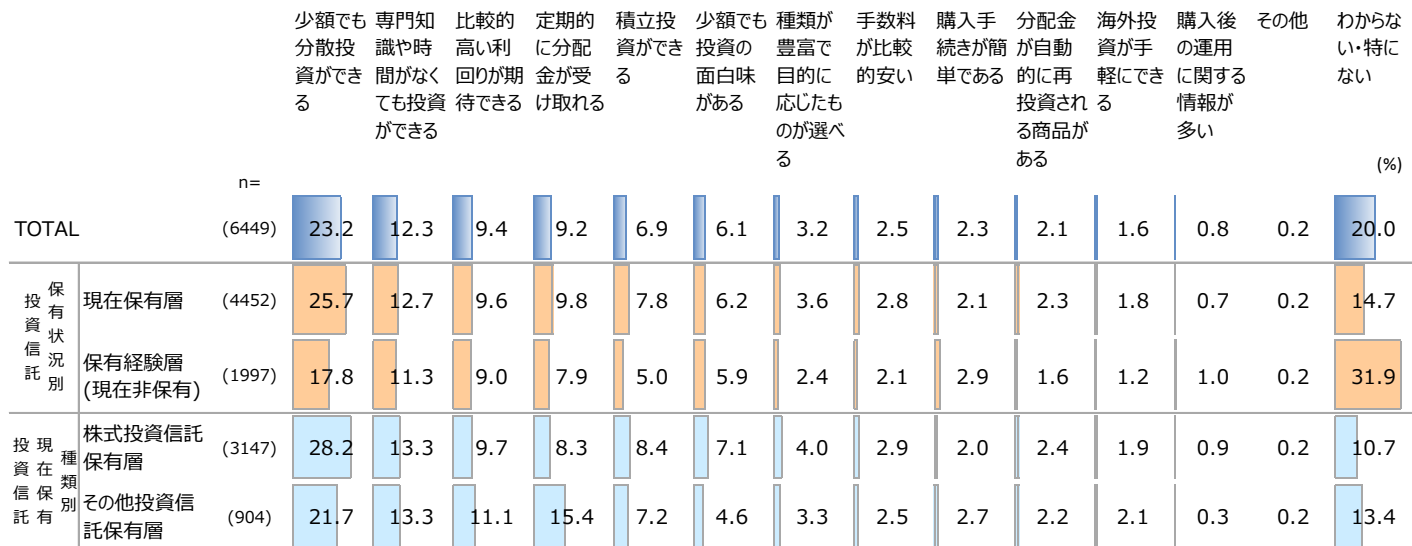
〔図 5-28〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資できる	比較的高い利回りが期待できる	定期的に分配金が受け取れる	積立投資ができる	少額でも投資の面白味がある	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	手数料が比較的安い	購入手続きが簡単である	分配金が自動的に再投資される商品がある	海外投資が手軽にできる	購入後の運用に関する情報が多い	その他	わからない・特にな	(%)
TOTAL	(6449)	23.2	12.3	9.4	9.2	6.9	6.1	3.2	2.5	2.3	2.1	1.6	0.8	0.2	20.0	
性別																
男性	(3771)	25.3	12.5	9.4	6.9	7.3	6.5	3.8	2.7	1.9	2.1	1.7	0.8	0.2	18.8	
女性	(2678)	20.3	11.9	9.5	12.5	6.3	5.5	2.5	2.4	2.9	2.1	1.5	0.7	0.1	21.7	
年代別																
20代	(476)	36.8	12.2	6.3	2.7	9.0	11.3	4.0	2.3	2.5	1.5	1.1	1.1	0.2	9.0	
30代	(791)	34.8	12.4	6.1	2.9	10.5	9.4	3.4	3.7	1.6	1.6	1.9	0.9	0.0	10.9	
40代	(1123)	29.1	10.9	8.2	5.1	9.6	7.4	2.7	3.1	2.1	1.9	2.2	1.0	0.4	16.3	
50代	(1075)	25.7	11.5	10.7	7.5	6.5	5.5	3.0	3.3	1.8	1.4	2.0	0.5	0.2	20.4	
60代	(1534)	17.5	12.8	11.0	11.6	5.3	4.1	3.8	2.0	2.9	2.3	1.4	1.0	0.1	24.1	
70代	(1450)	12.2	13.3	10.6	16.8	4.2	4.2	2.8	1.6	2.7	3.0	1.0	0.5	0.1	27.0	
世帯年収別																
100万円未満	(148)	20.3	10.8	7.4	6.8	3.4	6.1	0.7	2.7	5.4	2.0	2.7	0.7	0.0	31.1	
～300万円未満	(846)	19.7	13.8	7.4	12.2	4.3	6.1	2.1	1.5	2.8	1.4	1.8	0.7	0.4	25.7	
～500万円未満	(1491)	22.1	13.7	8.5	10.7	7.2	6.1	2.9	3.0	2.2	2.5	1.2	0.7	0.0	19.2	
～1000万円未満	(2307)	25.4	12.2	10.9	8.5	8.1	6.9	3.9	2.5	2.1	2.4	1.4	1.0	0.0	14.7	
1000万円以上	(904)	27.5	12.9	11.5	4.8	8.2	5.0	4.2	2.7	2.0	1.8	2.9	0.8	0.6	15.3	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（7）投資信託で特に魅力を感じる点〔Q15②：単数回答〕

〔図 5-29〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（8）投資信託で不満に感じる点〔Q16①：重複回答〕

- 不満点は、「手数料が比較的高い」(29.3%)、「元本保証がない」(27.7%)、「仕組みや運用手法がわかりにくい」(27.4%)、「リターンが低い」(25.8%)が上位。前回に比べて、「元本保証がない」は6.4ポイント、「専門知識がないと商品を選びにくい」(21.9%)が5.5ポイント減少。〔図5-30〕
* 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- どの不満も高齢層ほど高くなる傾向だが、「手数料が比較的高い」「元本保証がない」「種類が多く選択に迷う」は高齢層ほど高い。〔図5-31〕
- 株式投信保有層では、他層に比べて「元本保証がない」が低く、「株式に比べて面白さに欠ける」が高い。〔図5-32〕

〔図 5-30〕

	n=	手数料が比較的高い	元本保証がない	仕組みや運用手法がわかりにくい	リターンが低い	専門知識がないと商品を選びにくい	公社債に比べてリスクが高い	株式に比べて面白さに欠ける	種類が多く選択に迷う	購入後の運用に関する情報が少ない	クローズド期間がある	手続きがわずらわしい	その他	わからない・特にない	(%)
2019年	(6449)	29.3	27.7	27.4	25.8	21.9	17.0	16.8	16.6	11.3	7.4	7.1	0.5	19.1	
2018年	(4588)	28.5	34.1	30.1	22.1	27.4	17.3	15.0	19.0	12.5	7.9	8.0	0.6	13.6	
2017年	(4713)	26.5	51.5	26.5	19.5	21.2	16.7	14.6	17.4	11.1	7.6	6.7	0.4	15.6	

〔図 5-31〕

		n=	手数料が比較的高い	元本保証がない	仕組みや運用手法がわかりにくい	リターンが低い	専門知識がないと商品を選びにくい	公社債に比べてリスクが高い	株式に比べて面白さに欠ける	種類が多く選択に迷う	購入後の運用に関する情報が少ない	クローズド期間がある	手続きがわずらわしい	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL		(6449)	29.3	27.7	27.4	25.8	21.9	17.0	16.8	16.6	11.3	7.4	7.1	0.5	19.1	
性別	男性	(3771)	28.5	19.6	23.6	27.6	17.2	14.5	19.1	14.5	10.3	6.5	6.4	0.6	21.6	
	女性	(2678)	30.5	39.0	32.7	23.3	28.6	20.6	13.6	19.7	12.7	8.7	8.0	0.3	15.5	
年代別	20代	(476)	16.0	10.9	25.6	29.2	21.0	12.4	16.6	12.4	10.7	6.9	9.2	0.6	18.5	
	30代	(791)	20.0	13.3	21.6	28.3	17.7	12.3	15.9	11.3	9.6	6.4	8.6	0.3	21.5	
	40代	(1123)	24.8	18.7	25.4	26.1	20.6	11.3	17.0	14.1	10.2	6.3	9.6	0.5	21.0	
	50代	(1075)	28.4	27.8	25.7	24.0	19.4	15.2	13.0	17.8	9.8	8.1	7.8	0.7	20.6	
	60代	(1534)	33.7	32.7	29.1	24.5	23.0	20.5	15.8	18.8	11.8	7.5	5.6	0.5	18.7	
	70代	(1450)	38.4	42.6	32.1	25.7	26.3	23.1	21.1	19.8	13.9	8.3	4.6	0.3	15.7	
世帯年収別	100万円未満	(148)	25.7	27.0	31.8	25.0	21.6	19.6	6.8	18.2	10.1	4.7	6.1	2.0	23.0	
	～300万円未満	(846)	27.4	31.4	29.9	23.9	23.4	17.7	16.4	16.1	11.8	6.4	6.6	0.7	19.0	
	～500万円未満	(1491)	29.3	31.7	26.8	27.2	22.3	17.8	16.5	17.4	10.5	8.5	5.9	0.2	18.5	
	～1000万円未満	(2307)	28.0	25.1	27.9	25.8	22.1	17.1	17.8	17.0	11.9	6.7	7.7	0.3	16.7	
	1000万円以上	(904)	32.1	21.8	23.1	27.4	18.3	15.2	20.6	14.9	11.0	9.8	6.7	0.7	19.5	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(8) 投資信託で不満に感じる点〔Q16①：重複回答〕

〔図 5-32〕

		n=	手数料 が比較 的高い	元本保 証がない	仕組み や運用 手法が わかりに くい	リターン が低い	専門知 識がない と商品を 選びにく い	公社債 に比べて リスクが 高い	株式に 比べて 面白さに 欠ける	種類が 多く選択 に迷う	購入後 の運用 に関する 情報が 少ない	クローズ ド期間が ある	手続きが わずらわ しい	その他	わからな い・特に ない	(%)
TOTAL		(6449)	29.3	27.7	27.4	25.8	21.9	17.0	16.8	16.6	11.3	7.4	7.1	0.5	19.1	
投資 信託 保有 状況 別	現在保有層	(4452)	28.9	26.8	26.8	24.7	21.2	15.8	16.5	17.6	10.9	6.8	6.4	0.5	19.5	
	保有経験層 (現在非保有)	(1997)	30.4	29.7	28.8	28.1	23.5	19.6	17.5	14.4	12.2	8.7	8.7	0.5	18.1	
投資 信託 種類 別	株式投資信託 保有層	(3147)	29.4	24.5	26.3	26.1	20.1	15.4	19.0	18.6	11.1	7.6	6.6	0.5	17.6	
	その他投資信 託保有層	(904)	31.2	34.8	28.9	23.0	25.7	19.5	12.3	17.4	11.5	6.1	5.3	0.4	15.7	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（8）投資信託で特に不満に感じる点〔Q16②：単数回答〕

- 投信で特に不満を感じる点は、「元本保証がない」(15.2%)、「手数料が比較的高い」(14.7%)、「リターンが低い」(11.0%)が上位。〔図5-33〕
- 年代別で見ると、高齢層ほど「元本保証がない」「手数料が比較的高い」が増加する。また、若年層ほど「リターンが低い」「仕組みや運用手法がわかりにくい」が高い。〔図5-34〕
- 株式投信保有層では、「元本保証がない」が他層より低い。〔図5-35〕

〔図 5-33〕

	n=	元本保証がない	手数料が比較的高い	リターンが低い	仕組みや運用手法がわかりにくい	専門知識がないと商品を選びにくい	株式に比べて面白さに欠ける	公社債に比べてリスクが高い	種類が多く選択に迷う	購入後の運用に関する情報が少ない	手続きがわずらわしい	クローズド期間がある	その他	わからない・特にない	(%)
2019年	(6449)	15.2	14.7	11.0	9.7	6.8	6.1	5.6	4.4	2.8	1.8	1.5	0.4	19.7	
2018年	(4588)	19.7	13.7	8.8	9.8	10.0	5.2	5.1	5.4	3.3	2.3	1.9	0.4	13.6	
2017年	(4713)	30.2	12.1	7.2	8.1	5.5	5.0	4.4	4.4	2.7	1.9	1.8	0.3	15.6	

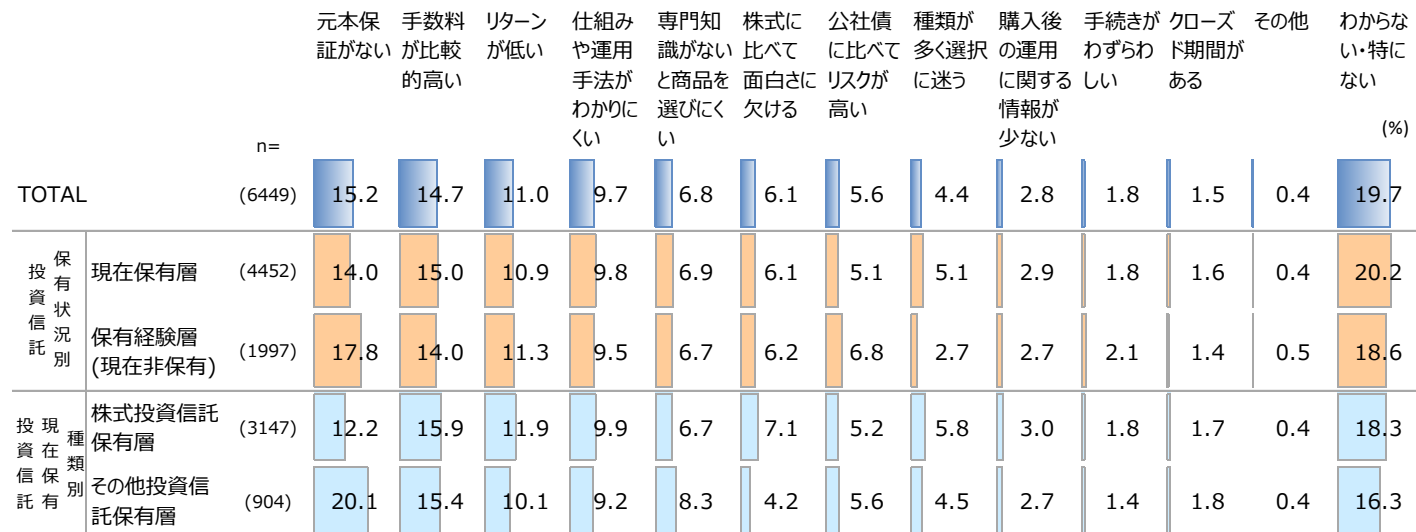
〔図 5-34〕

	n=	元本保証がない	手数料が比較的高い	リターンが低い	仕組みや運用手法がわかりにくい	専門知識がないと商品を選びにくい	株式に比べて面白さに欠ける	公社債に比べてリスクが高い	種類が多く選択に迷う	購入後の運用に関する情報が少ない	手続きがわずらわしい	クローズド期間がある	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL	(6449)	15.2	14.7	11.0	9.7	6.8	6.1	5.6	4.4	2.8	1.8	1.5	0.4	19.7	
性別															
男性	(3771)	9.7	16.4	13.1	9.2	6.1	7.6	4.9	4.4	2.8	1.7	1.4	0.5	22.2	
女性	(2678)	22.9	12.2	8.1	10.5	7.9	4.1	6.6	4.4	2.8	2.0	1.8	0.3	16.2	
年代別															
20代	(476)	5.5	7.8	15.8	14.5	9.5	6.7	6.3	4.6	4.0	4.4	1.5	0.4	19.1	
30代	(791)	6.8	10.2	16.7	11.0	8.0	7.5	4.8	4.9	3.4	2.5	2.0	0.3	21.9	
40代	(1123)	9.5	13.7	12.8	9.8	7.7	7.6	5.0	5.0	3.1	2.2	1.7	0.5	21.3	
50代	(1075)	16.6	15.8	10.6	9.8	6.1	3.7	4.7	4.8	2.8	2.1	1.1	0.7	21.1	
60代	(1534)	18.8	16.6	8.7	8.7	6.0	5.3	6.5	4.3	2.5	1.2	1.8	0.4	19.2	
70代	(1450)	22.4	17.4	7.8	8.5	6.1	6.8	6.3	3.2	2.1	0.8	1.2	0.3	17.0	
世帯年収別															
100万円未満	(148)	14.9	12.2	7.4	15.5	6.8	2.7	7.4	4.1	0.7	2.0	1.4	2.0	23.0	
～300万円未満	(846)	19.0	11.3	9.0	11.0	6.9	6.0	5.8	4.3	3.1	1.5	2.1	0.6	19.4	
～500万円未満	(1491)	18.2	14.1	11.6	8.6	7.2	6.7	5.4	3.5	2.2	1.7	1.3	0.2	19.1	
～1000万円未満	(2307)	13.3	14.8	12.3	10.7	7.1	6.1	6.0	5.4	3.5	1.9	1.3	0.2	17.5	
1000万円以上	(904)	9.2	18.7	11.0	7.9	6.2	8.2	6.2	4.8	2.9	2.1	2.5	0.7	19.8	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（8）投資信託で特に不満に感じる点〔Q16②：単数回答〕

〔図 5-35〕



6. 投資信託保有未経験者の状況 (金融資産保有未経験層を含む)



6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

（1）投資信託の非購入理由〔Q28:重複回答〕

- 投信保有未経験層の投信非購入理由は、前回同様に「興味がない」(41.7%)、「投資の知識がない」(36.8%)、「損をしそうで怖い」(29.1%)が上位。〔図6-1〕
- 年代別で見ると、他年代に比べて30・40代で「興味がない」が低い。また、若年層ほど「投資の知識がない」「なんとなく機会がなかった」が高くなり、「元本保証がない」は低くなる傾向。〔図6-2〕
- 投信保有状況別では、金融資産保有経験のある層では、「元本保証がない」「手数料など費用が高い」が高い。保有経験の無い層では「興味がない」(45.9%)が特に高い。〔図6-3〕

〔図 6-1〕

	n=	そもそも興味がない	投資の知識がない	損をしそうで怖い	元本保証がない	まとまった資金がない	投資信託の仕組みがわからない	手数料など費用が高い	なんとなく機会がなかった	商品の種類が多く自分で選べない	投資信託の存在が知らなかった	購入するのにかかる期間がかかりすぎる	投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいい	その他	(%)
2019年	(13551)	41.7	36.8	29.1	22.9	22.7	20.2	12.9	7.4	6.7	4.9	4.2	4.0	0.7	
2018年	(15412)	48.4	38.0	29.9	20.2	24.3	22.8	10.2	11.8	8.1	5.3	5.1	2.6	0.9	
2017年	(15287)	46.4	38.3	22.5	19.4	19.5	24.4	10.6	8.0	5.7	5.0	3.5	—	1.2	

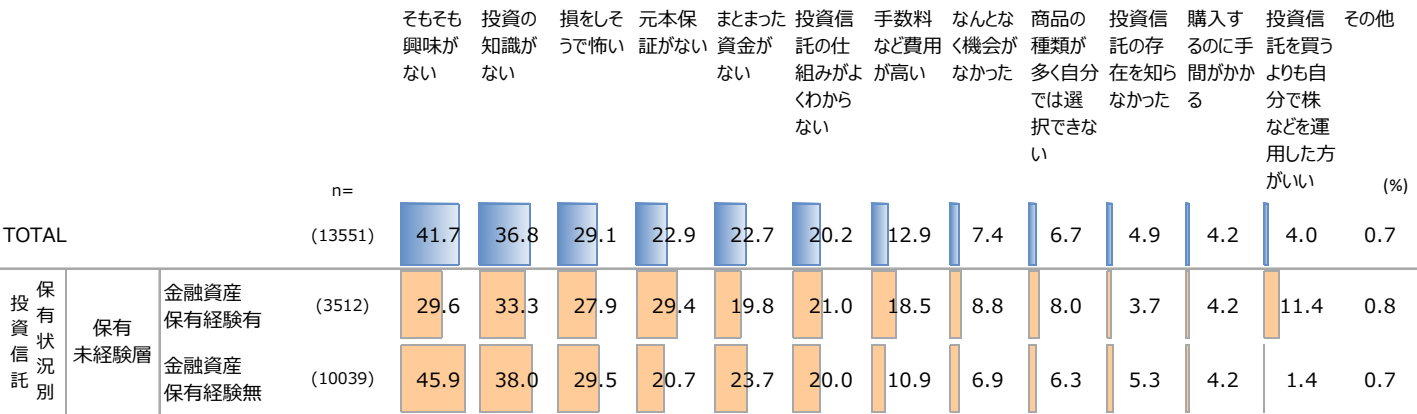
〔図 6-2〕

	n=	41.7	36.8	29.1	22.9	22.7	20.2	12.9	7.4	6.7	4.9	4.2	4.0	0.7
TOTAL	(13551)	41.7	36.8	29.1	22.9	22.7	20.2	12.9	7.4	6.7	4.9	4.2	4.0	0.7
性別	男性 (6177)	42.0	31.1	23.4	21.1	22.0	16.7	12.6	8.0	4.8	4.6	3.9	5.8	0.9
	女性 (7374)	41.4	41.5	33.8	24.5	23.3	23.2	13.2	6.9	8.4	5.2	4.4	2.4	0.6
年代別	20代 (2134)	41.5	39.8	26.8	11.1	22.7	21.9	9.1	9.7	5.0	7.2	5.2	2.4	0.5
	30代 (2396)	38.8	40.3	32.1	16.2	24.2	23.6	11.3	9.8	7.5	6.1	5.6	3.1	0.4
	40代 (2907)	37.3	37.7	30.0	24.1	23.8	20.8	14.0	7.9	7.1	5.6	5.1	4.0	0.7
	50代 (2286)	44.4	34.7	28.5	25.4	22.0	17.9	13.7	6.4	5.6	3.9	3.4	3.2	0.9
	60代 (2187)	44.3	33.8	30.4	31.5	21.8	18.2	15.4	4.1	7.4	3.4	2.6	4.9	0.8
	70代 (1641)	46.6	32.8	25.1	31.1	20.8	18.3	13.7	5.7	8.0	2.3	2.3	7.0	1.2
世帯年収別	100万円未満 (594)	53.0	29.5	20.9	16.7	22.2	14.1	12.3	5.9	3.2	6.1	4.4	2.2	0.8
	～300万円未満 (2269)	41.7	38.7	30.5	24.2	29.4	22.7	15.0	5.7	7.8	5.4	4.5	3.8	1.1
	～500万円未満 (3140)	37.6	40.4	32.8	26.3	26.0	22.4	14.1	7.4	7.0	5.4	4.2	4.6	0.6
	～1000万円未満 (3736)	33.8	40.0	31.3	23.6	22.4	21.9	13.0	8.6	7.3	4.8	4.1	4.7	0.7
	1000万円以上 (874)	34.0	36.7	31.4	26.1	16.7	20.7	15.8	8.9	7.6	4.3	5.0	4.8	0.7

6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

（1）投資信託の非購入理由〔Q28:重複回答〕

〔図 6-3〕



6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

(2) 投資信託購入検討のきっかけ〔Q29:重複回答〕

- 投資信託購入検討のきっかけは、前回同様に全体的に分散傾向。上位には「金融や投資を勉強して理解できたら」(20.1%)、「手取り収入が増えたら」(19.7%)があがる。〔図6-4〕
- 年代別では、若年層ほど「金融や投資方法を勉強して理解したら」「手取り収入が増えたら」「身近な人に勧められたら」「貯蓄が一定額に達したら」「初心者向けセミナーなどがあれば」「職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら」「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」が高くなる傾向。〔図6-5〕
- 投信保有状況別でみると、金融資産保有経験のある層では「手数料の低い投資信託商品が充実してきたら」「税制上の優遇措置がより拡大してきたら」が、保有経験のない層では「職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら」が他層に比べて高い。〔図6-6〕

〔図 6-4〕

	n=	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	身近な人に勧められたら	貯蓄が一定額に達したら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど、説明してもらえる機会があれば	職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	経済が上がり期待できる様になったら	金融機関などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	退職金・相続などの臨時収入があったら	その他
2019年	(13551)	20.1	19.7	17.4	17.0	15.8	13.3	12.4	11.8	11.7	10.9	8.9	5.1	9.4
2018年	(15412)	23.1	21.8	20.1	16.1	15.7	14.0	-	10.4	13.8	15.7	16.4	6.7	11.3
2017年	(15287)	21.3	21.4	20.4	16.0	14.4	13.6	-	10.0	13.9	13.7	16.3	6.7	11.2

※選択肢「職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら」は2019年より聴取
 ※「その他」には、「興味がない」「特にない」「わからない」なども含む

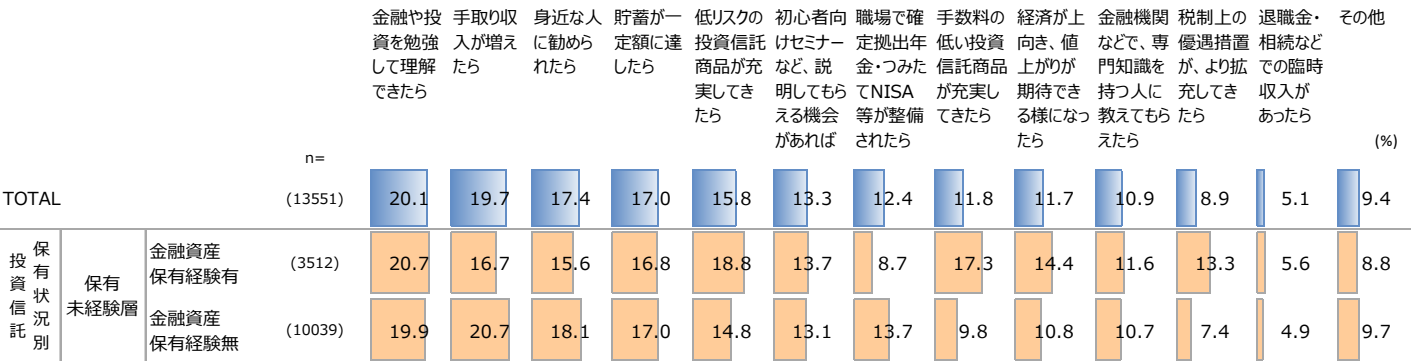
〔図 6-5〕

	n=	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	身近な人に勧められたら	貯蓄が一定額に達したら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど、説明してもらえる機会があれば	職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	経済が上がり期待できる様になったら	金融機関などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	退職金・相続などの臨時収入があったら	その他
TOTAL	(13551)	20.1	19.7	17.4	17.0	15.8	13.3	12.4	11.8	11.7	10.9	8.9	5.1	9.4
性別														
男性	(6177)	18.1	20.9	13.0	18.4	13.8	11.0	14.5	11.1	10.7	9.7	10.1	5.5	10.1
女性	(7374)	21.7	18.6	21.1	15.7	17.5	15.2	10.7	12.4	12.6	11.9	7.9	4.7	8.9
年代別														
20代	(2134)	23.4	24.8	26.1	21.0	14.2	17.3	17.8	9.5	10.4	13.4	7.3	2.9	4.7
30代	(2396)	24.2	25.1	22.5	21.0	16.0	16.4	16.4	11.5	10.2	14.1	9.2	4.1	4.5
40代	(2907)	21.9	23.0	18.1	18.3	15.3	13.7	14.4	11.7	11.0	11.7	8.5	5.4	5.7
50代	(2286)	17.7	18.1	12.9	14.9	15.4	11.2	12.0	12.5	11.1	9.7	10.2	6.6	10.1
60代	(2187)	15.8	13.0	11.9	12.1	17.6	10.0	6.6	12.4	13.6	7.8	7.9	5.7	16.4
70代	(1641)	15.4	10.1	11.3	12.7	16.8	10.1	4.5	13.3	15.4	7.6	11.1	6.0	19.2
世帯年収別														
100万円未満	(594)	15.2	20.2	11.8	16.0	11.4	9.1	15.7	9.8	9.8	6.9	7.7	2.9	15.3
～300万円未満	(2269)	20.1	23.2	15.7	18.8	15.2	11.3	9.1	12.0	11.8	8.9	7.8	5.4	12.5
～500万円未満	(3140)	20.4	21.9	18.2	19.5	16.1	14.7	11.8	12.2	12.4	11.9	7.9	4.7	8.1
～1000万円未満	(3736)	23.3	19.8	21.0	18.3	18.0	17.0	11.2	12.9	11.6	13.8	10.1	6.0	5.9
1000万円以上	(874)	21.3	13.6	20.6	15.8	18.3	14.5	13.6	13.6	12.1	13.8	12.1	6.9	5.9

6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

(2) 投資信託購入検討のきっかけ〔Q29:重複回答〕

〔図 6-6〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（1）投資信託の商品特徴認知状況〔Q12:重複回答〕

- 投資信託の特徴認知では、「元本保証がない」(51.6%)が特に高く、「リスクとリターンは表裏一体の関係」(40.5%)が続く。この他に「国内と海外の投信がある」(37.0%)、「価格変動と為替リスクがある」(36.3%)、「証券会社以外でも購入できる」(34.5%)が上位。「リスクとリターンは表裏一体の関係」は前回に比べて10.5ポイント増加。〔図7-1〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代、世帯年収が高くなるほど、いずれの商品特徴の認知率も高くなる。〔図7-2〕
- 投信現在保有種類別でみると、株式投信保有層はその他投信保有層に比べて、「投信の評価を行う会社がある」「MRFは投信商品である」「投信は信託銀行で分別管理」の認知度がやや高い。〔図7-4〕

〔図 7-1〕

	n=	元本の保証はない	リスクとリターンは表裏一体の関係にある	国内の投信と海外の投資信託がある	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる	投資信託は、運用会社が運用している	NISAやDCで投信が購入できる	販売手数料とは別に運用管理費用がかかる	投資信託の評価を行う会社がある	基準価額は新聞や投資信託協会HPで見ることができる	MRFは投資信託商品である	投資信託は、信託銀行で分別管理されている	この中で知っているものはない
2019年	(20000)	51.6	40.5	37.0	36.3	34.5	26.9	24.7	22.5	12.8	11.6	11.3	9.9	34.3
2018年	(20000)	49.0	30.0	34.1	34.1	32.3	22.1	24.3	18.2	9.7	8.7	8.7	7.5	36.8
2017年	(20000)	46.2	28.0	32.6	32.5	31.4	21.2	23.3	16.9	9.5	9.0	8.7	5.9	39.8

〔図 7-2〕

	n=	元本の保証はない	リスクとリターンは表裏一体の関係にある	国内の投信と海外の投資信託がある	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる	投資信託は、運用会社が運用している	NISAやDCで投信が購入できる	販売手数料とは別に運用管理費用がかかる	投資信託の評価を行う会社がある	基準価額は新聞や投資信託協会HPで見ることができる	MRFは投資信託商品である	投資信託は、信託銀行で分別管理されている	この中で知っているものはない
TOTAL	(20000)	51.6	40.5	37.0	36.3	34.5	26.9	24.7	22.5	12.8	11.6	11.3	9.9	34.3
性別														
男性	(9948)	54.9	43.3	40.3	40.7	36.3	32.1	26.6	26.7	16.0	14.0	13.9	13.0	31.2
女性	(10052)	48.4	37.7	33.7	32.0	32.7	21.8	22.9	18.4	9.7	9.1	8.7	6.9	37.4
年代別														
20代	(2610)	28.0	29.3	24.9	24.6	19.5	15.4	15.1	11.6	7.5	5.7	6.1	6.6	50.5
30代	(3187)	39.2	33.0	30.2	29.6	24.9	21.8	21.1	17.7	10.4	7.9	7.6	8.4	43.4
40代	(4030)	48.8	36.9	34.3	32.5	29.5	24.2	24.1	21.2	12.9	10.4	11.4	9.7	36.9
50代	(3361)	58.4	43.1	36.8	37.5	37.7	28.2	25.9	23.4	14.0	13.0	14.1	11.3	31.8
60代	(3721)	63.7	48.2	43.6	42.9	43.6	33.8	27.9	28.8	15.2	14.1	13.0	10.9	25.1
70代	(3091)	66.3	50.3	50.0	49.2	49.3	35.7	32.1	30.0	15.5	17.1	14.4	12.2	21.7
世帯年収別														
100万円未満	(742)	37.2	25.1	24.5	23.5	22.4	15.0	13.2	12.3	6.1	5.4	6.6	4.9	50.3
～300万円未満	(3115)	49.7	39.6	34.0	34.6	32.3	24.4	21.6	20.0	10.1	9.6	8.7	7.5	36.9
～500万円未満	(4631)	53.7	40.2	37.9	36.2	35.5	27.3	24.9	21.7	11.4	11.0	10.2	9.4	32.0
～1000万円未満	(6043)	56.9	45.8	42.2	41.2	38.2	31.2	28.8	26.1	15.4	13.1	13.6	11.8	26.9
1000万円以上	(1778)	64.6	53.5	51.6	50.9	48.4	41.3	36.6	37.1	26.2	22.7	22.8	20.7	21.2

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（1）投資信託の商品特徴認知状況〔Q12:重複回答〕

〔図 7-3〕

		n=	元本の保証 はない	リスクとリターン は表裏一 体の関係に ある	国内の投資 信託と海外 の投資信託 がある	価格変動 と、外国に投 資するもの は為替リスク がある	銀行など、証 券会社以外 の金融機関 でも購入でき る	投資信託 は、運用会 社が運用し ている	NISAやDC で投資信託 が購入できる	販売手数料 とは別に運 用管理費用 がかかる	投資信託の 評価を行う 会社がある	基準価額は 新聞や投資 信託協会 HPで見ること ができる	MRFは投資 信託商品で ある	投資信託 は、信託銀 行で分別管 理されている	この中で知っ ているもの はない	(%)
TOTAL		(20000)	51.6	40.5	37.0	36.3	34.5	26.9	24.7	22.5	12.8	11.6	11.3	9.9	34.3	
20代	100万円未満	(151)	19.9	18.5	16.6	17.2	10.6	7.9	7.3	5.3	4.6	2.0	4.6	2.0	62.3	
	～300万円未満	(398)	24.9	27.6	22.1	20.9	15.1	13.1	12.6	11.1	4.0	4.8	5.5	5.5	53.3	
	～500万円未満	(627)	31.7	31.7	28.7	27.1	22.2	19.6	18.0	13.9	7.8	6.4	5.6	6.7	45.0	
	～1000万円未満	(609)	36.8	38.9	32.7	33.5	27.8	19.4	19.9	15.3	11.3	8.0	7.2	9.7	37.3	
	1000万円以上	(169)	42.0	42.6	39.6	38.5	30.8	26.0	27.8	20.7	17.8	13.6	16.6	16.6	32.5	
30代	100万円未満	(107)	18.7	14.0	13.1	17.8	5.6	8.4	2.8	7.5	4.7	1.9	0.9	0.9	70.1	
	～300万円未満	(398)	33.7	29.9	24.4	26.6	19.1	16.8	14.6	10.8	7.3	5.8	3.8	4.0	51.3	
	～500万円未満	(789)	39.9	32.4	31.2	28.1	25.3	20.9	20.7	16.7	9.9	7.7	7.4	7.9	41.8	
	～1000万円未満	(1129)	47.4	39.8	37.6	36.0	30.0	27.9	26.9	22.1	12.2	9.5	10.0	11.2	31.6	
	1000万円以上	(204)	56.9	52.5	48.0	48.0	47.1	38.2	35.8	38.2	25.0	20.1	20.1	23.5	21.6	
40代	100万円未満	(122)	30.3	18.0	18.9	18.9	18.0	13.9	11.5	11.5	7.4	5.7	7.4	5.7	63.1	
	～300万円未満	(485)	44.3	34.6	30.1	29.5	24.5	21.9	17.7	18.4	9.3	7.6	8.5	6.6	42.1	
	～500万円未満	(828)	49.5	32.6	32.7	29.8	27.4	22.0	23.3	18.8	9.5	8.0	8.7	6.8	36.2	
	～1000万円未満	(1558)	52.6	42.8	38.4	36.3	32.6	27.0	27.7	23.6	14.8	11.7	12.5	10.5	30.9	
	1000万円以上	(407)	62.9	48.9	51.4	48.4	46.2	41.5	39.1	36.4	26.8	21.4	24.3	22.9	23.1	
50代	100万円未満	(137)	59.1	31.4	34.3	34.3	35.0	21.2	21.9	17.5	8.8	10.2	8.8	10.2	32.8	
	～300万円未満	(374)	52.7	39.3	29.7	32.6	33.7	24.1	18.7	19.5	11.0	9.4	11.5	8.6	38.8	
	～500万円未満	(560)	57.0	39.6	33.2	33.2	34.3	24.1	22.0	19.3	9.8	10.4	11.4	8.4	33.8	
	～1000万円未満	(1225)	61.6	45.7	39.3	40.2	39.9	29.7	29.3	24.1	14.9	13.3	15.3	12.1	26.6	
	1000万円以上	(537)	68.0	54.6	51.2	50.5	49.3	42.8	35.8	37.2	25.3	23.8	23.8	19.0	21.2	
60代	100万円未満	(140)	53.6	37.9	32.9	28.6	34.3	20.7	18.6	19.3	5.7	7.1	6.4	4.3	35.7	
	～300万円未満	(731)	59.6	48.2	40.6	40.1	40.4	30.2	25.3	25.4	12.6	10.0	9.4	8.5	27.5	
	～500万円未満	(926)	65.7	48.3	44.1	41.6	45.7	34.3	28.0	27.2	13.4	14.3	11.2	10.2	23.9	
	～1000万円未満	(952)	71.0	52.6	50.6	50.7	49.2	41.6	31.6	35.6	19.4	17.6	18.3	14.0	17.3	
	1000万円以上	(341)	71.8	60.1	54.8	56.9	54.3	46.0	37.5	43.1	29.3	26.4	23.2	20.2	16.4	
70代	100万円未満	(85)	38.8	29.4	31.8	22.4	30.6	17.6	16.5	11.8	4.7	4.7	12.9	5.9	37.6	
	～300万円未満	(729)	64.1	46.5	44.0	45.5	45.3	30.9	30.6	25.9	12.5	15.5	11.0	9.6	25.2	
	～500万円未満	(901)	70.6	52.1	51.6	51.7	51.5	37.8	33.5	30.1	15.6	16.9	15.4	14.7	17.6	
	～1000万円未満	(570)	75.1	62.1	63.5	59.8	58.9	47.4	39.6	41.2	21.6	21.8	18.9	14.9	11.8	
	1000万円以上	(120)	80.0	63.3	68.3	66.7	62.5	47.5	43.3	42.5	33.3	28.3	25.8	23.3	11.7	

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（1）投資信託の商品特徴認知状況〔Q12:重複回答〕

〔図 7-4〕

元本の保証はない
 リスクとターンは表裏一体の関係にある
 国内の投資信託と海外の投資信託がある
 価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある
 銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる
 投資信託は、運用会社が運用している
 NISAやDCで投資信託が購入できる
 販売手数料とは別に運用管理費用がかかる
 投資信託の評価を行う会社がある
 基準価額は新聞や投資信託協会HPで見ることができる
 MRFは投資信託商品である
 投資信託は、信託銀行で分別管理されている
 この中で知っているものはない (%)

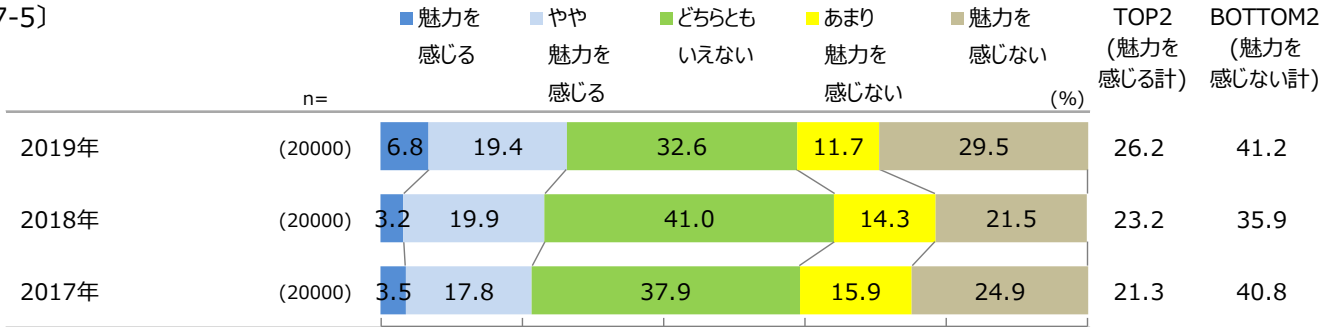
		n=	51.6	40.5	37.0	36.3	34.5	26.9	24.7	22.5	12.8	11.6	11.3	9.9	34.3
TOTAL		(20000)	51.6	40.5	37.0	36.3	34.5	26.9	24.7	22.5	12.8	11.6	11.3	9.9	34.3
投資信託 保有状況別	保有層・保有経験層	現在保有層 (4452)	76.3	66.3	69.5	64.8	60.4	55.3	50.8	50.5	31.1	30.3	29.2	24.8	5.7
		保有経験層 (現在非保有) (1997)	74.2	57.2	59.6	55.7	53.2	42.3	30.7	39.5	22.8	19.6	22.8	16.9	8.8
	保有未経験層	金融資産保有経験有 (3512)	56.7	38.8	33.3	34.9	34.9	24.9	22.4	18.9	8.8	7.0	7.8	7.5	30.4
		金融資産保有経験無 (10039)	34.4	26.3	19.4	20.3	19.2	12.0	12.8	8.0	4.1	3.2	2.4	2.8	53.5
投資信託 現在保有種類別	株式投資信託保有層 (3147)	77.0	68.5	72.7	67.0	61.6	58.4	52.9	53.5	34.4	33.3	32.1	27.8	3.9	
	その他投資信託保有層 (904)	79.5	68.4	68.9	67.7	64.2	55.6	51.8	51.5	27.9	29.0	26.5	21.7	4.2	

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

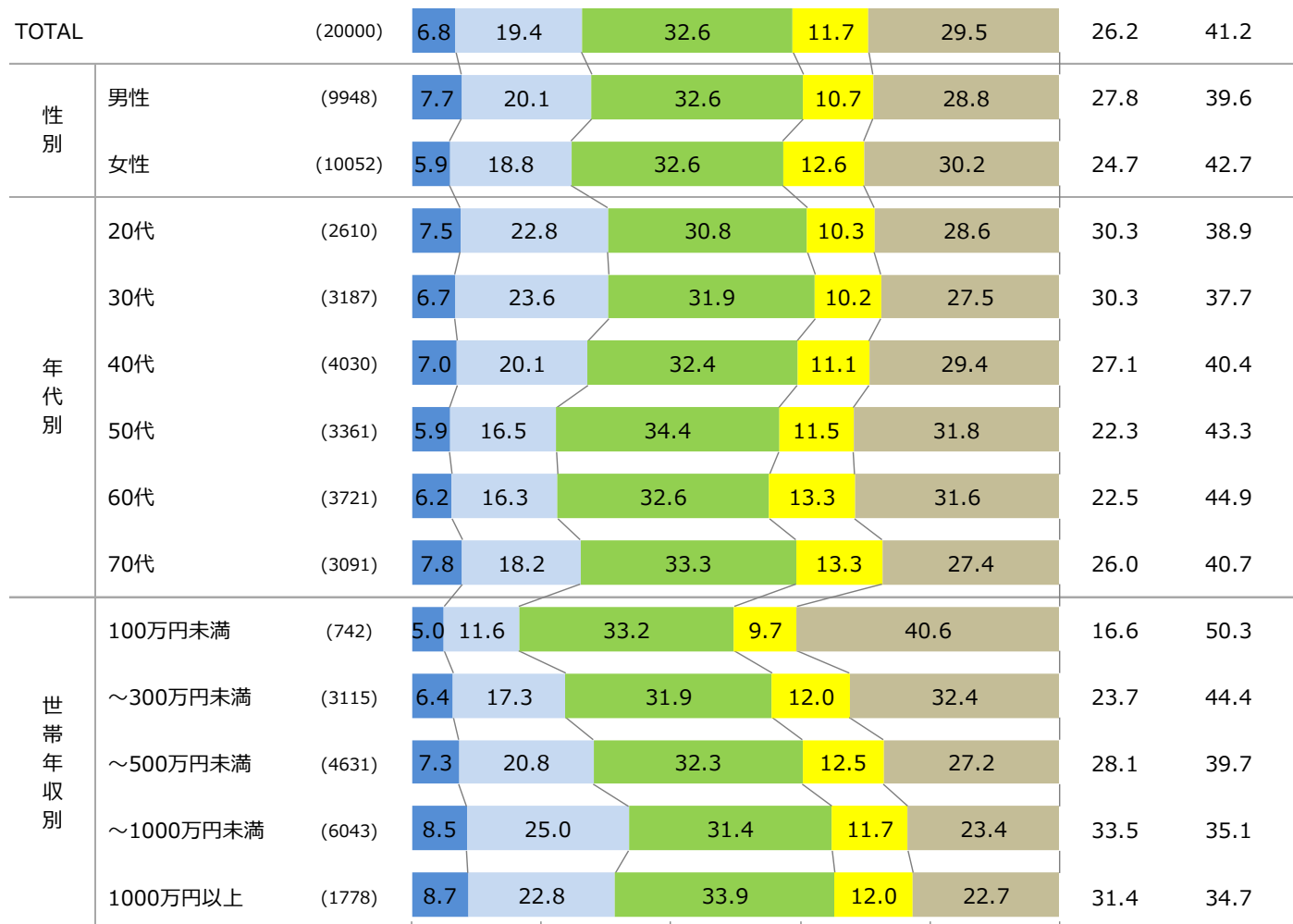
(2) 毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q23:単数回答〕

- 毎月分配型投資信託の魅力度は、TOP2(魅力を感じる計)が26.2%と前回は僅かに上回る。〔図7-5〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 投信保有状況別では、投信現在保有層でTOP2(42.9%)が高い。〔図7-7〕
- 投信現在保有層の年代別では、30代でTOP2(49.8%)が最も高いが、20代も48.7%と僅差で高く、20・30代での魅力度が高い様子。〔図7-8〕

〔図 7-5〕



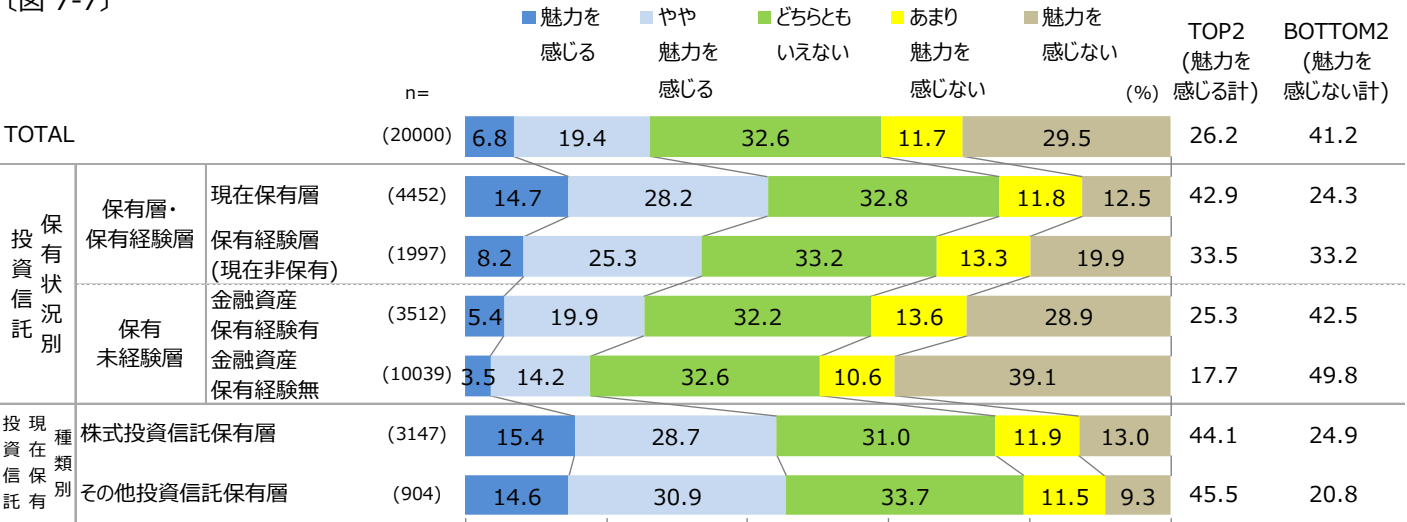
〔図 7-6〕



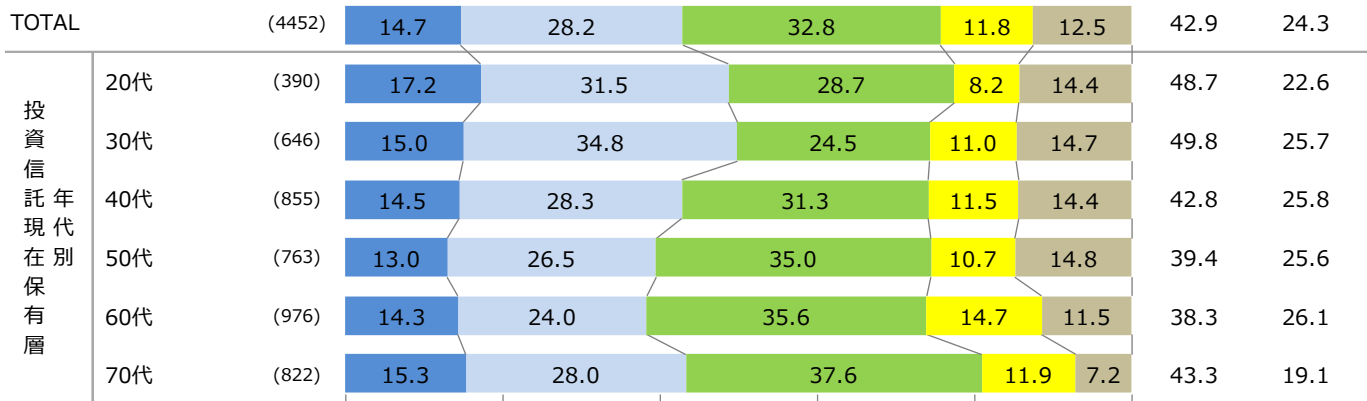
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(2) 毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q23:単数回答〕

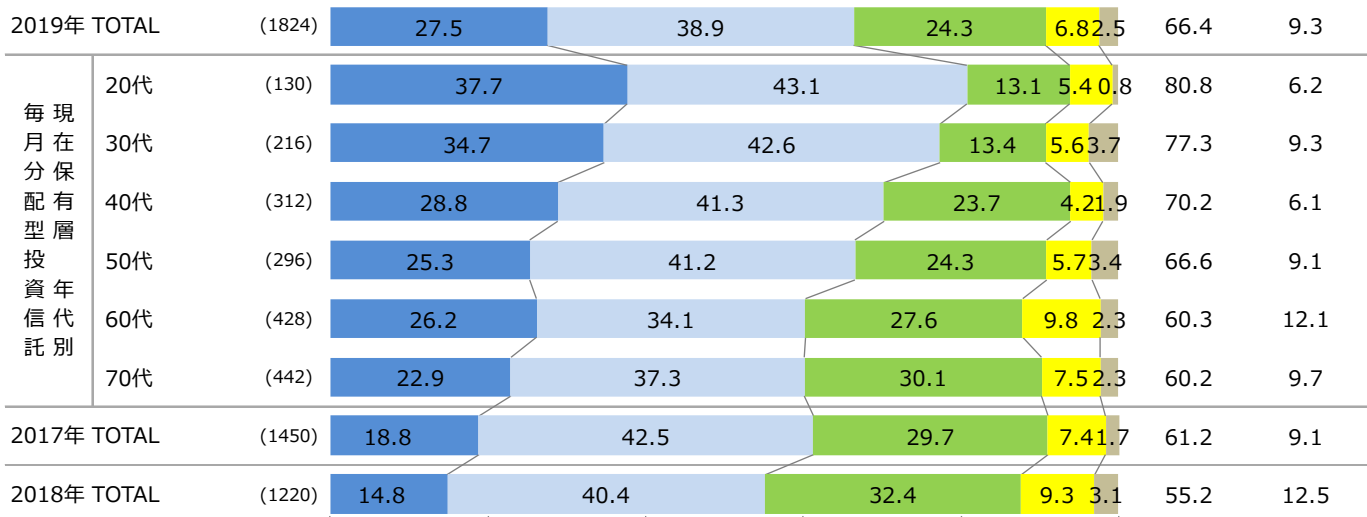
〔図 7-7〕



〔図 7-8〕



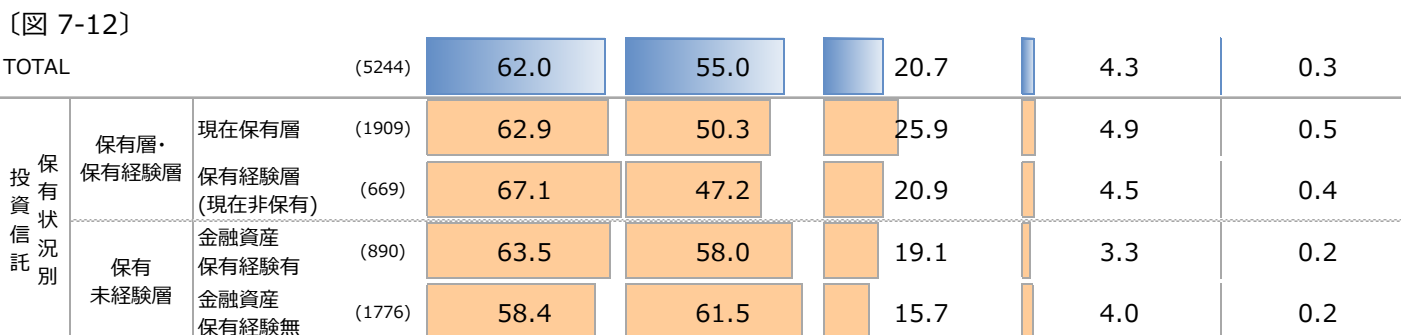
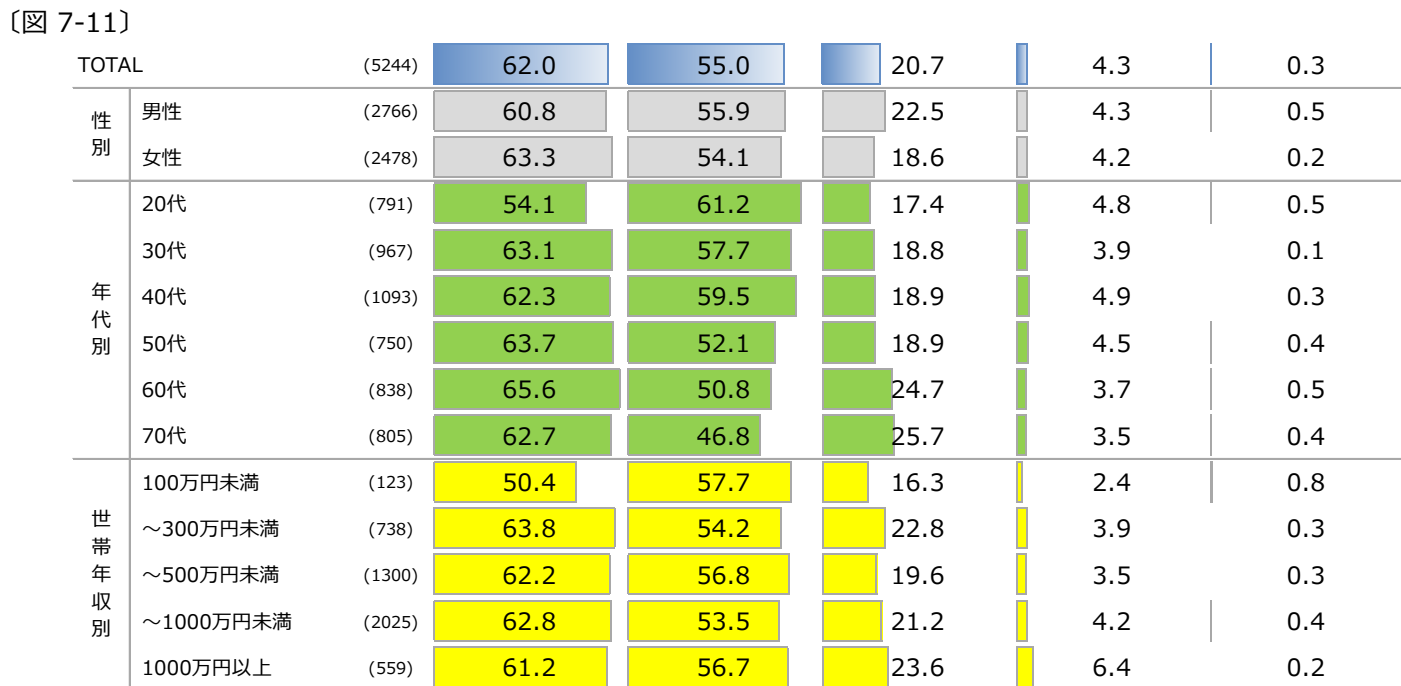
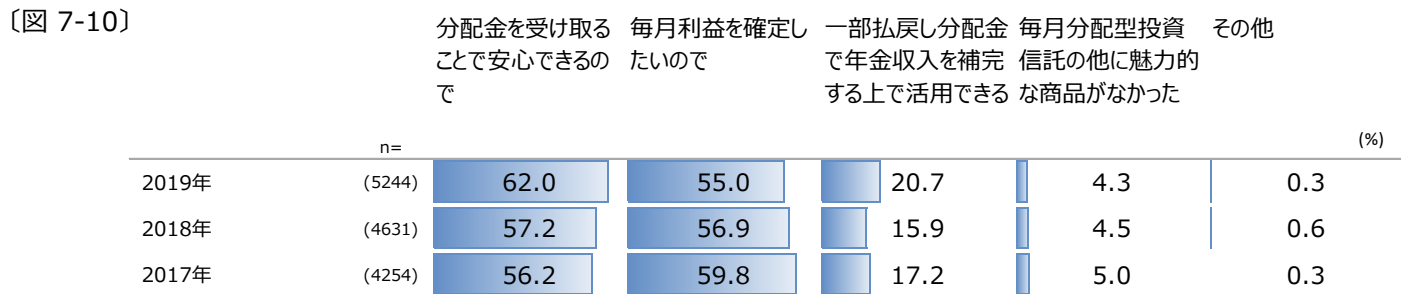
〔図 7-9〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(3) 毎月分配型投資信託商品の魅力点(毎月分配型魅力者) 〔Q24：重複回答〕

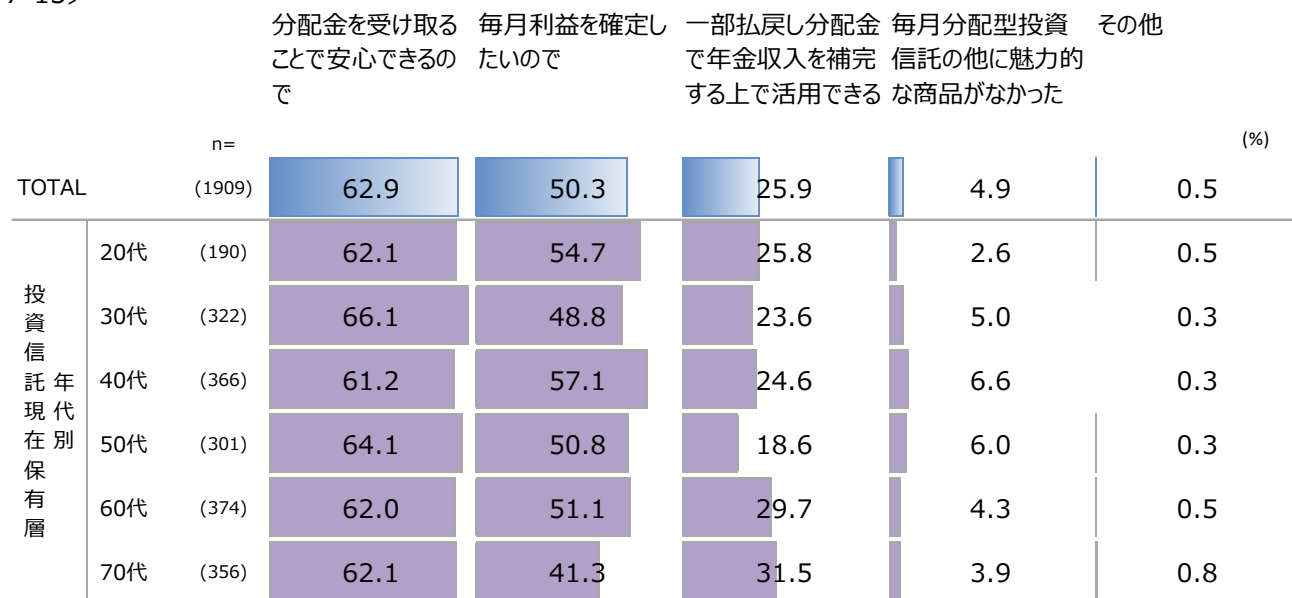
- 毎月分配型投資信託の魅力点では、「分配金を受け取ることで安心できる」(62.0%)、「毎月利益を確定したいので」(55.0%)が上位。「分配金を受け取ることで安心できる」は前回に比べて4.8ポイント増加。〔図7-10〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別で見ると、60・70代では「分配金で年金補完」が高く、毎月分配型投資信託に魅力を感じている人のうち、4人に1人が評価している様子。〔図7-11〕



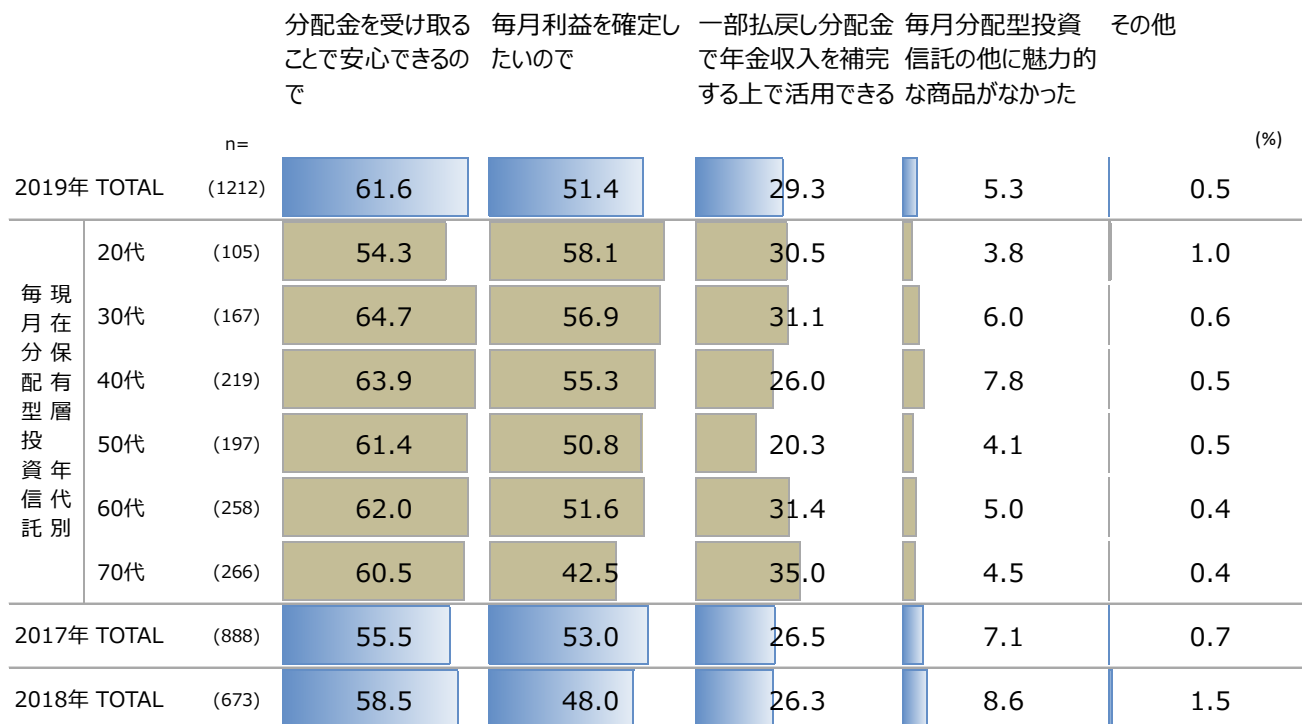
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(3) 毎月分配型投資信託商品の魅力点(毎月分配型魅力者) 〔Q24：重複回答〕

〔図 7-13〕



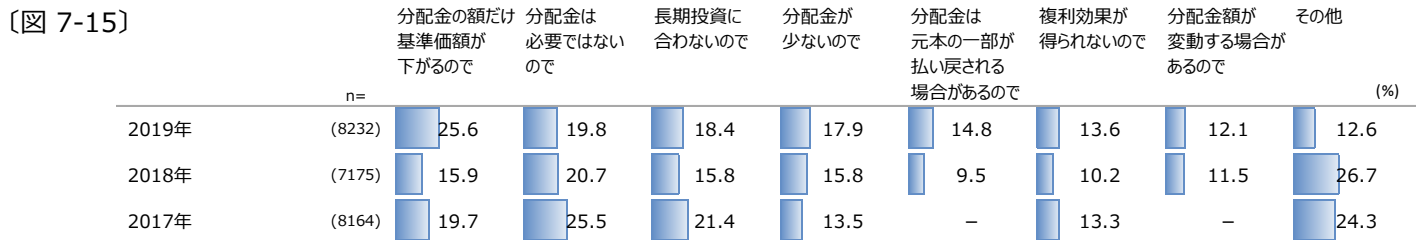
〔図 7-14〕



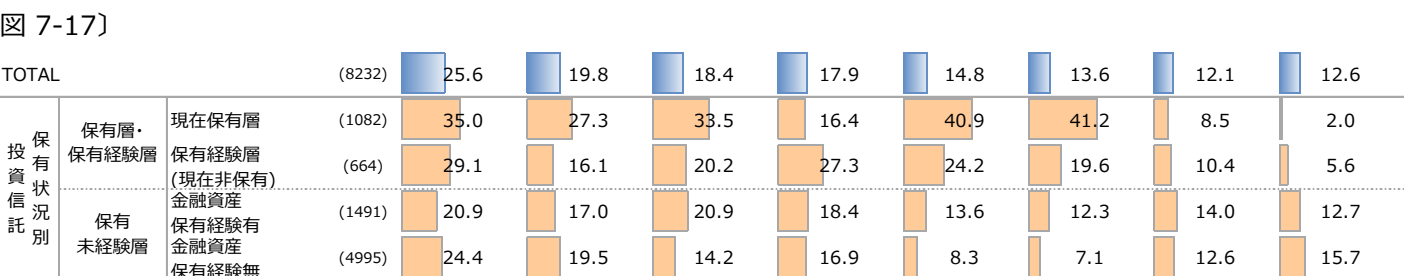
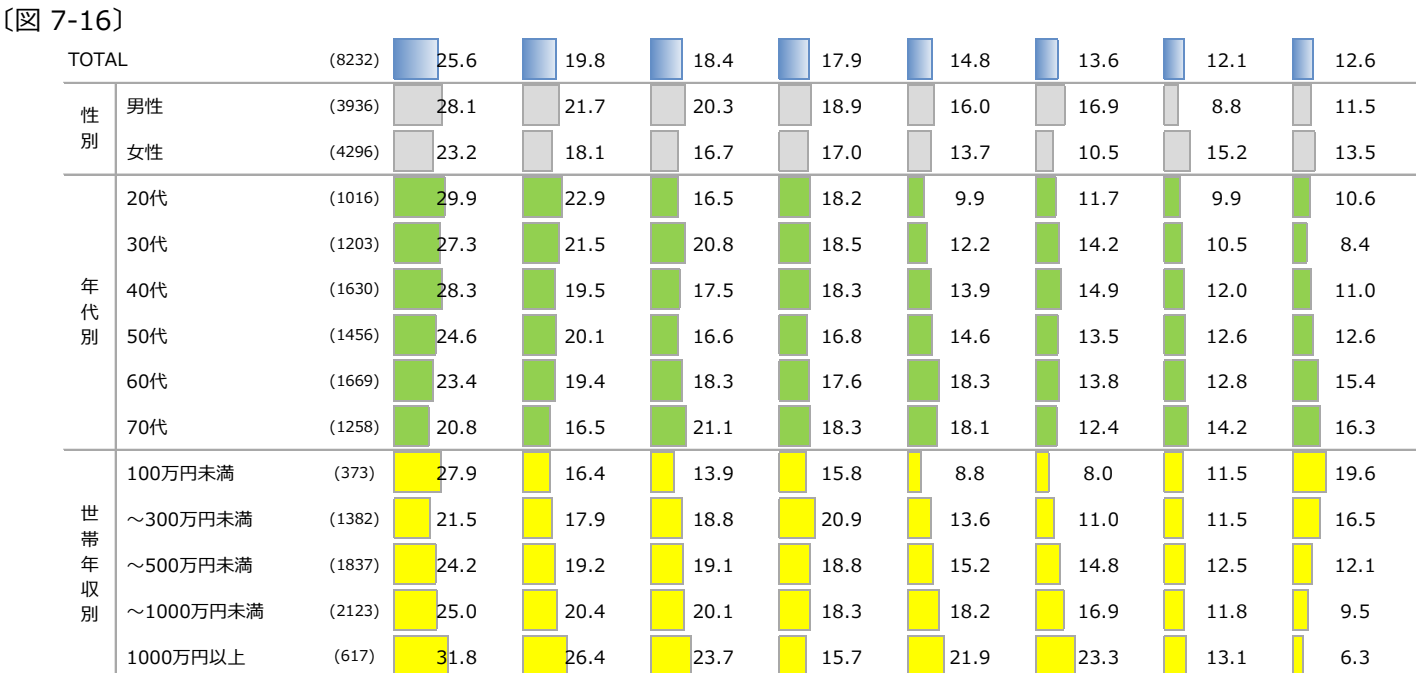
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（4）毎月分配型投資信託商品の非魅力点(毎月分配型非魅力者) 〔Q25：重複回答〕

- 毎月分配型投資信託の非魅力点は、「基準価額が下がる」(25.6%)が最も高く、前回に比べて9.7ポイント増加。「元本の一部が払い戻される場合がある」も5.3ポイント増加。〔図7-15〕
* 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別では、「基準価額が下がる」が若年層ほど高い傾向。「分配金は必要ない」は70代でやや低い。〔図7-16〕
- 世帯年収別では、「分配金が少ない」「分配金額が変動する場合がある」以外は年収が高いほど各項目も高くなる傾向。〔図7-16〕
- 投信現在保有層を年代別でみると、20代～40代では、「長期投資に合わないので」「複利効果が得られないので」が高い。〔図7-18〕



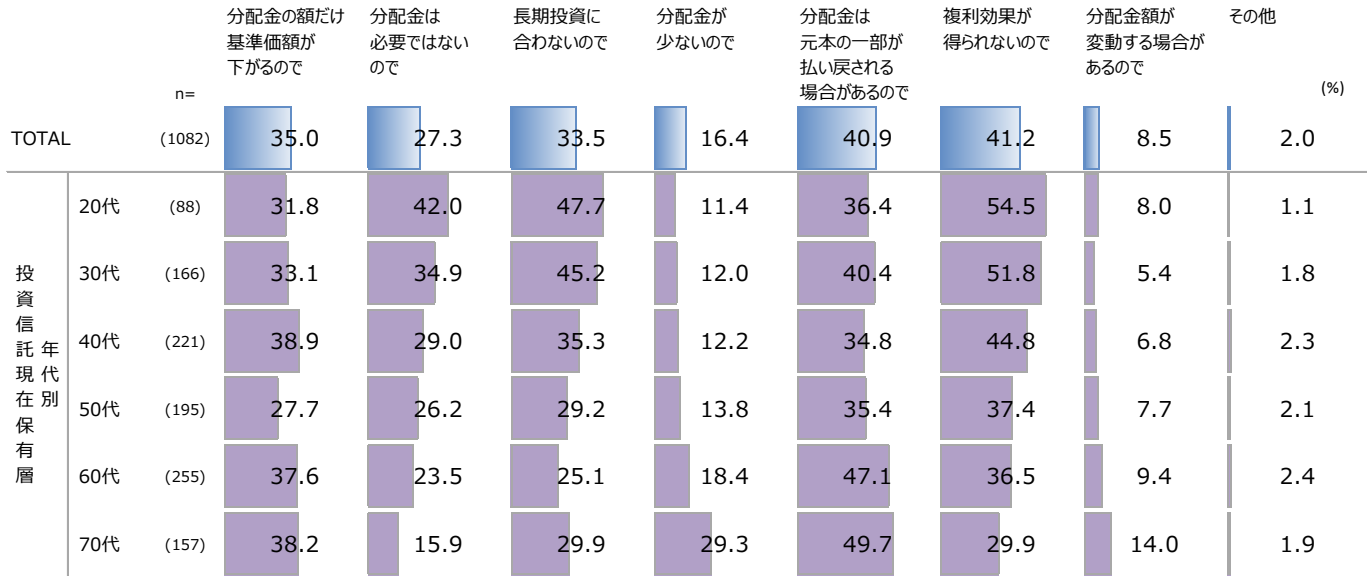
※選択肢「分配金額が変動する場合があるので」「分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので」は2018年より聴取



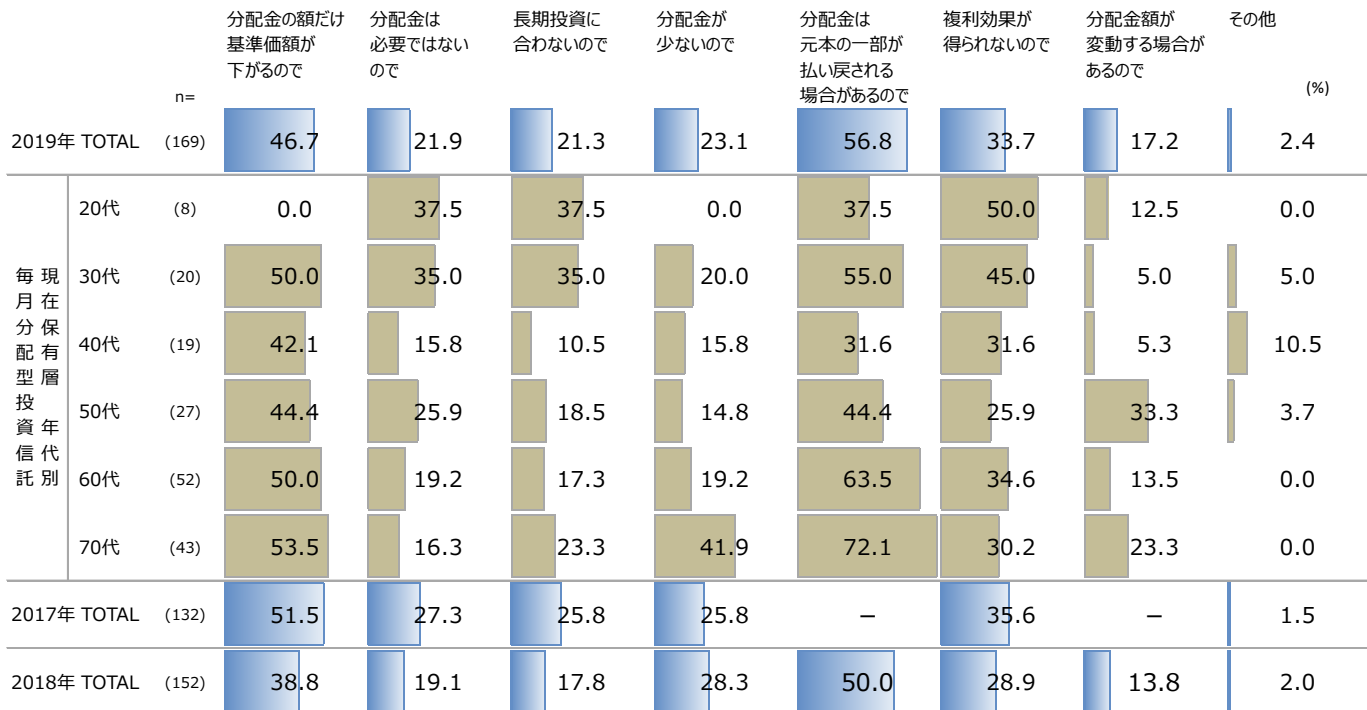
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(4) 毎月分配型投資信託商品の非魅力点(毎月分配型非魅力者) 〔Q25：重複回答〕

〔図 7-18〕



〔図 7-19〕



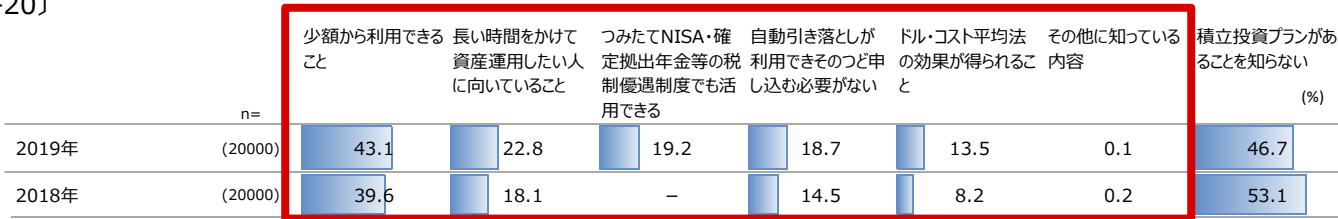
※選択肢「分配金額が変動する場合があるので」「分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので」は2018年より聴取

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(5) 積立投資プランの内容認知〔Q20：重複回答〕

- 積立投資プランについていずれかの内容認知率は、全体で53.3%と半数以上になる。具体的には、「少額から利用できる」(43.1%)が特に高く、以下「長い時間をかけて資産運用したい人向き」「つみたてNISA・確定拠出年金等でも活用可能」「自動引き落としが利用可能」が20%前後で続く。〔図7-20〕
- 年代が高いほど認知率が高くなる項目が多いが、「ドル・コスト平均法の効果が得られる」は若年層の認知がやや高い。〔図7-21〕

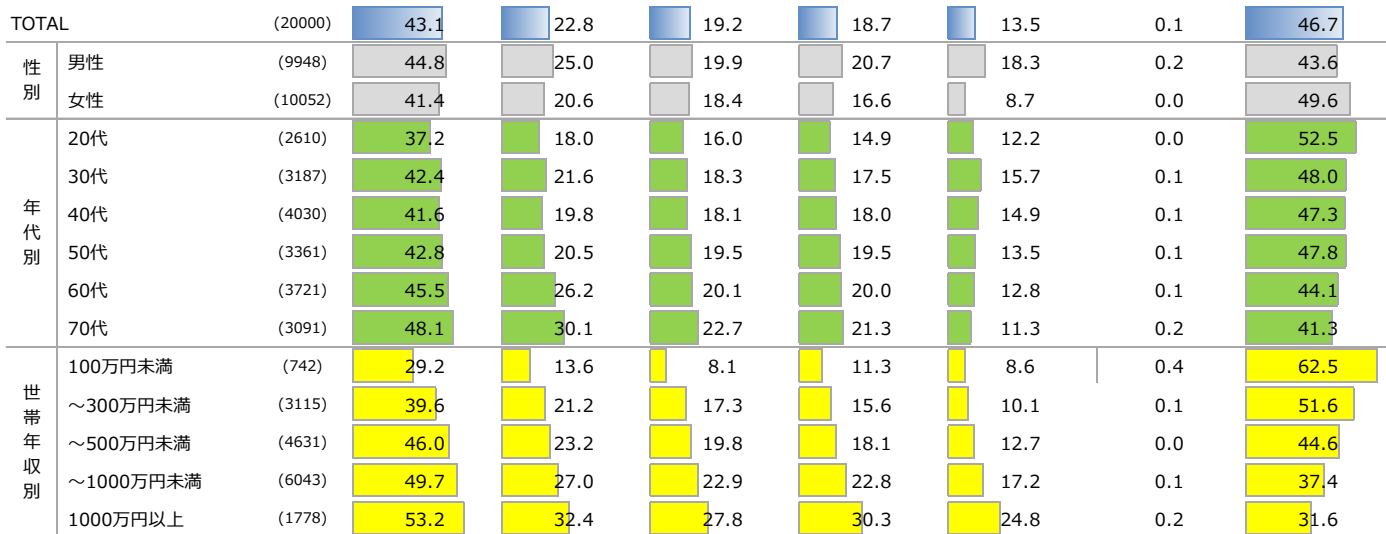
〔図 7-20〕



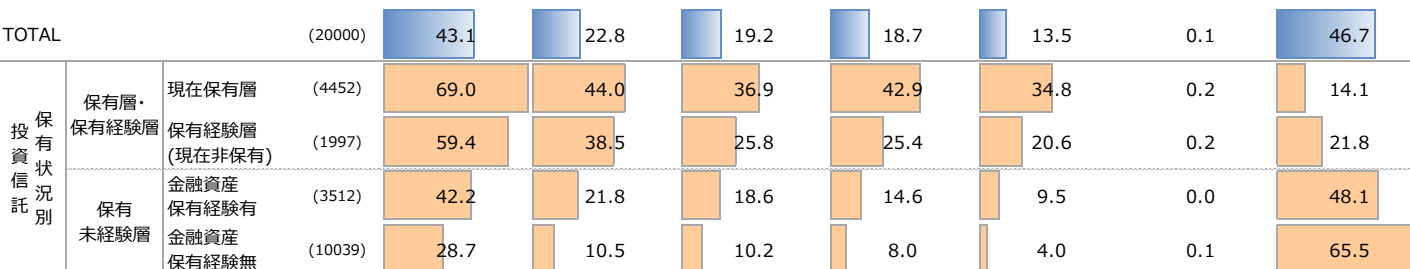
「積立投資プラン」の認知率2019年53.3%／2018年:46.9%(赤枠内のいずれかの特徴を知っている人)

※選択肢「つみたてNISA・確定拠出年金等の税制優遇制度でも活用できる」は2019年より聴取

〔図 7-21〕



〔図 7-22〕

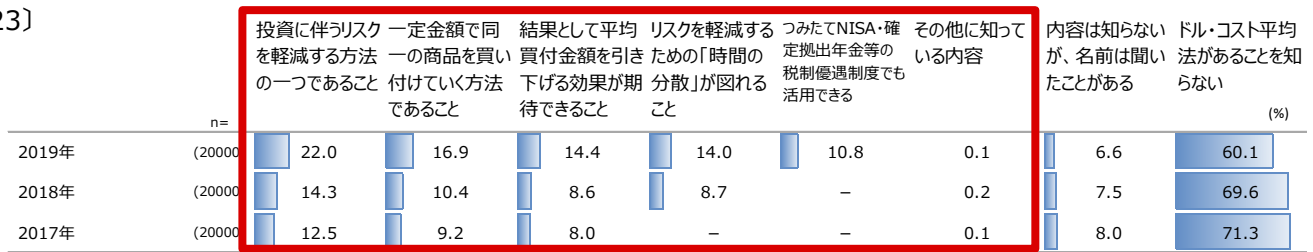


7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(6) ドル・コスト平均法の内容認知〔Q21：重複回答〕

- ドル・コスト平均法は、前回に比べて「あることを知らない」(60.1%)が9.5ポイント減少し、認知率は40%程度。内容では、「投資のリスク軽減法の一つ」(22.0%)が最も高く、前回に比べて7.7ポイント増加。〔図7-23〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 世帯年収が高いほど「あることを知らない」は低くなり、各項目の認知率も増加傾向。〔図7-24〕
- 投信現在保有層は他層に比べてどの項目も高いが、中でも「投資のリスク軽減法の一つ」が最も高い。〔図7-25〕

〔図 7-23〕



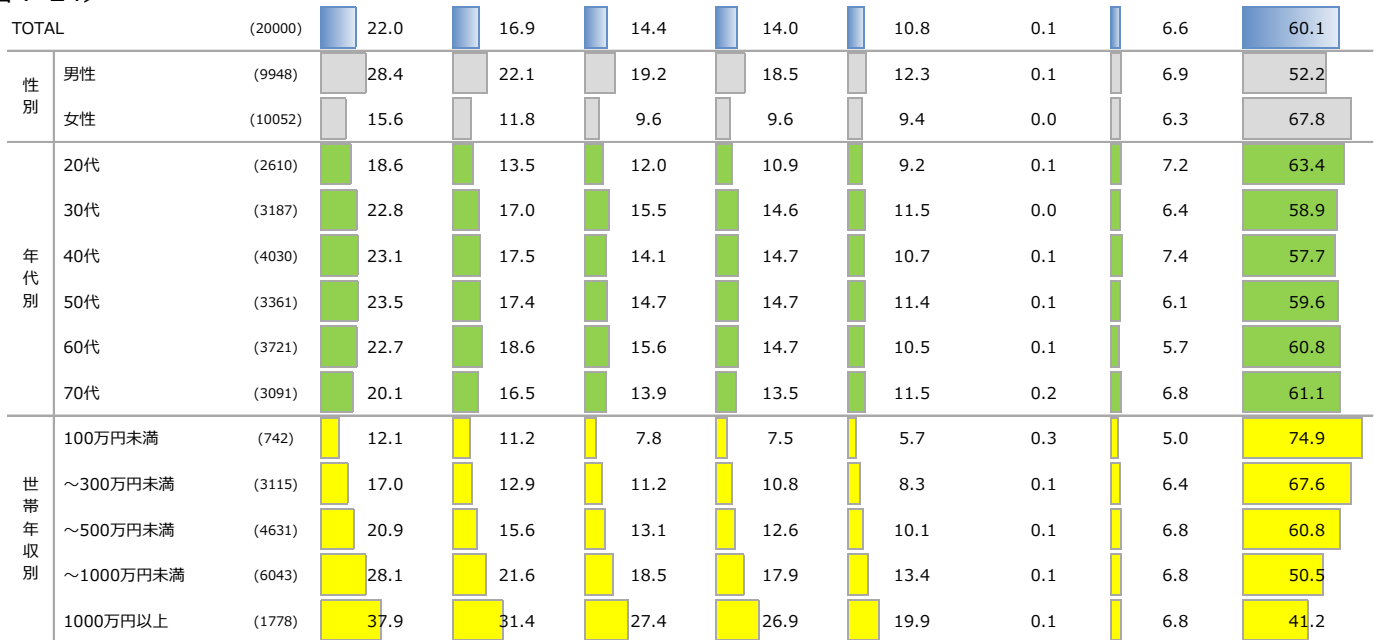
「ドル・コスト平均法」の内容認知率2019年：33.4%/2018年：22.9%/2017年：20.7%(赤枠内のいずれかの特徴を知っている人)

※内容認知率には、「財形貯蓄や確定拠出年金で活用できること」2017年(5.9%)、2018年(6.4%)

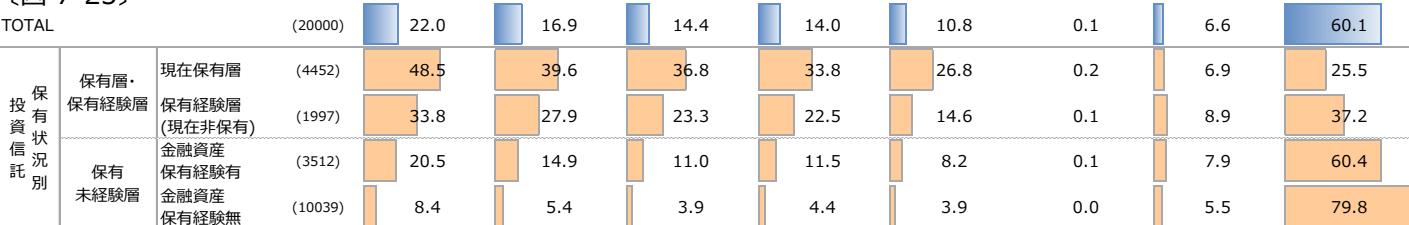
「長時間かけて資産形成をしたい人に向いている投資方法」2017年(8.8%)を含む

※選択肢「リスクを軽減するための「時間の分散」が図れること」は2018年より聴取、「つみたてNISA・確定拠出年金等の税制優遇制度でも活用できる」は2019年より聴取

〔図 7-24〕



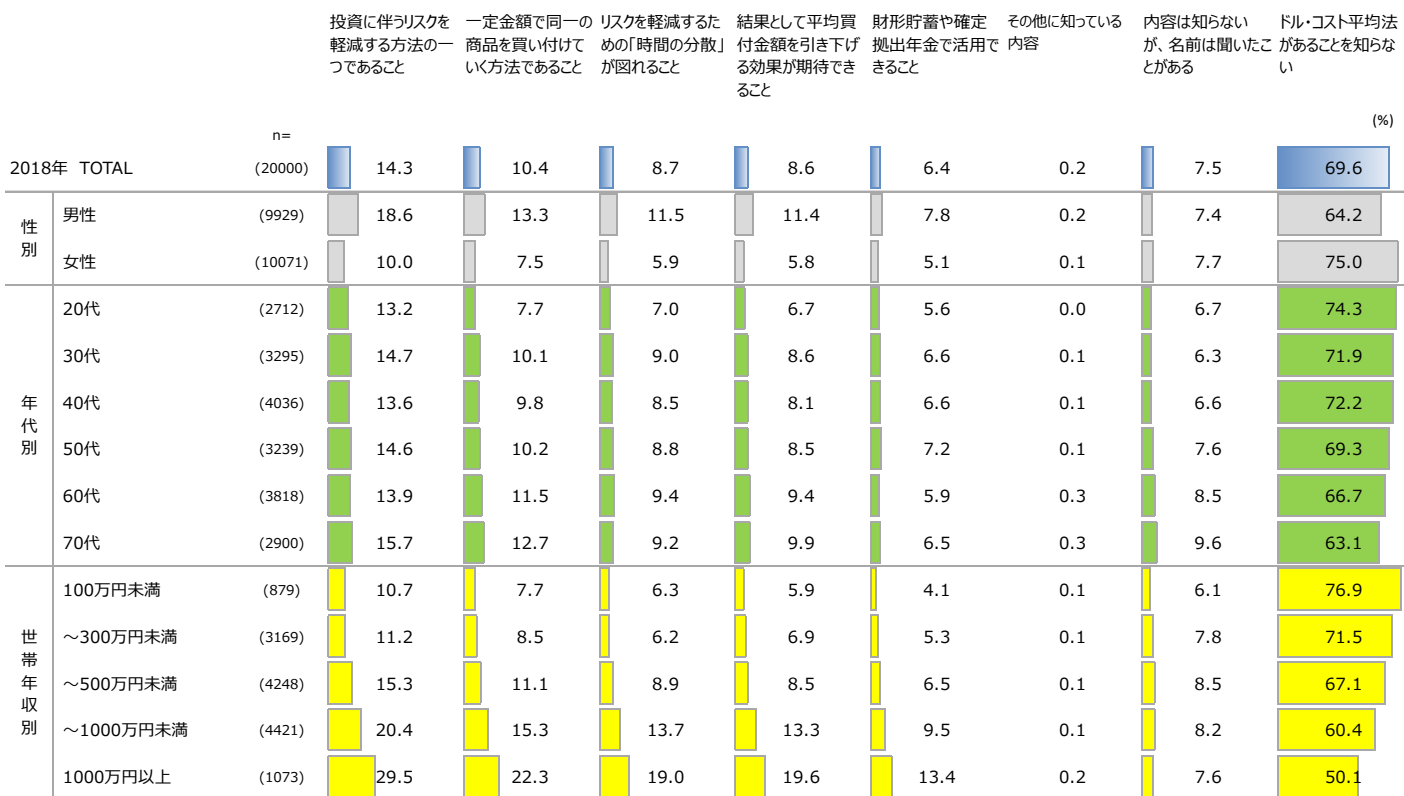
〔図 7-25〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（6）ドル・コスト平均法の内容認知〔Q21：重複回答〕

〔図 7-26〕 2018年度結果 年代別、世帯年収別

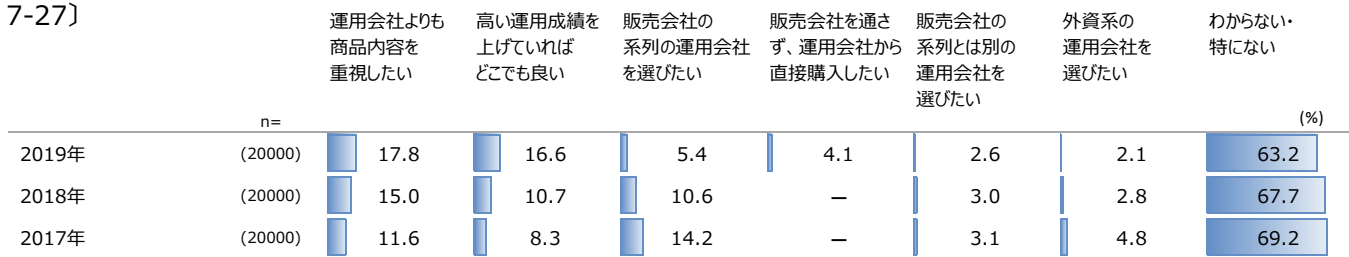


7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（7）投資信託運用会社に対する考え〔Q17：重複回答〕

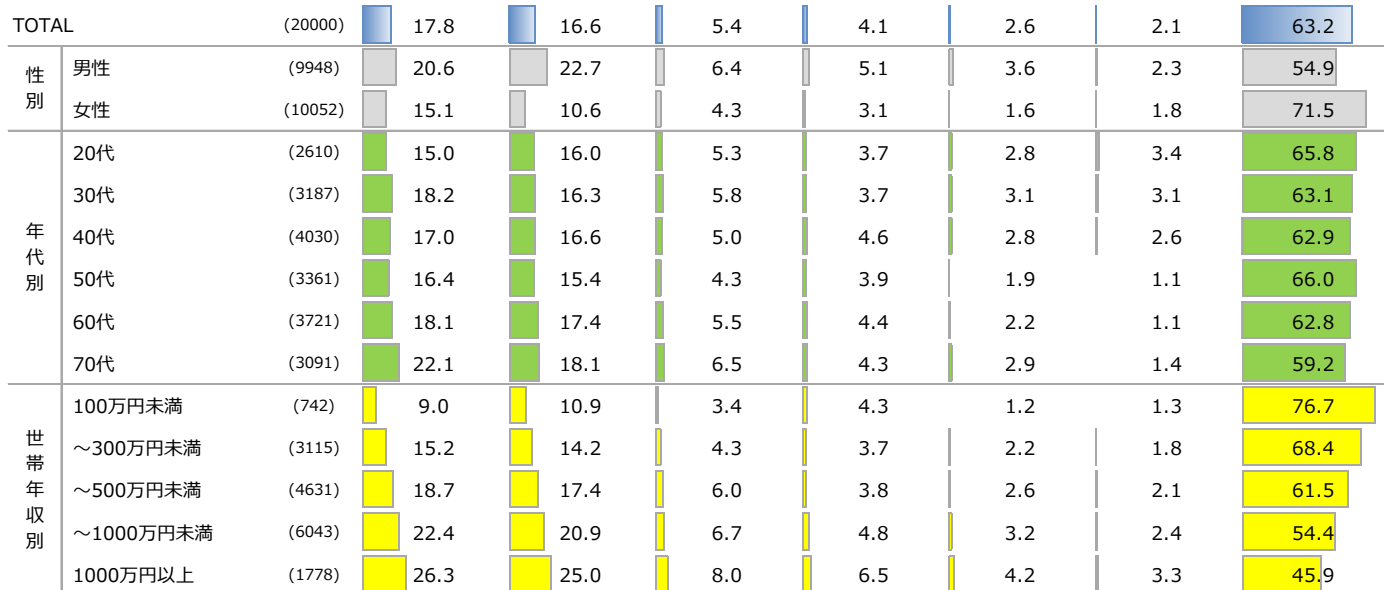
- 投資信託の運用会社選択では「運用会社より商品内容を重視したい」(17.8%)、「高い運用成績を上げていればどこでも良い」(16.6%)が上位2項目。「高い運用成績を上げていればどこでも良い」は前回に比べて5.9ポイント増加し、「販売会社系列を選びたい」(5.4%)は5.2ポイント減少。〔図7-27〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 投信現在保有層は、「運用会社より商品内容を重視したい」「高い運用成績を上げていればどこでも良い」が他層に比べて高い。〔図7-29〕

〔図 7-27〕

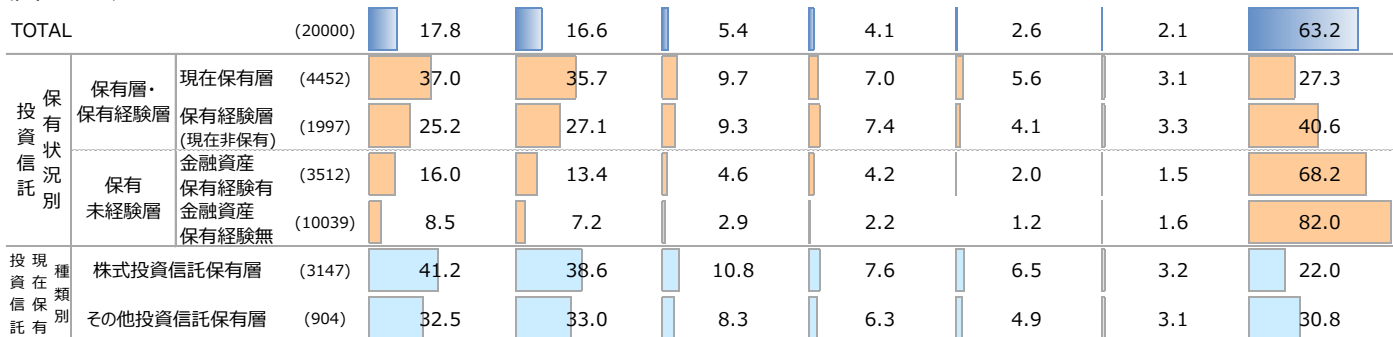


※選択肢「販売会社を通さず、運用会社から直接購入したい」は2019年より聴取

〔図 7-28〕



〔図 7-29〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（8）投資信託購入の際の、運用会社の重視点〔Q18：重複回答〕

- 運用会社の重視点では、「運用実績」(43.2%)、「資本力」(25.1%)、「知名度」(21.7%)が上位。「知名度」「アフターサービス」は前回よりやや減少。〔図7-30〕 * 今回の変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別で見ると、「運用実績」は年代が高くなるほど増加する傾向。〔図7-31〕
- 投信保有状況別では、投信現在保有層・保有経験層で「運用実績」が他層に比べて高い傾向。〔図7-32〕

〔図 7-30〕

	n=	運用実績	資本力	知名度	運用体制	アフターサービス	情報提供力	商品開発力	グループ力	その他	わからない・特にない (%)
2019年	(20000)	43.2	25.1	21.7	16.6	14.8	13.5	10.9	9.7	0.4	42.5
2018年	(20000)	41.3	27.3	27.2	15.5	19.5	13.1	8.9	11.2	0.4	42.0
2017年	(20000)	34.3	26.3	17.9	14.9	19.8	—	9.3	9.5	0.3	49.1

〔図 7-31〕 ※選択肢「情報提供力」は2018年より聴取

		n=	運用実績	資本力	知名度	運用体制	アフターサービス	情報提供力	商品開発力	グループ力	その他	わからない・特にない (%)
TOTAL		(20000)	43.2	25.1	21.7	16.6	14.8	13.5	10.9	9.7	0.4	42.5
性別	男性	(9948)	45.3	24.7	20.9	17.0	12.2	13.8	11.6	10.2	0.5	39.6
	女性	(10052)	41.0	25.6	22.4	16.2	17.4	13.3	10.1	9.1	0.3	45.4
年代別	20代	(2610)	35.1	24.0	26.2	16.4	16.1	13.4	8.0	11.1	0.2	46.1
	30代	(3187)	42.6	28.3	25.5	20.3	18.1	14.7	9.8	11.6	0.2	41.1
	40代	(4030)	43.0	26.0	21.1	18.3	15.9	14.6	9.5	9.7	0.4	41.4
	50代	(3361)	43.4	22.0	17.3	16.6	13.7	12.9	10.2	7.6	0.4	44.9
	60代	(3721)	45.6	24.2	19.0	14.8	12.6	12.8	13.7	9.0	0.5	42.7
	70代	(3091)	47.5	26.1	22.5	13.1	12.6	12.6	13.4	9.3	0.6	39.5
世帯年収別	100万円未満	(742)	26.8	15.5	16.7	13.5	12.4	10.6	6.7	6.2	1.2	57.8
	～300万円未満	(3115)	38.5	22.7	19.5	15.0	15.2	13.7	10.3	8.8	0.5	47.3
	～500万円未満	(4631)	45.8	26.6	24.0	16.9	15.4	13.3	10.8	9.4	0.4	39.5
	～1000万円未満	(6043)	51.2	29.9	25.2	18.8	16.3	15.3	12.4	11.7	0.3	32.8
	1000万円以上	(1778)	55.2	28.6	23.5	22.4	16.1	16.3	16.6	13.4	0.7	28.3

〔図 7-32〕

		n=	運用実績	資本力	知名度	運用体制	アフターサービス	情報提供力	商品開発力	グループ力	その他	わからない・特にない (%)	
TOTAL		(20000)	43.2	25.1	21.7	16.6	14.8	13.5	10.9	9.7	0.4	42.5	
保有状況別	保有層・保有経験層	現在保有層	(4452)	63.3	34.5	26.5	21.8	12.3	17.5	18.1	14.1	0.5	16.0
		保有経験層(現在非保有)	(1997)	59.9	30.2	26.1	18.9	13.4	14.9	14.9	13.0	0.9	20.6
	未経験層	保有	(3512)	46.0	26.1	21.8	18.1	16.7	15.1	10.8	9.1	0.6	41.9
		保有経験無	(10039)	29.9	19.6	18.6	13.4	15.5	11.0	6.9	7.2	0.2	58.8
現在保有種類別	株式投資信託保有層	(3147)	66.5	37.1	28.5	23.3	12.0	19.1	19.5	15.2	0.5	12.1	
	その他投資信託保有層	(904)	63.4	31.9	22.6	21.1	13.5	15.7	18.1	13.2	0.6	16.7	

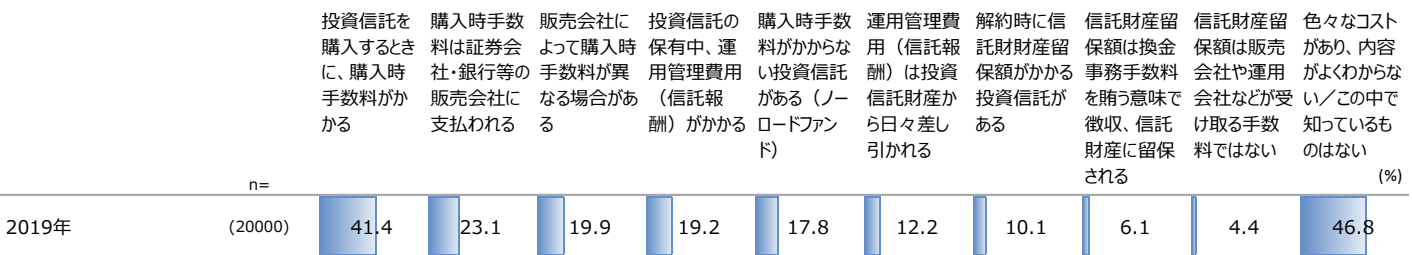
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（9）投資信託のコスト特徴認知状況〔Q27:重複回答〕

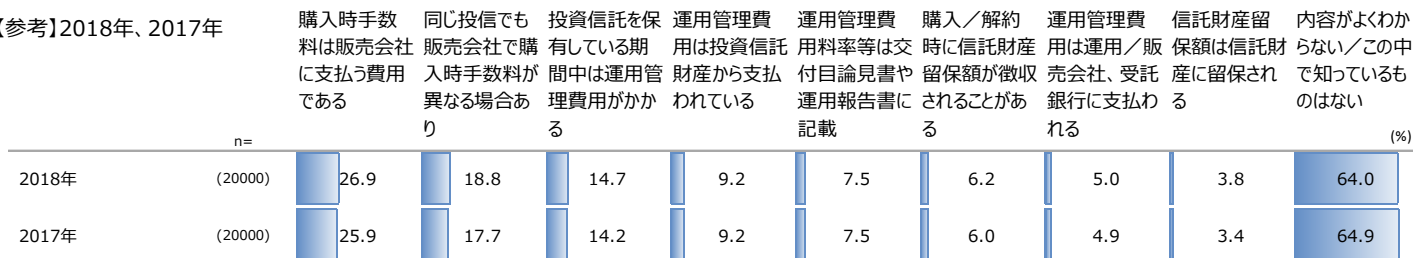
- 投資信託にかかるコストの特徴認知については、「購入時手数料がかかる」(41.4%)が最も高く、「購入時手数料は販売会社に支払われる」(23.1%)、「販売会社により購入時手数料が異なる場合がある」(19.9%)、「保有中、運用管理費用がかかる」(19.2%)、「購入時手数料がかからない投信がある」(17.8%)が上位で続く。〔図7-33〕
- 認知上位項目では、年代、世帯年収が高くなるにつれて認知率も高くなるものが多いが、「購入時手数料がかからない投信がある」は年代での違いはみられない。〔図7-34〕
- 投資信託の保有未経験(金融資産保有経験無)層では、どの特徴も知らない人が68.3%と高い。〔図7-35〕

〔図 7-33〕

※2018年までは投資信託の「手数料」の認知、2019年は投資信託の「コスト」の認知を聴取。



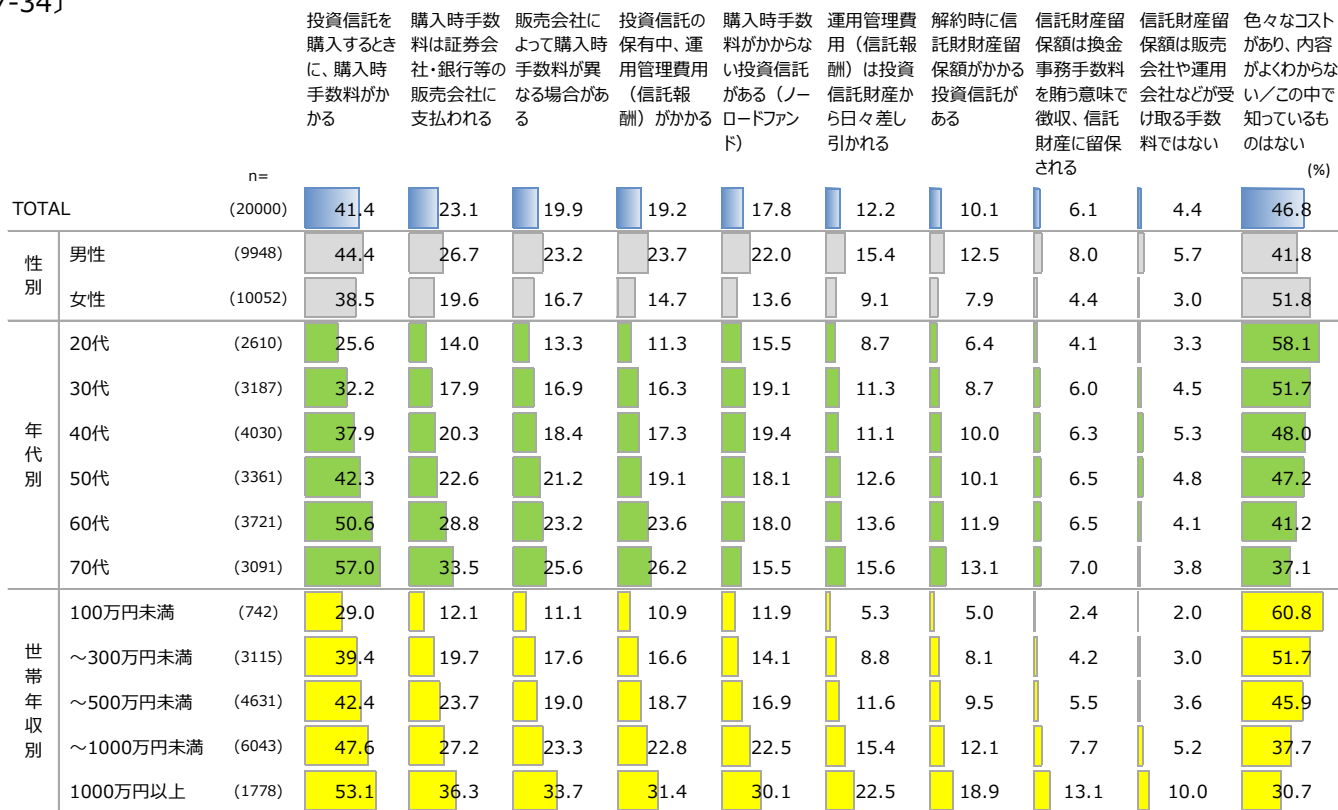
【参考】2018年、2017年



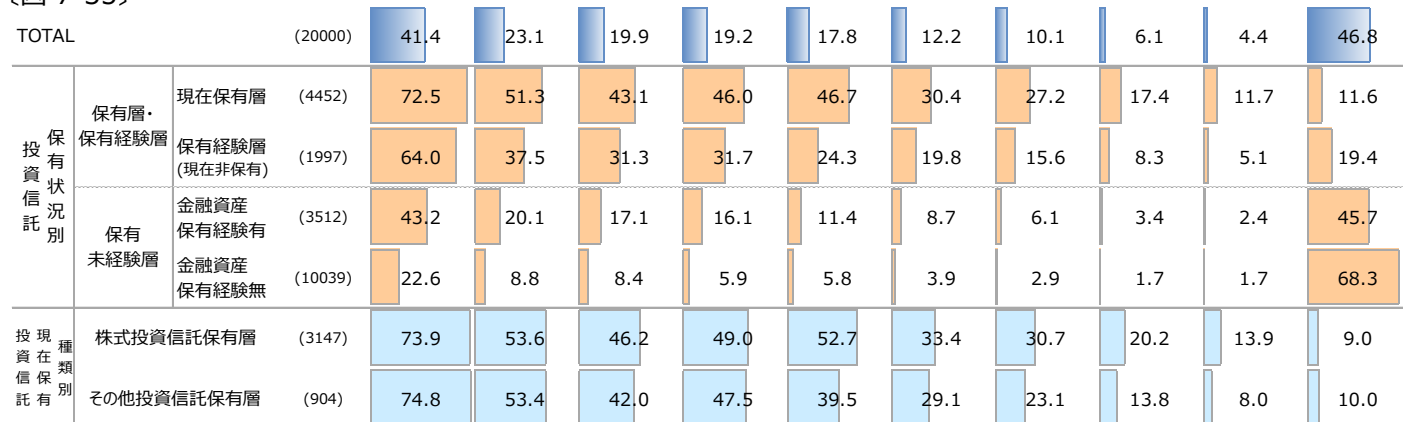
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(9) 投資信託のコスト特徴認知状況〔Q27:重複回答〕

〔図 7-34〕



〔図 7-35〕



末尾添付資料：調査票



添付資料：調査票

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q1 あなたはこれまでに「現金・預貯金（円）以外の金融資産」を保有したことがありますか。

※ 「現金・預貯金（円）以外の金融資産」・・・外貨預金、株式、債券（国債・公社債など）、投資信託、FX、ETF、リートなど。土地や不動産、保険は除きます。

- 1 保有したことがある
- 2 保有したことはない

<Q2聴取対象：金融資産保有経験者(Q1=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q2 あなたはこれまでに投資信託を保有したことがありますか。

※ 「投資信託」とは、複数の投資家から出資されたお金を一つの資金としてまとめ、ファンドマネージャーなどの資金運用の専門家が、株式や債券、リートなどに投資し、その成果（利益）を投資家に還元する金融商品のことを指します。

- 1 現在保有している
- 2 以前保有していたが、現在は保有していない
- 3 今まで保有したことがない

<Q3聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q3 あなたは投資信託をどの口座で保有していますか？

- 1 特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座
- 2 NISA
- 3 つみたてNISA
- 4 企業型DC（企業型確定拠出年金）
- 5 iDeCo（個人型確定拠出年金）
- 6 その他
- 7 わからない・忘れた

<Q4聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q4 現在あなたが保有している投資信託の本数は、全部で何本ですか。

※ 同じ商品でも、コースや型・為替ヘッジの有無などで複数保有している場合は、それぞれを1本としてお答えください。

- 1 1～2本
- 2 3～5本
- 3 6～10本
- 4 11本以上
- 5 わからない・答えたくない

<Q5聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q5 あなたが直近で、新しく投資信託を購入した時期を教えてください。

※ 既に保有していた投資信託の買い増しではなく、これまで保有していなかった投資信託を新しく購入した時期についてお答えください。

- 1 1年未満
- 2 1年以上～2年未満
- 3 2年以上～5年未満
- 4 5年以上前
- 5 わからない・答えたくない

<Q6聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q6 現在あなたが保有している投資信託の主な投資対象または種類につきましてお答えください。

- 1 国内株式に投資する投資信託
- 2 国内債券に投資する投資信託
- 3 外国株式に投資する投資信託
- 4 外国債券（国債、ハイイールド債等）に投資する投資信託
- 5 国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託
- 6 外国の不動産投信に投資する投資信託
- 7 株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託
- 8 E T F
（株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの）
- 9 国内不動産投信（Jリート）
（不動産に投資する投資信託で、日本の証券取引所に上場しているもの）
- 10 その他
- 11 わからない・答えたくない

<Q7聴取対象：現在保有している投資信託の種類回答者(Q6=1～9のいずれか回答)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q7 現在あなたが保有している投資信託の、種類ごとの保有金額と、合計での保有金額を教えてください。

	1 100万円未満	2 100万円～300万円未満	3 300万円～500万円未満	4 500万円～800万円未満	5 800万円～1000万円未満	6 1000万円以上	7 わからない・答えたくない
1 国内株式に投資する投資信託 Q6で『1.国内株式に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
2 国内債券に投資する投資信託 Q6で『2.国内債券に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
3 外国株式に投資する投資信託 Q6で『3.外国株式に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
4 外国債券（国債、ハイイールド債等）に投資する投資信託 Q6で『4.外国債券（国債、ハイイールド債等）に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
5 国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託 Q6で『5.国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
6 外国の不動産投信に投資する投資信託 Q6で『6.外国の不動産投信に投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
7 株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託 Q6で『7.株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託』 いずれかを選択した方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
8 E T F （株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの） Q6で『8.E T F（株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの）』 いずれかを選択した方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
9 国内不動産投信（Jリート） （不動産に投資する投資信託で、日本の証券取引所に上場しているもの） Q6で『9.国内不動産投信（Jリート）（不動産に投資する投資信託で、日本の証券取引所に上場しているもの）』 いずれかを選択した方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
10 総合計（保有している投資信託の金額の合計）	→ ●	●	●	●	●	●	●

<Q8聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q8 投資信託に興味・関心を持ったきっかけや、購入したきっかけとしてあてはまるものを全てお答えください。

- 1 証券会社、銀行などの金融機関の人に勧められて
- 2 証券会社、銀行などの金融機関から送られてきたダイレクトメール（資料や案内状）を見たり、金融機関からの電話案内を聞いて
- 3 講演会やセミナーなどで、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて
- 4 投資信託の商品広告などを見て
- 5 投資信託に関する本を読んで
- 6 新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て
- 7 インターネットで投資信託について見たり調べたりして
- 8 SNS(Facebook, Twitter, Instagram等)からの情報を通じて
- 9 家族や友人などから、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて
- 10 少額投資非課税制度（NISA、ジュニアNISA、つみたてNISA）が始まったので
- 11 確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った
- 12 確定拠出年金で投資信託を選択して良かったので、他の口座でも購入した
※ 確定拠出年金と同じ金融機関の他の投資用口座も含む
- 13 景気や市場（相場）の状況を見て
- 14 経済的に余裕ができたので
- 15 「老後2000万円」に関する各種報道を受けて
- 16 その他

<Q9聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q9 どのような目的で投資信託を購入しましたか。あてはまるものを全てお答えください。

- 1 結婚資金
- 2 高額商品の購入資金
- 3 レジャー資金
- 4 老後の生活資金
- 5 住宅資金
- 6 事業用資金
- 7 子供又は孫のための教育などの資金
- 8 子供や孫に十分な資産を残したいため
- 9 資産のリスク分散
- 10 金融・経済・投資の勉強のため
- 11 金銭的に余裕のある生活をするため
- 12 不測の事態（病気、失業、自然災害など）への備え
- 13 その他（具体的に)
- 14 特に目的はないが資金を増やしたいため

<Q10聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q10 あなたは、投資信託を購入した際にどのような点を重視しましたか。また今後、投資信託を購入する場合に重視する点はどれでしょうか。

それぞれ重視度の高い項目を、最大で3つまでお答えください。

	1 投資信託を購入した際に重視した点	2 今後、投資信託を購入する場合に重視したい点
1 過去の運用実績	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 値下がりの不安が少ない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 値上がりへの期待	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 換金のしやすさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 分配頻度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 過去の分配金額	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 手数料や運用管理費用（信託報酬）の水準	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 純資産額の大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 少額から投資できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 評価会社による評価	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 商品内容のわかりやすさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 社会性が高い企業が投資先である（ESG投資など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 その他の商品コンセプト（投資対象、投資テーマ、運用方針など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 その他	<input type="text"/>	<input type="text"/>
15 わからない・特にない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

<Q11聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q11 あなたが投資信託商品を購入する時に参考にしている情報を全てお答えください。

- 1 販売用資料（商品内容のパンフレット）
- 2 目論見書（投資信託説明書）・運用報告書
- 3 投資信託を販売している会社（証券会社、銀行など）のホームページ
- 4 投資信託を運用している会社（アセットマネジメント）のホームページ
- 5 新聞
- 6 投資信託の評価機関（モーニングスターなど）
- 7 投資に関する情報サイト（Yahoo!ファイナンスなど）
- 8 SNS(Facebook, Twitter, Instagram等)からの情報
- 9 その他のインターネットの情報サイト（ファイナンシャルプランナーや個人投資家のブログなど）
- 10 雑誌
- 11 投資信託や資産運用に関する本
- 12 テレビ番組
- 13 投資や資産形成に関するセミナーなど
- 14 金融機関（証券会社、銀行など）の担当者の話
- 15 親族や知人、友人の話
- 16 その他
- 17 特になし

Q12 次にあげる投資信託の特徴の中で、あなたが知っているものを全てお答えください。

- 1 MRFは投資信託商品である
- 2 国内の投資信託と海外の投資信託がある
- 3 価格の変動があり、その他に外国に投資するものには為替リスクがある
- 4 リスクとリターンは表裏一体の関係にある（高いリターンを得ようとすれば、高いリスクを伴う）
- 5 元本の保証はない
- 6 銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる
- 7 投資信託は、信託銀行で分別管理されている
※ 分別管理とは、信託銀行が、自行と顧客の資産を分けて保管・管理することです
- 8 投資信託は、運用会社が運用している
- 9 販売手数料とは別に運用管理費用（信託報酬）がかかる
- 10 投資信託の評価を行う会社がある
- 11 基準価額は新聞や投資信託協会のホームページでも見ることができる
- 12 NISA（少額投資非課税制度）やDC（確定拠出年金）で投資信託が購入できる
- 13 この中で知っているものはない

<Q13聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q13 次にあげる投資信託の「分配金」の特徴について、知っているものを全てお答えください。

- 1 一般的に分配金額は、預金の利率のようにあらかじめ決まっているものではなく、運用成績によって変動する
- 2 分配金は投資信託の決算ごとに支払われる
- 3 投資信託の運用成績が良くないときには、分配金額が下がったり、支払われない場合がある
- 4 分配金として元本の一部が払い戻されることもある
- 5 分配金が支払われた額だけ、基準価額（投資信託の値段）が下がる
- 6 この中で知っているものはない

<Q14聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q14 投資信託を売却したり、あるいは償還によって得たお金は、何に使いましたか。あてはまるものを全てお答えください。

- 1 すぐに株式、債券など、投資信託以外の金融商品を購入した
- 2 すぐに他の投資信託を購入した
- 3 次に金融商品を購入する機会を何う為（待つ為）、預貯金・MRFなどにまわした
- 4 生活資金として引き出した
- 5 まとまった支出にあてた ※生活資金にあてた場合を除く
- 6 その他
- 7 売却したことはない、償還によってお金を得たことはない

<Q15聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q15 あなたは、他の金融商品と比較した場合、どのような面で投資信託が優れていると考えますか。あてはまるものを全てお答えください。
また、そのうち特に魅力を感じている点を1つあげてください。

※ 「他の金融商品」とは、投資信託を除いた株式、債券、FXなどを指します。**預貯金や不動産は含みません。**

	1 他の金融商品と比べて投資信託が優れている点	2 その中で特に魅力を感じている点
1 少額でも分散投資ができる	■	●
2 少額でも投資の面白味がある	■	●
3 専門知識や時間がなくても投資ができる（専門家に銘柄選定や運用をお任せできる）	■	●
4 種類が豊富で目的に応じたものが選べる	■	●
5 比較的高い利回りが期待できる	■	●
6 積立投資ができる	■	●
7 分配金が自動的に再投資される商品がある	■	●
8 定期的に分配金が受け取れる	■	●
9 購入後の運用に関する情報が多い（運用報告書などが充実している）	■	●
10 購入手続きが簡単である	■	●
11 海外投資が手軽にできる	■	●
12 手数料が比較的安い	■	●
13 その他 <input type="text"/>	■	●
14 わからない・特になし	■	●

<Q16聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q16 では、他の金融商品と比較した場合、投資信託で不満を感じるのどのような点ですか。あてはまるものを全てお答えください。
そのうち特に不満を感じている点を1つあげてください。

	1 他の金融商品と比べて投資信託に不満を感じる点	2 その中で特に不満を感じている点
1 仕組みや運用手法がわかりにくい	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2 専門知識がないと商品を選びにくい	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3 リターン（収益）が低い	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
4 株式に比べて面白さに欠ける	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5 公社債に比べてリスクが高い	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
6 購入後の運用に関する情報が少ない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
7 手続きがわずらわしい	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
8 手数料が比較的高い	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9 種類が多く選択に迷う	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
10 クローズド期間（換金・解約できない期間）がある	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
11 元本保証がない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
12 その他 <input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
13 わからない・特にない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

添付資料：調査票

Q17 投資信託は、商品の設定・運用を行う運用会社から委託を受けて、証券会社や銀行などが販売を行っています。

投資信託の運用会社について、あなたのお考えに近いものをいくつかでもお答えください。

- ※ 運用会社が直接販売を行っている場合もあります。
- ※ 今までに投資信託を購入したことが無い方は、想定でお答えください。

<input type="checkbox"/>	1 高い運用成績を上げていればどこでも良い
<input type="checkbox"/>	2 運用会社よりも商品内容（投資信託）を重視したい
<input type="checkbox"/>	3 販売会社の系列の運用会社を選びたい
<input type="checkbox"/>	4 販売会社の系列とは別の運用会社（独立系）を選びたい
<input type="checkbox"/>	5 外資系の運用会社を選びたい
<input type="checkbox"/>	6 販売会社を bypass せず、運用会社から直接購入したい
<input type="checkbox"/>	7 わからない・特にない

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q18 投資信託を購入する場合、あなたは運用会社のどのような点を重視しますか。

- ※ 今までに投資信託を購入したことが無い方は、想定でお答えください。

<input type="checkbox"/>	1 知名度
<input type="checkbox"/>	2 資本金
<input type="checkbox"/>	3 グループ力
<input type="checkbox"/>	4 運用実績
<input type="checkbox"/>	5 運用体制
<input type="checkbox"/>	6 商品開発力
<input type="checkbox"/>	7 情報提供力（ホームページや資料が充実している）
<input type="checkbox"/>	8 アフターサービス
<input type="checkbox"/>	9 その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	10 わからない・特にない

<Q19聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

Q19 現在あなたは、投資信託の積立投資を利用していますか。

- 1 利用している
- 2 利用していない

Q20 投資信託の積立投資プランについて、知っている内容はどのようなことですか。

- 1 少額から利用できること
- 2 自動引き落としが利用でき、そのつど申し込む必要がないこと
- 3 ドル・コスト平均法の効果が得られること
- 4 長い時間をかけて資産運用したい人に向いていること
- 5 つみたてNISAや確定拠出年金等の税制優遇制度の中でも活用できること
- 6 その他に知っている内容
- 7 積立投資プランがあることを知らない

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q21 積立投資の効果としてドル・コスト平均法がありますが、どのような内容か知っていますか。

- 1 投資に伴うリスクを軽減する方法の一つであること
- 2 一定金額で同一の商品を買い付けていく方法であること
- 3 基準価額が高い時には購入口数が少なく、低い時には多くなり、結果として平均買付金額が引き下げる効果が期待できること
- 4 リスクを軽減するための「時間の分散」が図れること
- 5 つみたてNISAや確定拠出年金等の税制優遇制度の中でも活用できること
- 6 その他に知っている内容
- 7 ドル・コスト平均法の内容は知らないが、名前は聞いたことがある
- 8 ドル・コスト平均法があることを知らない
Q20で『3.ドル・コスト平均法の効果が得られること』 いずれかを選択しなかった方のみ

<Q22聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

Q22 現在あなたは、毎月分配型の投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの）を保有していますか。

- 1 保有している
- 2 保有していない
- 3 わからない・答えたくない

Q23 あなたは、毎月分配型の投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの）に魅力を感じますか。

- 1 魅力を感じる
- 2 やや魅力を感じる
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり魅力を感じない
- 5 魅力を感じない

<Q24聴取対象：毎月分配型投資信託に魅力を感じる層(Q23=1~2)>

Q24 毎月分配型の投資信託に魅力を感じる理由は何ですか。

- 1 毎月利益を確定したいので
- 2 分配金を受け取ることで安心できるので
- 3 元本の一部払戻しの分配金であっても、年金収入を補完する上で活用できると思うので
- 4 毎月分配型投資信託の他に魅力的な商品がなかった
- 5 その他

<Q25聴取対象：毎月分配型投資信託に魅力を感じていない層(Q23=3~5)>

Q25 毎月分配型の投資信託に魅力を感じない理由は何ですか。

- 1 分配金は必要ではないので
- 2 長期投資に合わないので
- 3 複利効果が得られないので
- 4 分配金額が変動する場合があるので
- 5 分配金が少ないので
- 6 分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので
- 7 分配金の額だけ基準価額が下がるので
- 8 その他

<Q26聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

Q26 あなたは、トータルリターン通知制度を知っていますか。

※ トータルリターン通知制度とは、保有している投資信託の、分配金込みでの投資期間全体の損益（トータルリターン）を書面等で通知する制度です。

- 1 知っている
- 2 知らない

添付資料：調査票

Q27 次にあげる投資信託のコストに関する項目の中で、あなたが知っているものを全てお答えください。

- 1 投資信託を購入するときに、購入時手数料がかかる
- 2 購入時手数料が、かからない投資信託がある（ノーロードファンド）
- 3 購入時手数料は証券会社や銀行などの販売会社に支払われる
- 4 同じ投資信託でも販売会社によって購入時手数料が異なる場合がある
- 5 投資信託の保有中、運用管理費用（信託報酬）がかかる
- 6 運用管理費用（信託報酬）は投資信託財産から日々差し引かれる
- 7 解約時に信託財産留保額がかかる投資信託がある
- 8 信託財産留保額は換金に必要な事務手数料を賄うという意味で徴収され、信託財産に留保される。
- 9 信託財産留保額は販売会社や運用会社などが受け取る手数料ではない。
- 10 色々なコストがあり、内容がよくわからない／この中で知っているものはない

<Q28聴取対象：投資信託保有未経験者 (Q2=3,Q1=2)>

Q28 あなたが投資信託を購入したことがない理由は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。

- 1 投資信託の存在を知らなかったため
- 2 投資の知識がないため
- 3 投資信託の仕組みがよくわからないため
- 4 元本保証がないため
- 5 損をしそうで怖いので
- 6 まとまった資金がないため
- 7 手数料など費用が高いので
- 8 商品の種類が多く自分では選択できないため
- 9 購入するのに手間がかかるので
- 10 投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいいから
- 11 なんとなく機会がなかったため
- 12 そもそも興味がないので
- 13 その他

<Q29聴取対象：投資信託保有未経験者 (Q2=3,Q1=2)>

Q29 あなたが、投資信託の購入を検討するきっかけとなりそうな項目を、全てお答えください。

- 1 身近な人（家族・友人など）に勧められたら
- 2 金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら
- 3 初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら
- 4 金融や投資を勉強して理解できたら
- 5 貯蓄が一定額に達したら
- 6 手取り収入が増えたら
- 7 退職金・相続などでの臨時収入があったら
- 8 低リスクの投資信託商品が充実してきたら
- 9 手数料の低い投資信託商品が充実してきたら
- 10 経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら
- 11 税制上の優遇措置が、より拡充してきたら
- 12 職場で確定拠出年金や職場つみたてNISA等の利用環境が整備されたら
- 13 その他

添付資料：調査票

Q30 あなたの性別を教えてください。

1 男性

2 女性

Q31 あなたの年齢をお答えください。

1 歳

Q32 あなたの職業をお知らせください。

1 会社員・非営利団体職員

2 会社役員・経営者

3 派遣・契約社員

4 公務員

5 自由業（医師・弁護士など）

6 農林漁業

7 自営業（農林漁業を除く）

8 パート・アルバイト・フリーター

9 専業主婦/主夫

10 大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

11 無職、定年退職

12 その他の職業

添付資料：調査票

Q33 あなたの世帯年収と、個人年収をお知らせください。

	1 あなたの世帯年収	2 あなたの個人年収
	↓	↓
1 100万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 100～300万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 300～500万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 500～800万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 800～1000万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 1000～1500万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 1500万円以上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 わからない・答えたくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q34 あなたの世帯で保有されている「金融資産」(※)の概算の評価額としてあてはまるものをお選びください。

※ 「金融資産」・・・預貯金、社債や国債などの債券・株、投資信託、生命保険のうち満期金のあるもの、貸出金など。
土地や不動産は除きます。

<input type="radio"/> 1 500万円未満
<input type="radio"/> 2 500万円～1000万円未満
<input type="radio"/> 3 1000万円～3000万円未満
<input type="radio"/> 4 3000万円～5000万円未満
<input type="radio"/> 5 5000万円～1億円未満
<input type="radio"/> 6 1億円～5億円未満
<input type="radio"/> 7 5億円以上
<input type="radio"/> 8 わからない・答えたくない